仙台市文化財調査報告書第83集

年　報　6

昭　和　59　年　度

昭和60年 3 月

仙　台　市　教　育　委　員　会

仙台市文化財調査報告書第83集

年　報　6

昭　和　59　年　度

昭和60年3月

仙　台　市　教　育　委　員　会

ごあいさつ

近年、社会情勢のながれのひとつに生涯学習社会の形成と、その条件整備があげられます。こうした背景には高齢化社会の至来、余暇時間の増大、情報の滲透という大きな社会変動のあらわれにすぎませんが、一方では地域社会の見直しもまた新しい地域社会創造に向けて進行つつあります。

ここに50年代から60年代へ移行する中で展開されているこうした動きは、改めて地域社会がもってきたすべての事象について直視し分析することからはじまり、それを基本として人間復権へ向けての地域づくりが今こそ嘱望されているともいえましょう。先人の証ともいえる文化財資源は、こうしたなかでこそ、地域社会のアメニティ要素として、また生涯学習資源として重要な意味をもっているものと考えられます。教育委員会は文化財行政の根幹であるこうした資源の保護保存、継承、活用に向けて積極的に取り組んでまいる所存であります。

ここに刊行する年報は、今年度の事業内容について集成したものであります。

これをもって本市の文化財保護行政の一端をご理解いただければ幸勘の至りでございます。

今後共、御指導御助言を切にお願い申し上げご挨拶といたします。

昭和60年３月

仙台市教育委員会

教育長　藤井　　黎

目　　次

序
目　　次
例　　言
Ⅰ．事業報告……1
1．管理関係……1
(1)　一般文化財……1
(2)　補助事業……5
2．調査関係……7
Ⅱ．調査報告……15
中田畑中遺跡……16
川添東遺跡……31
若林城跡……37
伊古田遺跡……43
Ⅲ．その他
郡山遺跡第1次五ケ年発掘調査の概要……51
「東北古代稲作に関するシンポジウム」参加報告……54
山口遺跡土壌のプラントオパール分析報告……56

例　　言

1．本書は、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係、文化財調査係が昭和59年度に行った文化財の調査、普及・啓蒙活動、保護管理に関する各事業についての年度報告書である。
2．調査報告は、昭和59年度実施した発掘調査のうち独自に概報もしくは報告書にまとめるに至らなかった小規模な発掘調査4件の概報を掲載した。
3．調査報告のうち、中田畑中遺跡・川添東遺跡については田中則和のレポートをもとに、早坂春一が執筆した。図・表等は田中が担当した。
4．本書の編集は、文化財調査係結城慎一、文化財管理係山口宏があたったが、係員全員の協力をあおいだ。

Ⅰ. 事業報告

1　管理関係

(1)　一般文化財

1）文化財保護委員会

本年は、定例会（隔月隅数月）6回及び臨時会1回、計7回開催した。各回の議題等の内容は次のとおりである。

開催月日	報告事項等	審議・協議事項等
4月10日（火）	• 昭和58和度事業概要について • 昭和59年度事業計画について	• 経ケ峯の市史跡指定について（審議）
6月19日（火）		• 経ケ峯伊達家墓所の市史跡指定について　（審議）
8月21日（火）	• 郡山遺跡発掘調査現場視察（第44次、第46次）　• 経ケ峯伊達家墓所の史跡指定告示について	• 仙台城跡の史跡指定問題について　（協議）
10月23日（火）		• 市指定史跡経ケ峯伊達家墓所の現状変更（公子公女廟整備）について　（審議） • 仙台城跡の保存問題について（協議）
12月4日（火）	• 本市の文化財保護行政の現状と課題について	
2月12日（火）		• 仙台市博物館所蔵の文化財指定候補物件について　（協議）
3月28日（木） ※臨時会		• 仙台市博物館所蔵物件の市文化財指定について（視察及び協議）

なお、委員定数（15名）上1名欠員となっていたが、昭和59年8月1日付で補充を行ない、東北大学名誉教授の河上房義氏（専攻：土木工学）を新委員に委嘱した。また、11月30日をもって第11期の任期が満了となり、翌12月1日付で第12期の委員会が発足した。退任、新任の各委員は次のとおりである。

〔退任〕

安倍郁二委員（三島学園大学教授、専攻：工芸）

高橋富雄委員（東北大学教授～昭和60年３月退官、専攻：日本史）

〔新任〕

近江　隆委員（東北大学助教授、専攻：都市計画）

大石直正委員（東北学院大学教授、専攻：日本史）

※大石委員は昭和60年１月１日付で委嘱。

2）文化財パンフレット

今年度においては、第９集として「仙台城跡」を、第10集として「幻の城柵――郡山遺跡」を刊行した。

3）説明板・標柱の設置

今年度においては、説明板２基標柱３基の計５基を設置した。設置箇所は次のとおり。

〔説明板〕　山田上台遺跡、国史跡・陸奥国分尼寺跡（ＧＲＣ製）

〔標　柱〕北目城跡、若林城跡、人来田遺跡（萩ノ台遺跡）

4）「由緒ある町名・通名と八十八辻」辻標の設置

昭和59年12月17日に選定委員会（佐々久委員長）を開催し、その協議結果に基づいて次の５基を設置した。

○山上清水／唸坂（八幡五丁目中村洋服店前）　○茂市ケ坂／元寺小路（本町一丁目第一日本オフィスビル前）　○木ノ下／東街道（木ノ下四丁目猪岡内科医院前）　○六道ノ辻（中央一丁目国鉄北目町通ガード入口）　○鹿落坂／越路（向山二丁目エスパシオ向山前）

今年度設置分を含め、設置総数は44基となった。なお、「由緒ある町名・通名と八十八辻」選定委員会の発足以来委員の任にあたられた森権五郎氏が昭和59年８月２日逝去されたことに伴ない、後任の委員として仙台図南萩陵高等学校教頭の高倉　淳氏に委嘱した。

5）文化財めぐり

市民の文化財に対する理解と認識を深め、あわせて文化財保護思想の高揚をはかるため、市内外の身近に存在する文化財に接する機会として、下記のとおり計５回の文化財めぐりを実施した。

実施月日	行　事　名	講　師　等	参　加　者	コ　ー　ス　等
６月10日(日)	「仙台城跡 みる・きく・考える」	佐藤　憲一 (博物館主査)	高校生以上の市民 115名	仙台城本丸跡～御裏林～二ノ丸～三ノ丸（巽門発掘調査現場）
７月23日(月)	「古墳をたずねて」	文化財調査係職員	小学校５，６年生と親59名	雷神山古墳～三神峯遺跡～遠見塚古墳～法領塚古墳　他
８月18日(土)	「郡山遺跡と多賀城跡」	桑原滋郎（東北歴史資料館）	中学生・高校生　50名	郡山遺跡～東北歴史資料館～多賀城跡

10月14日(日)	「古代の役所と寺院跡をたずねて」	文化財調査係職員	高校生以上の市民　70名	第47次調査区～第24・35次同～第4・7次同～諏訪神社～第12次同～第15次同
11月18日(日)	「岩　切　城　跡」	藤沼邦彦（県文化財保護課） 小井川和夫（東北歴史資料館）	高校生以上の市民　76名	東光寺～磨崖仏・板碑群～国史跡岩切城跡

6）文化財講座・シンポジウム

文化財の啓蒙普及事業として、次のとおり2回の講座及び1回のシンポジウムを実施した。

実施月日	テーマ	会場	講師等	参加者
6月23日(土) 6月30日(土)	第12回文化財講座 「仙台城の魅力をさぐる」 ①“城郭史のなかの仙台城” ②“建築史からみた仙台城”	中央公民館	①小林清治氏（福島大学教授） ②佐藤　巧氏（東北大学教授）	① 102名 ② 101名
7月14日	第13回文化財講座 「郡山遺跡と多賀城」	東長町小学校	桑原滋郎氏（東北歴史資料館研究部長）	120名
8月4日(土)	公開シンポジウム 「郡山遺跡と古代東北」	読売ホール	伊東信雄氏（東北学院大学教授） 岡田茂弘氏（国立歴史民俗博物館教授） 工藤雅樹氏（宮城学院大学教授） 桑原滋郎氏（東北歴史資料館研究部長） 進藤秋輝氏（多賀城跡調査研究所） 藤沼邦彦氏（県文化財保護課）	130名

7）考古展等

次のとおり計6回にわたり開催した。

会期	テーマ	会場	備考
6月16日 ～7月7日	「知られざる名城 仙台城展」	中央公民館 情報コーナー	中央公民館での展示終了後、七十七銀行本店ロビー（7/23～7/28）長銀仙台支店（8/20～9/22）で引続き開催
7月8日 ～9月28日	仙台の考古展〈常設展Ⅰ〉 「仙台の旧石器・縄文時代展」	中央公民館 情報コーナー	
8月2日 ～8月7日	「幻の城柵 —— 郡山遺跡展」	仙台市民ギャラリー	観覧者数 827名　会期中8/4に公開シンポジウム開催（6）参照）

会　期	テ　ー　マ	会　場	備　　考
10月９日 ～12月22日	仙台の考古展〈常設展Ⅱ〉 「仙台の弥生・古墳時代展」	中央公民館 情報コーナー	
１月９日 ～４月７日	仙台の考古展〈常設展〉Ⅲ〉 「仙台の奈良・平安時代展」	中央公民館 情報コーナー	
３月11日 ～３月23日	第７回仙台の考古展 「タイムカプセル富沢」	市役所本庁舎 １階ロビー	3/16及び3/27にスライド上映会を併せて開催

8）文化財の指定

本年度においては、次の物件を仙台市指定記念物として新たに指定した。

種　別	名　称	所在地	指定年月日	所　有　者
記念物（史跡）	経ケ峯伊達家墓所	仙台市霊屋下	昭和59年７月21日	仙台市、宗教法人 瑞鳳寺、他

経ケ峯伊達家墓所の文化財指定により、市指定文化財の総件数は27件、その内、史跡では４件となった。

9）文化財分布調査

仙台市内にある文化財の基本台帳整備のため、岩切地区の遺跡分布調査及び東光寺内の板碑分布調査を実施した。

10）文化財指定候補物件調査

次のとおり建造物３件並びに仏像２件の計５件について委託調査を実施した。

種　別	調査物件の名称	調査委託先
建造物	成覚寺山門、泰心院山門、荘厳寺山門	東北大学工学部教授　佐藤巧氏
仏　像	木造釈迦如来立像、木造雲居国師坐像（いずれも大梅寺蔵）	東北大学文学部教授　上原昭一氏

11）無形民俗文化財記録保存

市内に伝承されている民俗芸能等についての記録作成及び伝承者・団体の意識高揚に資するため開始。本年度は七郷神社白山丹波神楽のビデオ撮影を９月15日(土)に実施した。

12）指定文化財の維持管理

国指定史跡陸奥国分寺跡及び市指定史跡三沢初子の墓などの除草清掃、並びに国指定史跡陸奥国分尼寺跡の除草・樹木剪定を委託により実施した。また、山田上ノ台遺跡についても除草清掃を同じく委託により実施した。

13）文化財の防災点検

恒例の文化財防火デー（１月26日）に伴い、市消防局による事前査察（1/19・1/24・1/25）が計13ケ所で、また防火デー当日には防災訓練が計６ケ所でそれぞれ実施された。

(2) 補助事業

[1] 県費補助事業

1）指定文化財保存事業

大崎八幡神社（国宝・重文）、東照宮（重文）、陸奥国分寺薬師堂（重文）の3件について、防災設備の一部修理・保守点検などの維持管理事業に対し補助を行なった。

2）無形文化財保存事業

宮城県指定無形文化財の館山甲午氏（平曲技術保持者）、甲田綏郎氏（精好仙台平技術保持者）、及び同無形民俗文化財の大崎八幡神社能神楽保存会の計2個人1団体の技術保持事業に対し補助を行なった。

[2] 国庫補助事業

1）史跡陸奥国分寺跡土地買上げ事業

目的：史跡陸奥国分寺跡の保存保護を図るため、史跡指定地の公有化を図る。

土地公有化の実績：土地の公有化は昭和43年度から着手し、昭和58年度末までに社寺有地を中心に主要堂塔跡18,967.32㎡を買収している。

今年度の事業：今年度は南大門跡南側の民有地外2件の民地789.61㎡の公有化を実施した。

2）史跡遠見塚古墳環境整備事業

目的：史跡遠見塚古墳の保存、保護を図ると共に、市民に活用してもらうことを目的として、昭和50年度から環境整備事業を実施している。

実績：昭和50年度からこの事業に着手した。整備の資料をうるため発掘調査を行い、その成果に基づいて、整備工事を行っている。昭和58年度から古墳墳丘部の整備に着手し、昭和61年度までにすべての整備が終了する予定である。

今年度の事業：昨年度に引き続き、古墳墳丘部・前方部の盛土整形工事を実施すると共に、同湟部の表示工事を行った。

今後の事業：60年度、便益施設の設置工事、61年度で説明板の設置工事・修景工事を実施し、最終となる予定である。

3）史跡岩切城跡保存管理計画策定事業

仙台市岩切から利府町神谷沢にまたがり、岩切城跡という中世の山城遺構がある。この山城遺構は昭和57年8月23日付で国の史跡に指定され、この岩切城跡を今後どう保存し活用していくかの基本方針を定めるために、この事業を実施した。保存管理計画を策定するにあたり、学識経験者8名をもって委員会を組織し、その中で基本方針をもんでいただいた。その後、「史跡岩切城跡保存管理計画書」としてまとめ、これからの岩切城跡管理の基本指針としていくものである。

4）郡山遺跡ほか発掘調査事業

郡山遺跡範囲確認調査

今年度は第１次５ケ年計画の最終年度にあたり、Ⅱ期官衙政庁の存在を確認することを目的に第44次、第48次調査の２ケ所で調査を実施した。第44次調査で発見された遺構は、掘立柱建物跡５棟、竪穴住居跡６軒、竪穴遺構１基、溝跡14条、土壙40基、性格不明遺構１基、小柱穴、ピット約130である。このうちⅡ期官衙に属するのは掘立柱建物跡１棟（N－3°－E）のみで、他の掘立柱建物跡、竪穴住居跡などはN－31°～36°－Eの範囲内でおさまり、Ⅰ期官衙に属するものと考えられた。またこの調査区からは、遺構検出時や遺構の堆積土中より土師器、須恵器と共に桝形囲式期の弥生土器片が多数出土した。第48次調査で発見された遺構は、掘立柱建物跡２棟、竪穴住居跡15軒、材木列２列、溝跡３条、土壙15基、井戸跡１基、小柱穴、ピット約380などである。この調査区はⅡ期官衙仮想中軸線が通る位置にあたるが、発見された遺構のうち竪穴住居跡、材木列などはN－33°－EあるいはN－40°－E前後振れたものでⅠ期官衙に属するものばかりであった。

このようにⅡ期官衙政庁の存在が予想された地域であったが、発見された遺構はⅠ期官衙の遺構群が主であった。

この他に同遺跡内で個人住宅の建築、水道管の埋設工事などに伴い「仙台平野の遺跡群」において、発掘調査を実施した。調査は第43、45、46、47、49次の５ケ所で、そのうち成果をおさめたものについて記しておく。第43次調査では、Ⅱ期官衙外郭の大溝と材木列を検出した。また隣接する第47次調査でも外郭の大溝を検出した。第46次調査は第12次調査で発見した基壇建物跡の南側で、軒丸瓦、鴟尾をはじめ多くの瓦を出土し、古代に属すると考えられる溝跡などを検出した。また第49次調査ではⅡ期官衙外郭北辺の大溝と材木列を、推定線より約５m南の位置で確認した。これによって外郭の四辺が確定し、材木列間で南北長422.73m、東西長428.44mである。

仙台平野の遺跡群

遺跡名 / 事項	富沢水田遺跡（C－301）	山口遺跡（C－233）	仙台城跡（C－501）	陸奥国分尼寺跡（C－420）	郡山遺跡（C－104）				
					第43次発掘調査	第45次発掘調査	第46次発掘調査	第47次発掘調査	第49次発掘調査
所在地	仙台市長町南３丁目３	富沢１丁目10－８	川内無番地	白萩町314－２	郡山６丁目212－２	郡山５丁目42－31，43－７	郡山５丁目148－10	郡山２丁目11－16	郡山２、３丁目地内
申請者住所	仙台市長町１丁目３－24	中江２丁目15－30	博物館外構工事に先行する遺構確認調査	土地公有化に伴う遺構確認調査	郡山２丁目11－17	高松３丁目13－２	荒町175	郡山２丁目４－３	国分町３丁目７－１
申請者氏名	佐竹栄吉	伊藤幸夫			菊地彦三郎	遠藤敏夫・辰子	佐藤みよ子	赤井沢正敏	仙台市水道事業管理者 仙台市長島野武
開発内容	銀行支店建設	共同住宅新築			住宅新策	住宅新築	貸家建築	住宅新築	水道管理設工事
対象面積	208.7㎡	182.646㎡	－	170㎡	150㎡	270.71㎡	264.25㎡	306.07㎡	315㎡
調査面積	54㎡	33㎡	180㎡	89㎡	150㎡	40㎡	64㎡	50㎡	315㎡
調査期間	昭和59年 5月24日～6月20日	6月26日～7月24日	5月17日～7月11日 11月19日～12月24日	昭和60年 2月4日～2月15日	昭和59年 4月23日～4月28日	6月18日～6月25日	7月18日～8月29日	9月10日～9月19日	6月26日～8月3日

仙台市内に分布する主要な遺跡の中で行われる小規模な開発（個人住宅の建築等）に対応するために実施される発掘調査事業である。今年度は9件について対応した。詳細は次のとおりである。

2．調査関係　（昭和59年度埋蔵文化財発掘調査事業概要）

昭和59年度の発掘調査事業は、公共事業に係る緊急発掘調査として①伊古田　②下ノ内　③下ノ内浦　④富沢水田　⑤六反田　⑥松木の各遺跡、民間開発に係る緊急発掘調査として⑦及び⑧中田畑中　⑨欠ノ上Ⅰ　⑩及び⑪南小泉　⑭伊古田Ⅱの各遺跡、仙台市としての発掘調査で⑮山田上ノ台遺跡、国庫補助事業の調査としては⑯郡山遺跡　⑰仙台平野の遺跡群の各発掘調査がある。以下それぞれの概略について触れる。

①伊古田遺跡では、縄文時代後期中葉の遺物包含層から多量の土器片とともに日本でも最大級の土偶を含む10体分の破片が出土。平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出

②下ノ内遺跡では、縄文土器片（中期）が若干出土したのみ。

③下ノ内浦遺跡では、縄文時代早期前葉の竪穴遺構と押型文土器を確認、後期前葉の配石遺構が9基検出されたが、墓である可能性が強い。また土器片や石器も多数出土。奈良～平安時代の住居跡8軒も検出。

④富沢水田遺跡では、平安時代の水田跡を2枚、弥生時代の水田跡を2枚検出。弥生時代については大畦と小畦、単位面積12㎡前後を確認。

⑤六反田遺跡では、縄文時代後期の竪穴住居跡9軒と多量の土器や石器を伴う遺物包含層を検出。古墳～平安時代の竪穴住居跡7軒検出。

⑥松木遺跡では、平安時代の竪穴住居跡1軒、中世の溝跡2条と多数の中世陶器片を確認。

⑦、⑧中田畑中遺跡では、平安時代の竪穴住居跡2軒、溝、土壙を検出。

⑨欠ノ上Ⅰ遺跡では、平安時代の水田を1面検出。

⑩、⑪南小泉遺跡では、弥生時代の竪穴遺構1基、古墳～平安時代の竪穴住居跡5軒を検出。

⑭伊古田遺跡では、小溝状遺構、時期不明の円形周溝1基を検出。

⑮山田上ノ台遺跡では、接合資料3組、断面を剝ぎとり仙台市の博物館へ展示。

⑯郡山遺跡、⑰仙台平野の遺跡群については、前述の国庫補助事業の項目を参照。

昭和59年度　発掘調査の概略

No.	遺跡名		時代	種類	対象面積	調査面積	調査期間	担当職員	報告書	備考
①	伊古田	高速鉄道関係	古墳～平安	集落跡	1,100㎡	590㎡	4/11 ～ 8/11	千葉・高橋・佐藤(美)		公共事業
②	下ノ内		縄文～平安	〃	600㎡	560㎡	4/11 ～ 5/26	工藤・佐藤(美)・千葉		〃
③	下ノ内浦		奈良～平安	〃	1,200㎡	1,200㎡	4/11 ～ 11/19	吉岡・主浜・千葉・篠原	第82集	〃
④	富沢水田(鳥居原)		弥生～平安	水田跡	1,800㎡	750㎡	4/11 ～ 6/28	篠原・斎野		〃
⑤	六反田		縄文～江戸	集落跡	840㎡	904㎡	S60 4/24 ～ 1/7	佐藤(洋)・渡部		〃
⑥	柳生・関場		古墳～平安	〃	1,800㎡	1,800㎡	7/2 ～ 12/10	及川・菅原・工藤		〃
⑦	中田畑中－1		古墳、平安	〃	830㎡	120㎡	4/16 ～ 6/7	佐藤(甲)・渡辺	第78集	民間開発地
⑧	中田畑中－2		〃	〃	824㎡	26㎡	5/4 ～ 5/16	田中	第83集	〃
⑨	欠ノ上Ⅰ		古墳～平安	水田跡	18,500㎡	3,000㎡	6/11 ～ 10/16	佐藤(甲)・小野寺	第79集	〃
⑩	南小泉－1		平安	集落跡	100㎡	100㎡	9/3 ～ 9/29	佐藤(甲)	第80集	〃
⑪	南小泉－2		〃	〃	40㎡	30㎡	9/10 ～ 10/3	渡辺	第81集	〃
⑫	山田条里		奈良	水田跡	100㎡	30㎡	9/8 ～ 9/18	金森	第83集	〃
⑬	新組		縄文～平安	遺物散布地	100㎡	9㎡	9/19 ～ 9/29	金森	〃	〃
⑭	伊古田Ⅱ		古墳	集落跡	344㎡	273㎡	10/25 ～ 11/10	渡辺・金森	〃	〃
⑮	川添東		縄文	包含地	240㎡	59㎡	8/21 ～ 8/27	田中	〃	〃
⑯	若林城		中・近世	城館跡	600㎡	33.8㎡	10/16 ～ 10/17	佐藤(隆)・田中	〃	〃
⑰	山田上ノ台		旧石器・縄文	集落跡	80㎡	80㎡	4/16 ～ 7/20	及川・菅原		学術調査
⑱	郡山		古墳(末期)～奈良	官衙跡	3,276㎡	3,034㎡	4/23 ～ 11/30	木村・長島・松本	第74集	国庫補助
⑲	富沢水田	仙台平野の遺跡群	弥生～平安	水田・集落跡	208㎡	54㎡	5/24 ～ 6/20	田中		〃
⑳	山口		縄文～弥生 奈良～中世	集落・水田跡	182㎡	33㎡	6/26 ～ 7/24	田中		〃
㉑	仙台城		近世	城館跡		180㎡	5/17 ～ 7/11 11/19 ～ 12/24	金森	第75集	〃
㉒	陸奥国分尼寺		奈良	寺院跡	170㎡	89㎡	S60 2/4 ～ 2/15	渡辺・斎野		〃

昭和59年度発掘届（通知）一覧

昭和60年３月15日現在

整理番号	遺跡名		所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
1	C-401	堤町窯跡	堤町一丁目	住宅新築	67.08㎡	立会い	窯跡（平安時代）
2	〃	堤町窯跡	堤町一丁目	住宅新築	71.64㎡	〃	窯跡（平安時代）
3	C-301	富沢水田	富沢一丁目121	店舗付住宅新築	79.49㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
4	C-109	人来田	茂庭字人来田11－29	住宅新築	103.63㎡	〃	集落跡（縄文（中期））
5	C-108	上野	富田字上野29－１	住宅増築	9.31㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安）
6	C-508	東光寺城跡	岩切字入山22	幼稚園増築	27.00㎡	〃	館跡（中世）
7	C-224	鶴巻Ⅰ	福室字小原一番27－３	土地形盾変更	1725.16㎡	〃	集落跡（平安時代）
8	C-215	砂押Ⅱ	沖野字砂押61	物置新築	26.09㎡	〃	遺物散布地（古墳、奈良、平安時代）
9	C-102	南小泉	遠見塚一丁目13－７	住宅増築	97.09㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
10	〃	南小泉	遠見塚二丁目222－54	住宅新築	93.00㎡	〃	〃　〃
11	C-301	富沢水田	富沢一丁目10－８	共同住宅の新築	182.646㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
12	C-287	欠ノ上Ⅰ	郡山字谷地田西１の１外11筆	宅地造成	18,494.66㎡	事前	生産跡（古墳、奈良、平安時代）
13	C-181	本郷	茂庭字町田54番地	住宅増築	70.00㎡	立会い	集落跡（平安時代）
14	C-101	燕沢	岩切字山崎西186－10	住宅増築	13.90㎡	〃	集落跡(縄文、弥生、古墳、奈良、平安)
15	C-301	富沢水田	長町南四丁目10－10	㈱赤井沢　倉庫増築	36.00㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
16	C-102	南小泉	遠見塚二丁目４－７番地先	水道管付けかえ	477.50㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
17	C-208	後河原	中田町字前沖29－２　30－１　31	宅地造成	1,395.54㎡	事前	集落跡（奈良～平安時代）
18	C-102	南小泉	遠見塚一丁目11－３	住宅新築	74.02㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
19	C-135	鴻ノ巣	仙台市岩切字鴻巣	住宅新築	314.64㎡	試掘	集落跡（古墳～中世）
20	C-102	南小泉	遠見塚一丁目５－34	建替による新築	48.93㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
21	〃	南小泉	遠見塚一丁目13－29	住宅の増築	31.14㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
22	〃	南小泉	仙台市古城三丁目１－１	物置新築	122.90㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
23	C-104	郡山	郡山三丁目27番地内	仙台市郡山庁舎敷地内整備工事	140.00㎡	立会い	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代）
24	C-301	富沢水田	泉崎二丁目10－２	貸家新築	4.00㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
25	〃	富沢水田	泉崎二丁目10－２	貸家新築	56.31㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
26	C-501	仙台城	川内追廻無番地追廻住宅294号	解体新築	42.071㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
27	C-301	富沢水田	長町南四丁目16－２	住宅新築	53.73㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
28	C-444	台原七丁目５番窯跡	台原五丁目18－23	住宅新築	98.210㎡	〃	窯跡（平安時代）
29	C-102	南小泉	遠見塚東19番地	新築	1,250.00㎡	試掘並事前	集落跡（弥生～平安時代）
30	C-104	郡山	郡山五丁目10番１号	仮設教室建築	139.64㎡	立会い	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
31	C-504	茂ケ崎城	長町字茂ケ崎38－15	住宅増築	56.37㎡	〃	館跡（南北町～室町）
32	C-301	富沢水田	泉崎一丁目23	住宅新築	138.70㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
33	C-225	鶴巻Ⅱ	福室字弁当一番12－１　他８筆	事務所付工事新築	90.00㎡	〃	集落跡（平安時代）
34	C-211	中田畑中	袋原字小平５番	分譲住宅敷地	824.00㎡	試掘並事前	集落跡（奈良～平安時代）
35	C-175	西原	蒲生二丁目２番６	道路新設及び雨水汚水管理設工事	1,867.00㎡	立会い	遺物散布地（奈良、平安）
36	C-172	神明社裏	桝江７番地	平屋住宅新築	65.42㎡	〃	集落跡（奈良、平安時代）
37	C-102	南小泉	古城三丁目207－８	住宅新築	60.00㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
38	C-135	鴻ノ巣	岩切鴻ノ巣168－３	住宅新築	17.18㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
39	C-522	若宮前	岩切字入山72－２　72－３	専用住宅新築	47.9 ㎡	〃	館跡(縄文、古墳、平安、中世、近世)
40	C-505	北目城跡	郡山字舘ノ内55－１	木造事務所建設	19.87㎡	〃	館跡（中世）
41	C-135	鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣169－12	住宅新築	17.36㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
42	C-102	南小泉	古城三丁目207－９	住宅新築	85.41㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
43	〃	南小泉	南小泉字村東87－２	事務所新築	403.09㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
44	C-171	二の森	二の森22－37　他２	擁壁工事	369.17㎡	〃	遺物散布地（平安時代）
45	C-104	郡山	郡山五丁目42－３　43－７	住宅新築	81.14㎡	事前	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
46	C-108	上野	富田字上野中126	住宅解体新築	107.239㎡	立会い	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
47	C-301 C-198	富沢水田 袋東	長町南三丁目35－７	増築	44.34㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降） 集落跡（古墳、平安時代）
48	C-301	富沢水田	鹿野三丁目220番4	事務所建築	40.43㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）

整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
49	C-301 富沢水田	富沢二丁目3－17	増築	34.36㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
50	C-235 地蔵浦	六丁目字行尾前11－1	ホテル新築	400.00㎡	試掘	集落跡（中世）
51	C-104 郡山	郡山三丁目50－5	住宅新築	82.81㎡	立会い	官衙跡（古墳（未期）～奈良時代）
52	C-104 郡山	郡山六丁目13－16	住宅新築	162.74㎡	〃	官衙跡（古墳（未期）～奈良時代）
53	C-102 南小泉	遠見塚一丁目、二丁目、古城三丁目	下水道管布設	1,300.00㎡	試掘	集落跡（弥生～平安時代）
54	C-104 郡山	郡山三丁目14－3～18－21 郡山三丁目12－7～12－9	上水道配水管布設	344.00㎡	立会い	官衙跡（古墳（未期）～奈良時代）
55	C-502 岩切城	岩切台屋敷地内	上下水道管布設	63.84㎡	〃	館跡（鎌倉～室町）
56	C-289 萩ケ丘B	長嶺20－18	下水道管布設	300.00㎡	試掘	遺物散布地（縄文時代）
57	C-301 富沢水田	長町南三丁目16－16	住宅新築	63.84㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
58	C-512 笹森城	鶴ケ谷字館下21－2	住宅	33.04㎡	〃	館跡（中世）
59	C-225 鶴巻Ⅱ	福室字鶴巻2番地3 南福室公会堂敷地内	防火水そう設置	88.36㎡	試掘	集落跡（平安時代）
60	C-501 仙台城	川内追廻住宅11号	解体新築	42.12㎡	立会い	城館跡（南北朝～江戸時代）
61	C-135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣199－11	住宅新築	88.88㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
62	C-301 富沢水田	長町南四丁目12－9	ポンプ小屋	7.35㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
63	C-102 南小泉	遠見塚一丁目16－1、2	解体新築	102.27㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
64	C-401 堤町窯跡	仙台市堤町二丁目6	共同住宅	147.55㎡	〃	窯跡（平安時代）
65	C-507 今泉城	今泉字久保田85－17	住宅新築	92.74㎡	〃	館跡（中世）
66	C-135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣89－1	住宅新築	71.52㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
67	C-225 鶴巻Ⅱ	福室字鶴巻二番13－1 他7	農業用倉庫建築	66.15㎡	〃	集落跡（平安時代）
68	C-102 南小泉	遠見塚一丁目42－32 41	住宅の増築及び車庫	38.82㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
69	C-211 中田畑中	袋原字畑中地内	側溝工事	360.00㎡	試〃掘	集落跡（奈良～平安時代）
70	C-224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻1番23－1 他8	住宅新築	135.00㎡	立会い	集落跡（平安時代）
71	C-102 南小泉	遠見塚二丁目528－1	店舗新築	49.68㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
72	C-104 郡山	郡山一丁目18－14	作業場建築	165.62㎡	〃	官衙跡（古墳（未期）～奈良時代）
73	C-301 富沢水田	鹿野三丁目211番7号	洋服店新築	149.98㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
74	C-104 郡山	郡山五丁目148－10	住宅新築	79.48㎡	事前	官衙跡（古墳（未期）～奈良時代）
75	C-301 富沢水田	泉崎一丁目8－11	洋服店新築	164.85㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
76	C-428B 堤町窯跡B	堤町二丁目114－268	住宅新築	58.24㎡	〃	窯跡（平安時代）
77	C-421 仙台東郊条里跡	南小泉字伊藤屋敷下25－19	住宅新築	40.35㎡	〃	奈良、平安期の行政区画（平安時代）
78	C-234 明屋敷	六丁目字庚田南7番	事務所、倉庫建築	1,747.00㎡	〃	集落跡（平安時代）
79	C-108 上野	富田字上野中28－3	住宅新築	70.65㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
80	C-104 郡山	郡山六丁目三番地内	市道長町人木線舗装補修工事	818.4 ㎡	〃	官衙跡（古墳（未期）～奈良時代）
81	C-108 上野	富田字上野中16－2	住宅建替新築	83.20㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
82	C-301 富沢水田	泉崎二丁目25－2	住宅建築	223.58㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
83	C-135 鴻ノ巣	岩切字三所北125－27	住宅新築	19.47㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
84	C-294 山田条里	山田字新山掘下中下南地	舗装工事	1000.00㎡	〃	条里遺構（奈良時代）
85	C-104 郡山	郡山三丁目27－10	洗車場 油脂分離槽の改良工事	101.20㎡	〃	官衙跡（古墳（未期）～奈良時代）
86	C-144A 汚山通A C-193 山田上ノ台	山田字根岸前21－6	住宅新築	110.76㎡	〃	遺物散布地（縄文、平安時代） 集落跡（旧石器）
87	C-108 上野	富田字上野中上野西地内	舗装工事	600.00㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
88	C-242 上杉六丁目	上杉六丁目10－13	アパート新築	123.05㎡	〃	遺物散布地（平安時代）
89	C-520 富沢館	富沢字館76－4	住宅新築建替	104.81㎡	〃	館跡（戦国時代）
90	C-401 堤町窯跡	堤町二丁目114－264	住宅新築	79.49㎡	〃	窯跡（平安時代）
91	C-102 南小泉	遠見塚二丁目115－11 115－28	住宅新築	98.37㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
92	〃 南小泉	南小泉字村東80－18	住宅新築	90.00㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
93	C-142 向山高裏	八木山緑町1－1	仙台向山高等学校改築	20,000㎡	試掘	遺物散布地（縄文（中期））
94	C-301 富沢水田	長町南一丁目9－11	ガス整圧器バルブピット新設	62.00㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
95	C-272 河原越	上飯田字遠西39、40、41、41－1 42－2、42－3、43－1、43－2	宅地造成	54.00㎡	試掘	遺物散布地（古墳、奈良、平安時代）
96	C-169 坊主門	荒巻字西雷神3	個人住宅新築	85.14㎡	立会い	遺物散布地（縄文（早、前期）奈良）

整理番号	遺跡名		所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
97	C-102	南小泉	南小泉四ノ丁目10－2	宅地造成	2,687.96㎡	事前	集落跡（弥生～平安時代）
98	C-169	坊主門	荒巻字坊主門9	住宅増築	13.66㎡	立会い	遺物散布地（縄文(早、前期)奈良）
99	C-301	富沢水田	泉崎一丁目14－11	店舗新築	31.00㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
100	C-514	国分鞭館	原町南目字町170、172	住宅新築	120.00㎡	試掘	館跡（中世）
101	C-141	菖蒲沢	鶴ケ谷菖蒲沢31－20	住宅新築	6.00㎡	立会い	遺物散布地（縄文、奈良、平安）
102	C-501	仙台城	川内追廻無番地　追廻住宅177号	住宅建替新築	69.42㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
103	〃	仙台城	川内追廻無番地　追廻住宅99号	住宅建替新築	40.50㎡	〃	〃　〃
104	C-141	菖蒲沢	鶴ケ谷字菖蒲沢31－1	住宅新築	6.00㎡	〃	遺物散布地（縄文、奈良、平安）
105	C-034	大年寺横穴	向山四丁目26－20	共同住宅	92.00㎡	〃	古墳（古墳時代）
106	C-233	山口	富沢一丁目7－5	住宅新築	202.47㎡	〃	集落跡（縄文、弥生、古墳、奈良、平安中世）
107	C-141	菖蒲沢	鶴ケ谷字菖蒲沢31－2	住宅新築	6.00㎡	〃	遺物散布地（縄文、奈良、平安）
108	C-177	沼向	中野字掃沼47－3、6、7	工場新築	443.39㎡	試掘	遺物散布地（奈良、平安）
109	C-527	長喜城館	長喜城字御蔵掘16	農作業場及びはなれの新築	60.85㎡	立会い	館跡（中世）
110	C-251	嶺岸	茂庭字嶺岸51－3、53－2、53－6	住宅新築	46.37㎡	〃	集落跡（縄文(後期、中期)）
111	C-401	堤町窯跡	堤町一丁目25－2	建築物新築	75.00㎡	〃	窯跡（平安時代）
112	C-237A	北畑	鶴ケ谷字大久保山31番10	住宅新築	30.00㎡	〃	塚群
113	C-102	南小泉	古城三丁目27－1	店舗付住宅	192.94㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
114	C-301	富沢水田	鹿野三丁目221－9	住宅新築	74.52㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
115	C-104	郡山	郡山三丁目11－63	店舗付住宅	88.810㎡	〃	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
116	C-260	人来田B	人来田西41番地先	公共下水道工事	183.00㎡	試掘	集落跡（古墳、平安）
117	C-135	鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣163－2	住宅新築	107.31㎡	立会い	集落跡（古墳～中世）
118	C-104	郡山	郡山二丁目11－16	〃	100.75㎡	事前	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
119	C-501	仙台城	川内無番地	テニスコート造成	2,500㎡	立会い	城館跡（南北朝～江戸時代）
120	C-301	富沢水田	富沢二丁目207－12	住宅新築	72.87㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
121	C-113	安久東	西中田四丁目2－1	店舗新築	60.00㎡	〃	集落跡（弥生、古墳(前期)奈良、平安、中世、近世）
122	C-234	明屋敷	六丁目字庚田北2	事務所・倉庫新築	2,913.43㎡	〃	集落跡（平安時代）
123	C-520	富沢舘	富沢字川前浦47－4 鍛治屋敷前43－1	送電線鉄塔工事	101.80㎡	事前	館跡（戦国時代）
124	C-152	鍛治屋敷A	富沢字熊野前23－4 富田字京ノ北16－1	〃	81.92㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安時代）
125	C-286	南ノ東	富田字京ノ北1－2 富田字八幡中60－1	〃	81.92㎡	〃	集落跡（弥生、平安）
126	C-108	上野	富田字上町中129－3 富田字上野西46－2	〃	118.40㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安）
127	C-145	竹ノ内前	富田字竹ノ内前16－1	〃	40.96㎡	〃	遺物散布地
128	C-294	山田条里	山田字新田堀下中29－3外	〃	192.88㎡	〃	条里遺構（奈良時代）
129	C-125	新組	茂庭字大沢41－3、41－4	〃	36.00㎡	〃	集落跡（縄文、古墳、平安時代）
130	C-301	富沢水田	泉崎二丁目11－17	住宅新築	98.87㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
131	C-501	仙台城	川内追廻住宅16号	〃	40.38㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
132	C-301	富沢水田	富沢一丁目5－8	〃	64.98㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
133	C-104	郡山	郡山一丁目12－28	住宅増築	18.22㎡	〃	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
134	〃	〃	郡山五丁目25－7	〃	26.00㎡	〃	〃　〃
135	C-301	富沢水田	長町南三丁目27－15	住宅増築	26.00㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
136	〃	〃	富沢一丁目5－4	住宅新築	173.09㎡	〃	〃　〃
137	〃	〃	長町南一丁目1－5 長町南一丁目3	都市計画道路建設	6,000.00㎡	事前	〃　〃
138	C-428B	堤町窯跡B	堤町二丁目8－44	住宅増築	23.19㎡	立会い	窯跡（平安時代）
139	C-101	燕沢	燕沢東三丁目528、529	住宅新築	648.00㎡	試掘	集落跡(縄文、弥生、古墳、奈良、平安)
140	C-505	北目城	郡山四丁目6－10　外	上水道配水管布設	150.00㎡	立会い	館跡（中世）
141	C-421	東郊条里跡	南小泉字七曲35－4	アパート建設	7.50㎡	〃	奈良、平安期の行政区画(平安時代)
142	C-301	富沢水田	長町三丁目28	住宅新築	80.457㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
143	C-015	金洗沢古墳	西多賀一丁目320－2、312－10	〃	108.00㎡	〃	古墳（古墳時代）
144	C-301	富沢水田	富沢一丁目2－2	公園整備工事	23,000㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）

整理番号	遺跡名		所在地	原因	開発面積	処理	遺跡の性格
145	C-403	五本松窯跡	台原三丁目606－1、606－2、606－3、606－4	都市計画道路	2,850㎡	事前	窯跡（平安時代）
146	C-108	上野	富田字上野中28－3	住宅新築	76.18㎡	立会い	集落跡（縄文、奈良、平安）
147	C-196	伊古田	大野田千刈田7の1	共同住宅新築	344.56㎡	試掘	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
148	C-301	富沢水田	鹿野三丁目222－3	住宅新築	43.5 ㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
149	〃	〃	〃 〃	〃	〃	〃	〃 〃
150	C-104 C-105 C-505	郡山、西台畑北目城	郡山一、二、三、四丁目地内	公衆電気通信施設	12.47㎡	〃	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代）集落跡（縄文、弥生（中期）古墳）館跡（中世）
151	C-301	富沢水田	鹿野三丁目5－6	倉庫兼事務所新築工事	85 ㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
152	C-104	郡山	郡山三丁目112－9	住宅新築	116.34㎡	〃	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代
153	〃	〃	郡山二丁目63	〃	75.93㎡	〃	〃 〃
154	C-507	今泉	今泉字久保田97－1、97－6	住宅増築	26.250㎡	〃	館跡（中世）
155	C-101	燕沢	燕沢東三丁目14－23　18－27地先	上水道配水管布設工事	6.0㎡	〃	集落跡（縄文、弥生、古墳、奈良、平安）
156	C-507	若林城	古城二丁目3番1号	講堂棟建設	81.3 ㎡	事前	館跡（中世）
157	C-301	富沢水田	長町南三丁目8－7	住宅新築	169.96㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
158	C-234	明屋敷	六丁目字庚田南2－3	事務所及び倉庫新築	1172.02㎡	試掘	集落跡（平安時代）
159	C-194	青葉山B	荒巻字青葉	東北大学理学部化学機器分析センター	316㎡	〃	旧石器
160	C-501	仙台城	川内1番地	住宅増築	101㎡	立会い	城館跡（南北朝～江戸時代）
161	C-429	穴田東	堤町二丁目1－34	解体新築	130.00㎡	〃	窯跡（平安時代？）
162	C-168	北屋敷	大野田字北屋敷31－4　外	共同住宅建設	1943.58㎡	試掘	集落跡（平安、中世、江戸末期、明治初期）
163	C-108	上野	富田字上野東9－8	住宅新築	52.17㎡	立会い	集落跡（縄文、奈良、平安）
164	C-301	富沢水田	富沢字泉崎	住宅増築	7.4 ㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
165	C-102	南小泉	古城三丁目34－1、33－1、35－1、36－1	店舗建築	1,834.50㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
166	C-183	牛小舎	蒲生一丁目3番先	上下水道配水管布設	100.2㎡	〃	集落跡（奈良～平安時代）
167	C-102	南小泉	遠見塚一丁目26－9　26－10	共同住宅建築	96.44㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
168	C-301	富沢水田	泉崎一丁目34の2	建物新築	118.51㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
169	C-421	東郊条里	南小泉字七曲82－1　外	宅地造成	4,546.21㎡	事前	奈良、平安期の行政区画（平安時代）
170	C-301	富沢水田	泉崎二丁目1番2	店舗新築	226.00㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
171	C-104	郡山	郡山三丁目204－9	解体新築	60.55㎡	事前	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代）
172	C-102	南小泉	遠見塚三丁目8－17	店舗改築	66.17㎡	立会い	集落跡（弥生～平安時代）
173	C-104	郡山	郡山六丁目4番21号先　外	上水道配水管布設	92.4 ㎡	〃	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代）
174	C-301	富沢水田	長町南三丁目9－3	店舗新築	800㎡	事前	生産跡（弥生～平安、平安以降）
175	C-104	郡山	郡山六丁目1－45番地先	都市ガス本管敷設	96.0 ㎡	立会い	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代）
176	C-445	長命荘窯跡	小松島三丁目15－2	擁壁工事	619.08㎡	試掘	窯跡（平安時代）
177	C-102	南小泉	古城三丁目3－1、3－5、3－4	住宅新築	74.52㎡	立会い	集落跡（弥生～平安時代）
178	C-234	明屋敷	六丁目字庚田南2番5号	事務所新築	101.56㎡	〃	集落跡（平安時代）
179	C-301	富沢水田	富沢二丁目205－5	住宅新築	371.00㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
180	C-104	郡山	郡山一丁目11の3	〃	53.81㎡	〃	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代）
181	C-301	富沢水田	長町南四丁目24－4	共同住宅新築	96.11㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
182	C-104	郡山	郡山二丁目36－4	住宅増築	17.92㎡	〃	官衙跡（古墳（末期）～奈良時代）
183	C-267	元袋Ⅲ	大野田字6番1	共同住宅建設	1,678㎡	試掘	集落跡（奈良～平安時代）
184	C-428B	堤町窯跡B	堤町二丁目201－6	〃	126.42㎡	立会い	窯跡（平安時代）
185	C-301	富沢水田	泉崎一丁目7の23	住宅新築	137.87㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
186	C-102	南小泉	南小泉四丁目35－36	住宅新築	77.69㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
187	〃	〃	古城三丁目203－2	共同住宅新築	161.614㎡	〃	〃 〃
188	C-444	台原七丁目5番窯跡	台原五丁目418－16、17　419－3、6	住宅新築	90.12㎡	〃	窯跡（平安時代）
189	C-301	富沢水田	長町南三丁目15－15	共同住宅新築	36.48㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
190	〃	〃	〃 10－10	住宅新築	129.59㎡	〃	〃 〃
191	〃	〃	富沢四丁目309－7	〃	71.49㎡	〃	〃 〃
192	C-446	五城中北窯	東照宮一丁目422	共同住宅新築	1,680.00㎡	試掘	窯跡（平安時代）

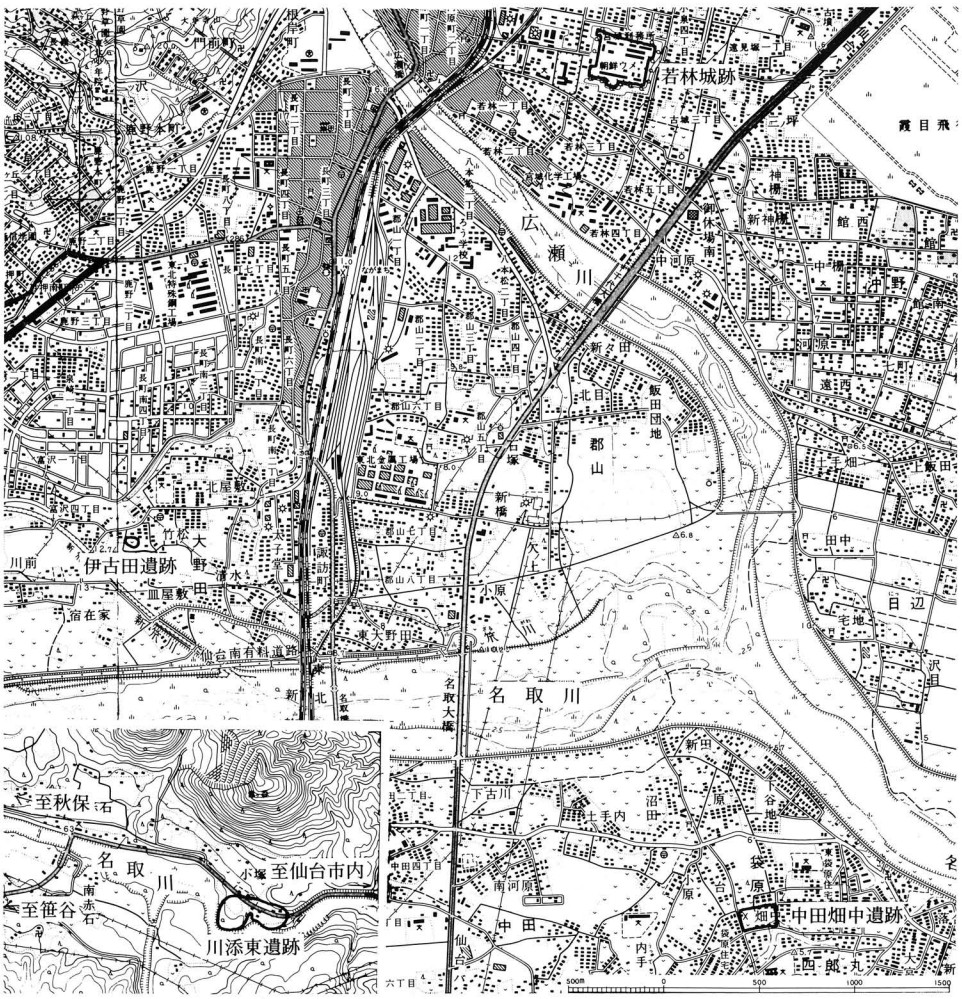
整理番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	処置	遺跡の性格
193	C-223 福田町	福田町二丁目1155－1　1155－2	宅地造成	257.20㎡	試掘	集落跡（平安時代）
194	C-504 茂ケ崎城	長町字茂ケ崎46番地の106	住宅新築	108.51㎡	立会い	館跡（中世）
195	C-272 河原越	上飯田字遠西48－1　48－2	銀行新築	282　㎡	試掘	遺物散布地(古墳、奈良、平安時代)
196	C-102 南小泉	遠見塚二丁目261番26号	住宅新築	70.18㎡	立会い	集落跡（弥生～平安時代）
197	C-401 堤町窯跡	堤町二丁目114－74	共同住宅新築	90.72㎡	〃	窯跡（平安時代）
198	C-135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣75－3	住宅新築	98.925㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
199	C-501 仙台城	川内１番地の１	住宅解体増築	26.8㎡	試掘	城館跡（南北朝～江戸時代）
200	C-193 山田上ノ台	山田上ノ台町６番地40地先 10番地22地先	側溝工事	60.00㎡	〃	集落跡（前、後期旧石器、縄文、平安、江戸）
201	C-193 山田上ノ台	山田上ノ台町34－1　17－3	住宅建築	65㎡	立会い	集落跡（前、後期旧石器、縄文、平安、江戸）
202	C-202 泉崎浦	泉崎一丁目14－10	事務所新築	33.54㎡	〃	集落跡（縄文、古墳、平安、近世）
203	C-301 富沢水田	長町南四丁目18－12	共同住宅新築	136.02㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
204	C-108 上野	富田字上野西41－16	住宅新築	392.90㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安）
205	C-102 南小泉	遠見塚二丁目222番－4 222番－36	〃	42㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
206	C-224 鶴巻Ⅰ	福室字鶴巻一番80－6	共同住宅新築	138.72㎡	〃	集落跡（平安時代）
207	C-301 富沢水田	鹿野三丁目213番13	個人住宅新築	90.00㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
208	C-135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣53－5	〃	86.12㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
209	C-301 富沢水田	長町南四丁目27－3	店舗付住宅建築	132.77㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
210	C-215 砂押Ⅱ	沖野字砂押45－1	住宅建替	15㎡	〃	遺物散布地
211	C-104 郡山	郡山三丁目35－77	住宅増築	157.80㎡	〃	官衙跡（古墳(未期)～奈良時代）
212	C-135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣169－5	社宅建築	56.31㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
213	〃　〃	〃　168－5	〃	112.62㎡	〃	〃　〃
214	〃　〃	〃　170－4	〃	112.62㎡	〃	〃　〃
215	C-301 富沢水田	泉崎一丁目29－14	住宅建築	23.00㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
216	C-501 仙台城	川内追廻無番地　追廻住宅71	個人住宅新築	63.17㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
217	C-113 安久東	西中田四丁目２番１号	店舗用地の造成工事	60㎡	〃	集落跡（弥生、古墳(前期)奈良、平安、中世、近世）
218	C-429 穴田東	堤町二丁目21－1	住宅建替	55.28㎡	〃	窯跡（平安時代？）
219	C-223 福田町	福田町二丁目1255、1253番地	住宅建設	132.49㎡	〃	集落跡（平安時代）
220	C-301 富沢水田	鹿野三丁目222－1	共同住宅新築	133.77㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
221	C-222 関場	柳生字関場３番地４	住宅増築	6.29㎡	〃	集落跡（古墳、奈良、平安時代）
222	C-038 王ノ壇古墳	大野田字王ノ檀７－１　８－１ ８－３　９－１　10－１　11－１	店舗付住宅建築	100　㎡	試掘	古墳（古墳時代）
223	C-102 南小泉	遠見塚一丁目27－15　27－2	共同住宅新築	100　㎡	立会い	集落跡（弥生～平安時代）
224	C-426 貞山堀	荒浜字北官林11番地先	橋の新設	302.5㎡	〃	水路跡（江戸、明治）
225	C-121 川添東	茂庭川添東10番１	自家用給油所建設	455.22㎡	試掘	遺物包蔵地（縄文時代）
226	C-144B 汚田通B	上ノ台町410　318－1	独身寮の建設	1,400㎡	立会い	遺物散布地（平安時代）
227	C-104 郡山	郡山六丁目102－4　外	防球ネット設置	234.8㎡	〃	官衙跡（古墳(未期)～奈良時代）
228	C-102 南小泉	古城三丁目33－1	店舗新築	390.0㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
229	C-501 仙台城	川内追廻住宅286号	解体新築	42.44㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
230	C-018 伊豆野権兄古墳	西中田町一丁目177　181－1	倉庫建築	133.59㎡	〃	古墳（古墳(後期)
231	C-108 上野	富田字上野西42－18	住宅新築	42.00㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安）
232	C-228 芦ノ口	三峰一丁目	排水管設置	105㎡	試掘	集落跡（縄文、弥生、平安時代）
233	C-501 仙台城	川内	〃	272㎡	〃	城館跡（南北朝～平安時代）
234	C-102 南小泉	遠見塚一丁目35－6	排水設備設置	29.225㎡	立会い	集落跡（弥生～平安時代）
235	C-301 富沢水田	鹿野三丁目212－3	住宅新築	101.85㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
236	C-135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣134－7　110－1	管理棟兼住宅新築	69.41㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
237	C-301 富沢水田	長町南四丁目20－1	自転車置場の建築	27.25㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
238	C-135 鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣地内	側溝工事	350.00㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
239	C-294 山田条里遺構	山田字岩崎７－３　他５筆	倉庫新築	120.00㎡	〃	条里遺構（奈良時代）
240	C-102 南小泉	遠見塚二丁目222－41	個人住宅建築	210.05㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
241	C-301 富沢水田	長町南一丁目25－13	専用住宅２棟建築	72.86㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）

整理番号	遺	跡 名	所 在 地	原 因	開発面積	処 置	遺跡の性格
242	C-401	堤町窯跡	堤町一丁目101－52	住宅新築	162.60㎡	立会い	窯跡（平安時代）
243	C-286	南ノ東	富田字南の中6番地4	物置新築	63.76㎡	〃	集落跡（弥生、平安）
244	C-419	陸奥国分寺	木ノ下二丁目63－38	解体新築	100.00㎡	〃	寺院跡（平安時代）
245	C-108	上野	鈎取字新田町13－7　13－8	住宅解体新築	113.77㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安）
246	C-408	神明社窯跡	栃江17	共同住宅新築	1,056.13㎡	事前	窯跡（奈良～平安時代）
247	C-102	南小泉	遠見塚一丁目1－4	店舗新築	76.79㎡	立会い	集落跡（弥生～平安時代）
248	〃	〃	南小泉字伊藤屋敷49－24番地先	上水道配水管布設	647.6㎡	〃	〃　〃
249	〃	〃	南小泉二ノ坪30－1番地	〃	171.90㎡	〃	〃　〃
250	C-223	福田町	福田町二丁目1155－1、2	集合住宅建築	1,081.28㎡	試掘	集落跡（平安時代）
251	C-104	郡山	郡山二丁目9－15	都市ガス管理設工事	5.75㎡	立会い	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
252	C-124	塩ノ瀬	坪沼字塩ノ瀬7番地内	送水管布設工事	685.5㎡	試掘	集落跡（縄文、古墳、平安時代）
253	C-225	鶴巻Ⅱ	福室字田中前一番2－1　他3筆	店舗新築	650.00㎡	立会い	集落跡（平安時代）
254	C-224	鶴巻Ⅰ	福田町三丁目9	店舗付共同住宅	207.35㎡	〃	集落跡（平安時代）
255	C-501	仙台城	川内追廻無番地	住宅解体新築	29.976㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
256	C-233	山口	富沢一丁目1－10	住宅増築	25.6 ㎡	〃	集落、生産跡（縄文～中世）
257	C-104	郡山	郡山一丁目195－1	店舗付住宅新築	150.00㎡	事前	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
258	C-301	富沢水田	長町南三丁目22－2	住宅増築	10.76㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
259	C-101	燕沢	燕沢東三丁目524－2	店舗増築	20.42㎡	〃	集落跡(縄文、弥生、古墳、奈良、平安)
260	C-223	福田町	福田町二丁目1138－1	住宅新築	67.18㎡	〃	集落跡（平安時代）
261	C-104	郡山	郡山一丁目19－1	住宅解体新築	389.42㎡	〃	官衙跡（古墳(末期)～奈良時代）
262	〃	〃	郡山五丁目12番14号先～8番15号先	市道補修工事	860㎡	〃	〃　〃
263	C-301	富沢水田	泉崎一丁目10－9	住宅新築	122.98㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
264	C-139	壇越	中田町七丁目126－10	店舗付住宅新築	144.317㎡	〃	遺物散布地（奈良、平安時代）
265	C-223	福田町	福田町二丁目1135、1136、1137	共同住宅新築	302.1㎡	試掘	集落跡（平安時代）
266	C-501	仙台城	川内追廻住宅第462号	解体新築	98.64㎡	立会い	城館跡（南北朝～江戸時代）
267	C-301	富沢水田	長町南一丁目219－4	住宅新築	88.817㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
268	C-102	南小泉	古城三丁目208－7	解体新築	84.24㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
269	C-501	仙台城	川内追廻住宅561号	〃	51.49㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
270	C-301	富沢水田	泉崎二丁目8－3	病院新築	397.78㎡	〃	生産跡（弥生～平安、平安以降）
271	C-202	泉崎浦	泉崎一丁目5－11	専用住宅	140㎡	〃	集落跡（縄文、古墳、平安、近世）
272	C-105	西台畑	郡山二丁目1番～郡山六丁目7番	舗装補修工事	1,210㎡	〃	集落跡（縄文、弥生、古墳）
273	C-102	南小泉	遠見塚二丁目328－3　他4筆	解体新築	83.64㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
274	C-234	明屋敷	六丁目字北屋敷前5番1	倉庫新築	420.50㎡	試掘	集落跡（平安時代）
275	C-301	富沢水田	富沢字砂押前17－3	共同住宅新築	179.75㎡	立会い	生産跡（弥生～平安、平安以降）
276	〃	〃	鹿野三丁目214番4	住宅新築	211.2㎡	事前	〃　〃
277	C-113	安久東	西中田五丁目2－15	住宅増築	1.92㎡	立会い	集落跡（弥生、古墳(前期)～奈良、平安、中世、近世）
278	C-135	鴻ノ巣	岩切字鴻ノ巣33－18	住宅新築	55.14㎡	〃	集落跡（古墳～中世）
279	C-039	春日社古墳	大野田字宮5－3	住宅新築	35.00㎡	〃	古墳（6世紀）
280	C-301	富沢水田	鹿野三丁目26～長町南四丁目2	電話ケーブル収容とう道工事	49.4 ㎡	事前	生産跡（弥生～平安、平安以降）
281	C-104	郡山	郡山三丁目51－20	住宅新築	50.02㎡	立会い	官衙跡（古墳(末期)～
282	C-102	南小泉	古城三丁目33番1号	店舗新築	420.00㎡	〃	集落跡（弥生～平安時代）
283	C-501	仙台城	川内追廻住宅48号	解体新築	21.00㎡	〃	城館跡（南北朝～江戸時代）
284	C-108	上野	富田字上野東18番2　他1筆	住宅新築	228.03㎡	〃	集落跡（縄文、奈良、平安）
285	C-184	入生沢	岩切字入生沢25－3	宅地造成	41㎡	試掘	集落跡（平安時代）
286	C-223	福田町	福田町二丁目1106　他1筆	住宅新築	69.56㎡	立会い	集落跡（平安時代）
287	C-294	山田条里	山田字岩崎7－3　他5筆	園芸用温室増築	195㎡	〃	条里遺構（奈良時代）
288	C-037	安久諏訪古墳	西中田四丁目7－1、2	宅地造成	1,857.76㎡	事前	古墳（古墳(後期)～奈良時代）
289	C-102	南小泉	南小泉字村東81－1	事務所新築	15.545㎡	立会い	集落跡（弥生～平安時代）
290	C-421	東郊条里	南小泉字伊藤屋敷下25－17	住宅新築	79.49㎡	事前	奈良、平安期の行政区画(平安時代)

Ⅱ. 調査報告

調査要項

遺跡名	中田畑中遺跡	川添東遺跡	若林城跡	伊古田遺跡
所在地	仙台市袋原字小平5	仙台市茂庭川添東10－1	仙台市古城二丁目3－1	仙台市大野田字千刈田7-1
調査期間	昭和59年5月4～16日	8月21～27日，10月5～6日	10月16～17日	10月25日～11月10日
調査面積	26㎡	59㎡	43㎡	273㎡
調査主体	仙台市教育委員会			
調査担当	仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係			
担当職員	田中則和	田中	佐藤（隆），田中	金森安孝・渡辺誠



遺跡位置図

中田畑中遺跡 —第3次調査—

1．調査に至る経過

仙台市袋原字畑中に所在するこの遺跡（仙台市文化財登録番号C－211）は、昭和57年7月1日～9月3日の第1次発掘調査によって、古墳時代前期、同後期の竪穴住居跡各1軒と平安時代の掘立柱建物跡4棟が検出されている。

昭和59年4月からの第2次発掘調査中に、これと隣接する畑中字小平5番地で宅地の造成工事が進んでいたが、これは同遺跡ときわめて近接していることから、造成計画中の道路敷の任意地点に3×3mの調査区を設定し、試掘調査を実施することとなった。その結果、土師器や須恵器を含む包含層が検出されるに及び、畑中遺跡はより東方へ広がりをもつことが判明した。そこで、土地所有者の佐藤亀治氏と協議を重ねその協力のもとで、道路が付設される部分の発掘調査を実施することとなったものである。

調査の方法は、道路付設部分を中心に3×8mの調査区を設定した。なお、道路敷設にかかわる埋設物は盛土内におさまること、造成工事を中断しての発掘調査であること等を考慮して調査深度をⅣ層上面の遺構確認をもってとどめることとした。

また、中田畑中遺跡の「立地と環境」については、『中田畑中遺跡第2次発掘調査報告書』「仙台市文化財調査報告書第78集」－昭60－ を参照されたい。

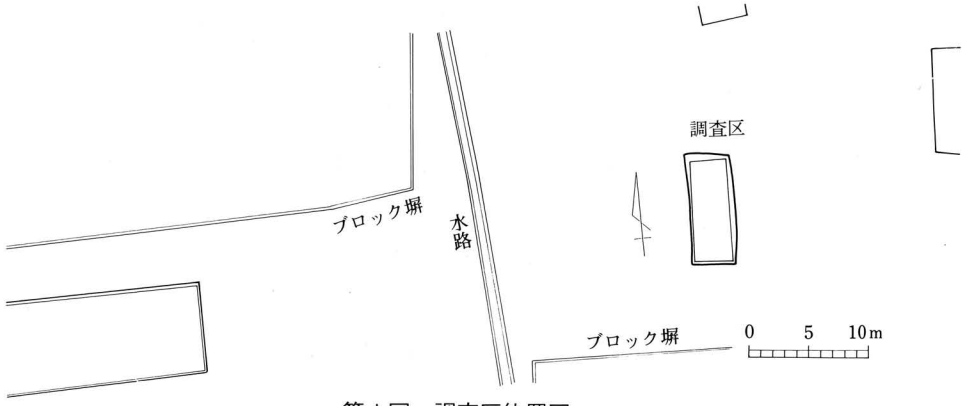
2．発掘調査の概要

(1)基本層位

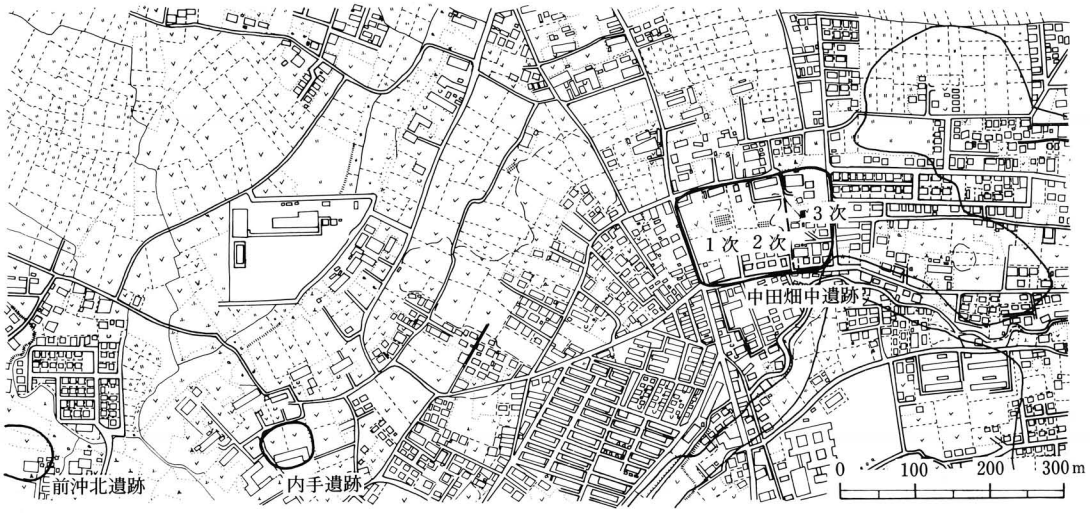
Ⅰ層は基本的にはa～f層に細分されるが、現在の耕作土で、層厚は40cm前後である。Ⅱ層は黒褐色シルト層で、平安時代以降のものである。一部天地返しによる凹形の攪乱も観察できる。遺存状況の良好な所で層厚は20cm前後である。Ⅲ層はa・bに細分され、Ⅲa層は、にぶい黄褐色シルト層で平安時代以降と考えられ、層厚は20～30cm。この層の上面から、溝3条、ピット2個が確認されている。Ⅲb層は灰色味を帯びた、にぶい黄褐色粘土質シルトでありこの上面で、平安時代の竪穴住居跡、竪穴状遺構がそれぞれ確認されている。層厚は約25cmである。Ⅳ層は黒褐色粘土質シルトで、層厚は10cm前後である。この層の上面からは縦横に走る、溝状遺構が確認されている。

(2)発見された遺構と遺物

Ⅲa層上面検出の遺構と遺物　遺構は溝跡4条とピット10個が検出されている。1号溝跡はN－120°－Eの方向をもち、4号溝跡を切っている。上幅は約100cm、下幅約80cm、深さ約40cmで、その断面形は逆台形を呈するものである。出土遺物としては、溝跡底面から土錘1点と溝跡堆積土中から土師器、須恵器の小破片が少量出土している。2号溝跡は上幅20～45cm、下



第１図　調査区位置図

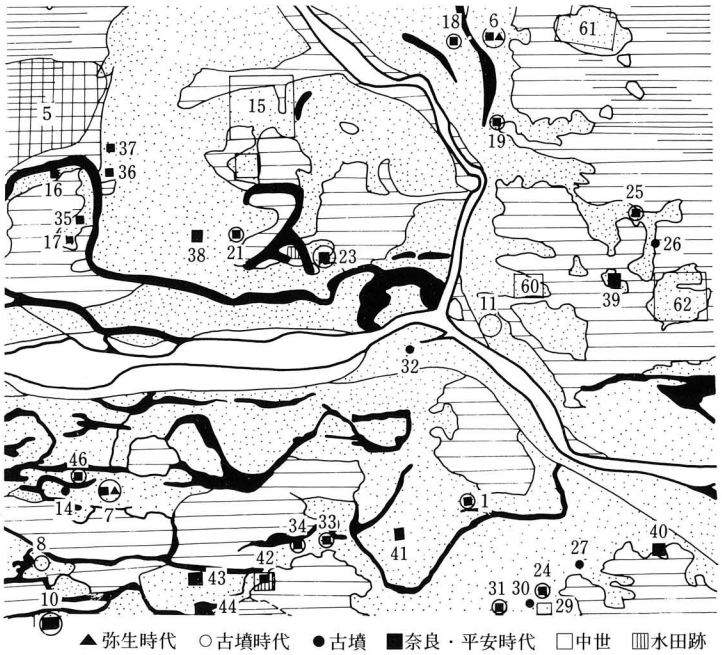


第２図　遺跡位置図

幅18～42cm、深さ２～３cmと小規模である。出土遺物としては、１号溝跡同様に土師器や須恵器の小破片が若干出土している。１・２号溝跡いずれの土師器（坏片）も製作にロクロが使用されている。下層検出の１号住居跡の年代である９世紀末葉から10世紀以降のものと考えられる。３号溝跡は東西方向に走るもので、深さ73cm以上の規模をもつ。堆積層の下部はグライ化されている。堆積土１～４層からは、縄文～弥生時代のものと考えられる凹石１点と江戸時代末葉以降の相馬産を主体とする施釉陶器片が出土している。４号溝跡はＮ－4°－Ｅの方向をもち、前述の１号溝跡に切られている。その規模は上幅約50cm、下幅約35cm、深さ５～８cmとなっていて、その断面形状は皿状を呈している。なお地主の昭和初年に掘さくしたとの証言が参考になる。

次に発見されたピット群について記述することにする。確認されたピットは形状、規模が多様であり、なかでも直径20cm前後のものが多い。これらピット群のピット１からは土師器の甕、

第3図　周辺の遺跡



第4図　地　形　図

No.	遺跡名	時代
1	中田畑中遺跡	古墳・奈良・平安
2	門野山囲遺跡	縄文(後・晩期)・弥生・平安
3	大野田遺跡	縄文(後期)弥生(中期)
4	西台畑遺跡	弥生(中期)・古墳
5	富沢水田遺跡	弥生・平安・平安以降
6	中柵西遺跡	弥生・古墳・奈良・平安
7	安久東遺跡	弥生・古墳(前期)・奈良平安・中世・近世Ⅰ
8	栗遺跡	弥生・古墳・奈良・平安
9	沢目遺跡	弥生・古墳・奈良・平安
10	清水遺跡	弥生～中世
11	日辺遺跡	古墳(中期)
12	天神社古墳	古墳(中期)
13	下余田遺跡	古墳(中期)・奈良・平安
14	安久諏訪古墳	古墳(後期)
15	郡山遺跡	古墳(末期)～奈良(初期)
16	袋東遺跡	古墳・平安
17	長町清水遺跡(皿屋敷遺跡)	古墳？
18	砂押Ⅱ遺跡	古墳・奈良・平安
19	河原越遺跡	古墳・奈良・平安
20	矢来遺跡	古墳・奈良・平安
21	籠ノ瀬遺跡	古墳・奈良・平安
22	欠ノ上Ⅰ遺跡	古墳・奈良・平安
23	欠ノ上Ⅱ遺跡	古墳・奈良・平安
24	欠ノ上Ⅲ遺跡	古墳・奈良・平安
25	上屋敷遺跡	古墳・奈良・平安
26	梅塚古墳	古墳
27	城丸古墳	古墳
28	戸ノ内Ⅰ遺跡	古墳・奈良・平安
29	戸ノ内Ⅱ遺跡	古墳・奈良・平安
30	弁天囲古墳	古墳
31	神明遺跡	古墳・奈良・平安
32	大塚山古墳	古墳

No.	遺跡名	時代
33	前沖北遺跡	古墳・奈良・平安
34	前沖中遺跡	古墳・奈良・平安
35	北屋敷遺跡	奈良・平安
36	新田遺跡	奈良・平安
37	長町六丁目遺跡	奈良・平安
38	的場遺跡	古墳・奈良・平安
39	高田遺跡	奈良・平安
40	昭和北遺跡	奈良・平安
41	内手遺跡	奈良・平安
42	後河原遺跡	奈良・平安
43	中田北遺跡	奈良・平安
44	中田南遺跡	奈良・平安
45	壇腰遺跡	奈良・平安
46	安久遺跡	奈良・平安
47	中北田遺跡	奈良・平安
48	辻遺跡	奈良・平安
49	皇壇・原遺跡	奈良・平安
50	西田遺跡	奈良・平安
51	八幡社古碑群	鎌倉(後期)
52	郡山三丁目古碑群	鎌倉(後期)
53	長町駅裏古碑群	鎌倉(後期)
54	諏訪社古碑群	鎌倉(後期)
55	宅地古碑群	鎌倉(後期)
56	北目古碑群	鎌倉(後期)
57	穴田東古碑群	鎌倉(後期)
58	四郎丸舘跡	鎌倉
59	北目城跡	中世
60	日辺舘跡	室町
61	沖野城跡	中世
62	今泉遺跡	中世
63	今泉城跡出土板碑	中世
64	落合観音堂古碑群	中世
65	前田舘跡(柿沼舘)	中世
66		

第Ⅰ表　周辺の遺跡地名表

坏の破片、この中には坏の底部片、回転糸切り無調整のものが含まれている。また赤焼土器の坏片が出土している。ピット２からは「蓆状圧痕」と呼ばれる特徴的な圧痕をもつ土師器の底部片が出土している（第８図)。このような圧痕をもつ土師器は、名取市清水遺跡、仙台市の沼原Ａ、本遺跡の第２次調査、高清水町手取遺跡や泉市宮下遺跡白石市青木遺跡等々からも発見されていて９世紀前葉から10世紀中葉の年代幅がある。ピット２の年代については後述する１号住居跡の年代である９世紀末葉から10世紀前以降と考えられる。

Ⅲｂ層上面の遺構と遺物　発見された遺構は竪穴住居跡１軒と住居跡の可能性のある竪穴遺構２基である。その概略は次の通りである。竪穴住居跡は次のような状況である。

確　認　面：Ⅲｂ層上面

重複　関係：１号溝（Ⅲａ層上面で確認）に南側を破壊されている。

平　面　形：隅丸方形？

規　　模：南北３ｍ前後。

方　　向：Ｎ－５°－Ｅ（西壁ラインを基準)。

壁　　面：残存する壁面の最大高は23cmで直になっている。

床　　面：ほぼ平坦である。２時期が認められる。第１次床面の東南辺はかたくしまっている。上下の床面の比高は約８cm。

ピ　ッ　ト：下位（古）の第１次床面でピット３個、上位面（新）の第２次床面でピット３個が検出された。そのうちピット２には焼土、炭化物が多量に混入しているのが特徴で、他のピットの堆積土は２層に近似する。

周　　溝：第２次床面で確認。北辺では一部周溝が途切れている。上幅30cm前後、下幅10cm前後である。

カ　マ　ト：調査区内では未検出。

そ　の　他：第２次床面で検出された第１土壙は残存径が約100cm、底径84cm、深さ12cmの規模をもつ。断面形は皿状を呈す。堆積土は３層に類似する。

堆　積　土：第２次床面には１－２層が堆積し、壁ぎわの周溝には３層が、第１次床面には４層が堆積している。

掘　り　方：なし。第１次床面には住居の「掘り方」面の可能性がないわけでもないが、床面がかたくしまっていること、土器、鉄滓などが面的に分布することから床面とした。

遺　　物：堆積土各層より土師器坏、甕、須恵器の坏、甕、壺そして赤焼土器坏がいづれも破片で出土。第２次床面より土師器坏、甕、須恵器坏、赤焼土器坏そして棒状鉄製品が、第１次床面より土師器坏、甕がいづれも破片で出土している。第

1次床面からは鉄滓が2点出土している。棒状鉄製品は長さ4.75cm、両端には一辺1～2㎜前後のものがついている。しかし、錆化が激しく原形の詳細は不明である。

次に竪穴状遺構は、調査範囲はせまいために遺構の一部が検出されただけで、その規模、全体形状については不明な点が多い。直立ぎみの壁（1号竪穴状遺構の現存最大高は約14cm、2号のそれは約5cm）と平坦な底面をもつ点で住居跡の可能性がある。両遺構からは土師器細片が数点出土している。

その他の遺物　竪穴住居跡の第1次床面から2点、同第1号土壙から1点の鉄滓と同住居跡の確認面からは炉壁片と考えられるものが出土している。鉄滓は長軸で1～6cmのもので、色調はにぶい赤褐色（5YR4/6～5/6）で粗い凝結面をもつものと、黒色ぎみで光沢があり、飴状の平滑面をもち、さらに小さな気孔を密にもつものの2種類がある。若干遺構との関係からみてみると、竪穴住居跡を覆う堆積土の中には多量の焼土や炭化物は認められてはいるものの、住居跡床面には焼面をもつ落ち込みは確認されなかった。

3．ま　と　め

本遺跡の今回の調査において発見された遺構は、溝跡、ピット群、竪穴住居跡そして遺構などである。調査面積が3×8mというせまい範囲の中での調査ということもあって、遺構の全容を明らかにはできなかった。

1号竪穴住居跡の年代と出土赤焼土器の問題点

年代決定資料はきわめて少数である。第1次床面および堆積土4層の土師器小片は製作にロクロを使用していることから表杉ノ入式でありほぼ平安時代という幅でしかおさえられない。第2次床面の第1土壙及び堆積土3層からは赤焼土器坏1点が出土している。回転切離し後無調整のもので口縁部がわずかに外反し内弯する体部をもつ。内面の体部と底部の境は比較的明瞭で底部内面は中央に向かい傾斜し器厚は薄くなる。法量は復元値で口径14.8cm、底径5.6cm、器高5.0cmを計る。口径対底径比は口径を1として0.38である。なお赤焼土器小皿（片）はこの住居跡から出土していない。このような特徴をもつ赤焼土器坏の年代をまず検討する。年代の下限を示すものは仙台市安久東遺跡2号住居跡出土のもので堆積土出土の灰釉陶器から10世紀後半を上限と考えられている。(1) 年代の上限を示すものに仙台市南小泉遺跡（青葉女子学園予定地）1号住居跡出土(2)のものがある。共伴する須恵器坏に注目する。仙台市安養寺中囲窯で共伴する宝相華文軒丸瓦、細弁蓮華文軒丸瓦、歯車文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦の組合せは瓦が貞観11(869)年の陸奥国大地震による被害の修復に使われた可能性が高いことから9世紀後半の年代が与えられる。(3) 前述の南小泉遺跡の須恵器坏の組合せは回転糸切り無調整が多く、削り調整のものが少ないという点で安養寺中囲窯例と共通するが口径対底径比は1：0.34～46（計11点）で前者の

1：0.43～58（計８点）より明らかに底径比が減少している。このことから南小泉遺跡出土の赤焼土器坏は９世紀末葉から10世紀前半の年代が与えられる。さて更に、本遺跡住居跡出土の赤焼土器について器形、器高に注目してみると南小泉遺跡例に近い。又整理途中であるが中田畑中遺跡第２次調査１号住居跡ピット２出土のものにも近い。この住居跡では堆積土に10世紀前葉に降下したと考えられる灰白色火山灰が堆積していることも含め、本住居跡出土の赤焼土器坏および住居跡の年代は９世紀後半から10世紀代であり10世紀前葉までにおさまる可能性が高い。なお赤焼土器坏は色麻町色麻古墳群竪穴住居跡出土例[(4)]以北を除いて(1)器高4.7～５㎝で口縁部から体部にかけて弧状に内弯し口縁部の外反が弱いものを含む→(2)器高３～4.5㎝で体部内弯し口縁部が外反するものが多い。更に(1)では出土量が少なく共伴する須恵器坏をしのぐことはなく(2)では須恵器坏の量は若干で赤焼土器坏の量が増大する傾向があるのではないかという問題提起を今後の検討課題としておきたい。　　（早坂春一・田中則和）

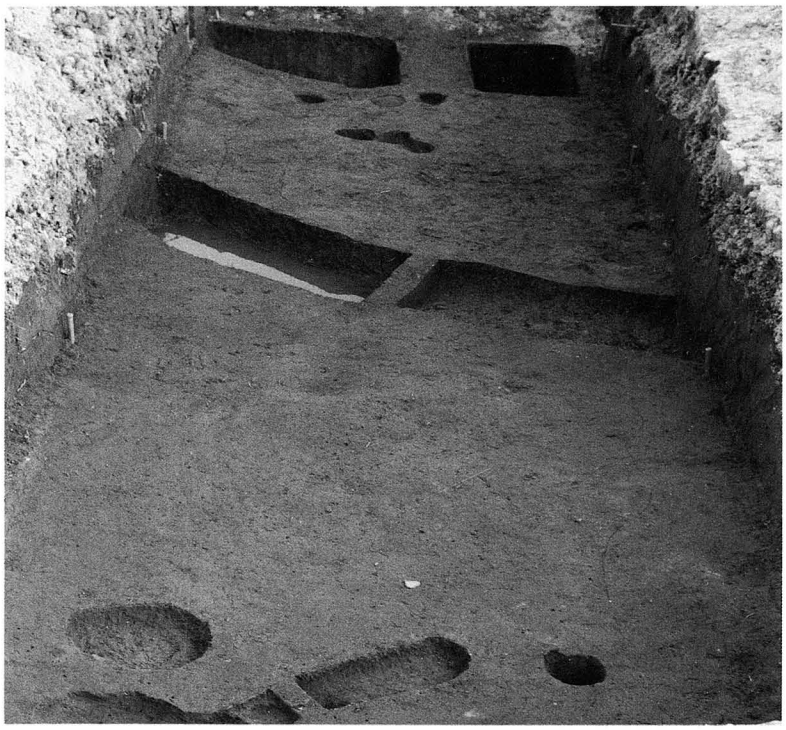
註(1)佐々木和博『鹿島竹之内遺跡』1984　宮城県教育委員会

(2)渡部弘美『南小泉遺跡－青葉女子学園移転新営工事地内調査報告』1983　仙台市教育委員会

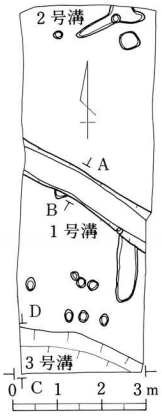
(3)結城慎一他『陸奥国官窯跡群』1973、なお結城氏より共伴関係の確認を得た。

進藤秋輝他『多賀城跡政庁跡本文編』1982　宮城県教育委員会　多賀城跡調査研究所

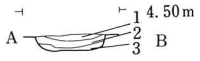
(4)古川一明『宮城県営圃場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書』1984　宮城県教育委員会



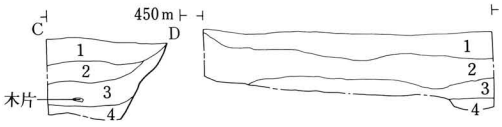
第Ⅲa層上面



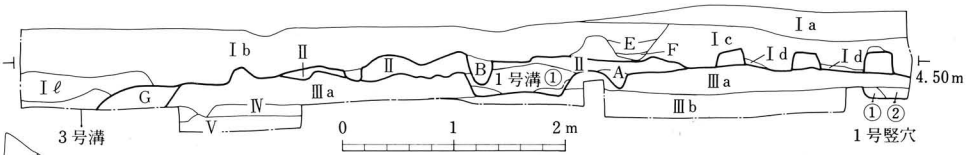
Ⅲａ層上面

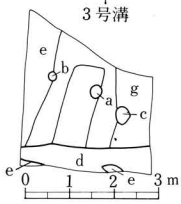


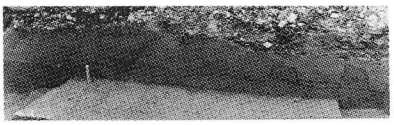
大別	土色	土性	備考
1層	暗褐色(10YR3/3)	シルト	
2層	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	
3層	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	褐色(10YR4/4)粘土質シルトを斑点状に含む。



大別	土色	土性	備考
1層	暗褐色(10YR3/4)	シルト	炭化物を少量含む。
2層	褐灰色(7.5YR4/1)	シルト質粘土	酸化鉄をブロック状、炭化物を帯状に少量含む。
3層	黄灰色(2.5Y 4/1)	粘土	酸化鉄をブロック状、炭化物を微量に含む。
4層	オリーブ黒色(7.5Y 3/1)	粘土	







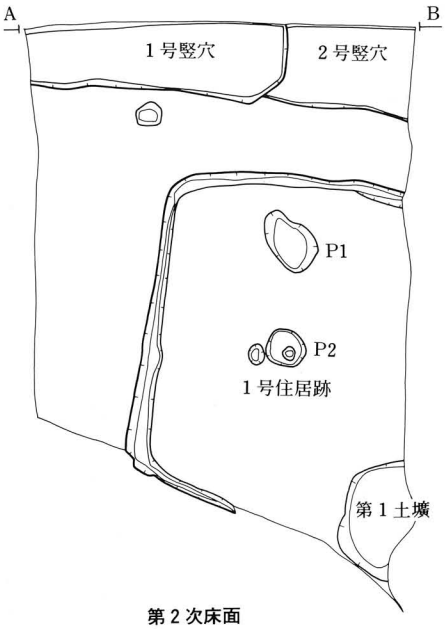
西側断面

Ⅳ層上面確認（未掘）

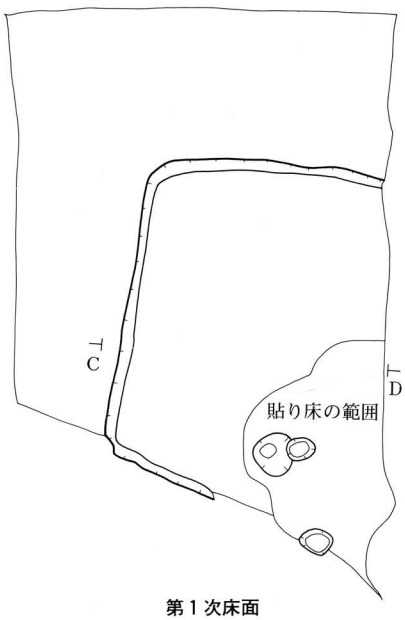
	土色・土性
a	にぶい黄褐色シルト質粘土
b	にぶい黄橙色粘土質シルト
c	にぶい黄褐色粘土質シルト
d	褐色粘土質シルト
e	暗褐色粘土質シルト
f	暗褐色粘土質シルト
g	暗褐色粘土質シルト（bよりやや暗い）

大別	細別層	土色	土性	備考
Ⅰ層	a	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	しまりなくふかふかしている。
	b	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	しまりあり
	c	褐色(10YR4/3.5)	シルト	
	d	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	青味を帯びている。
	e	にぶい黄褐色(10YR3/3)	シルト	5㎜～1㎝の不整長方形の炭化物を相当量含む。
Ⅱ層		黒褐褐色(10YR3/2.5)	シルト	箱形の部分は、部分的に耕作が及ばず残されたところ。
Ⅲ層	a	にぶい黄褐色(10YR4/3.5)	シルト	
	b	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘土質シルト	灰色味を帯びる。酸化鉄斑を少量含む。
Ⅳ層		黒褐色(10YR3/2.5)	粘土質シルト	
Ⅴ層		灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	
A層		暗褐色(10YR3/3)	シルト	
B層		にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	
C層		にぶい黄褐色(10YR4/3.5)	粘土質シルト	
D層				Ⅰc層に第Ⅱ層のブロックを含む。
E層				Ⅰb層に炭化物を少量含む。
F層				Ⅰb層に炭化物を多量に含む。
G層		黒褐色(10YR3/2.5)	シルト	にぶい黄褐色(10YR4/4)粘土質シルトのブロック含む。
1号溝	①	黒褐色(10YR3/2)	シルト	
	②	黒褐色(10YR3/2)	シルト	にぶい黄褐色(10YR4/4)粘土質シルトが混合する。
3号溝		灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	
1号竪穴	①	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘土質シルト	
	②	にぶい黄褐色(10YR4/3.5)	粘土質シルト	
2号竪穴	③	褐色(10YR4/3.5)	シルト	

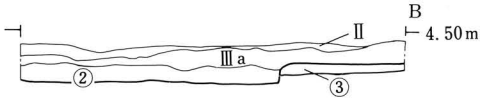
第5図　Ⅲａ層、Ⅳａ層上面の遺構

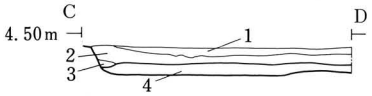


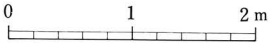
第2次床面



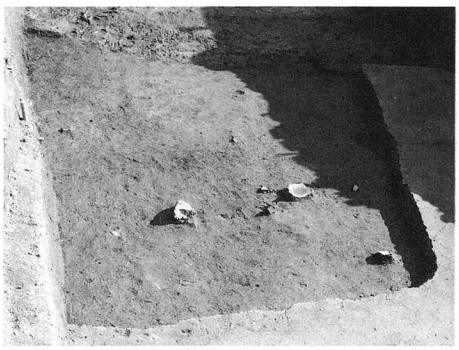
第1次床面







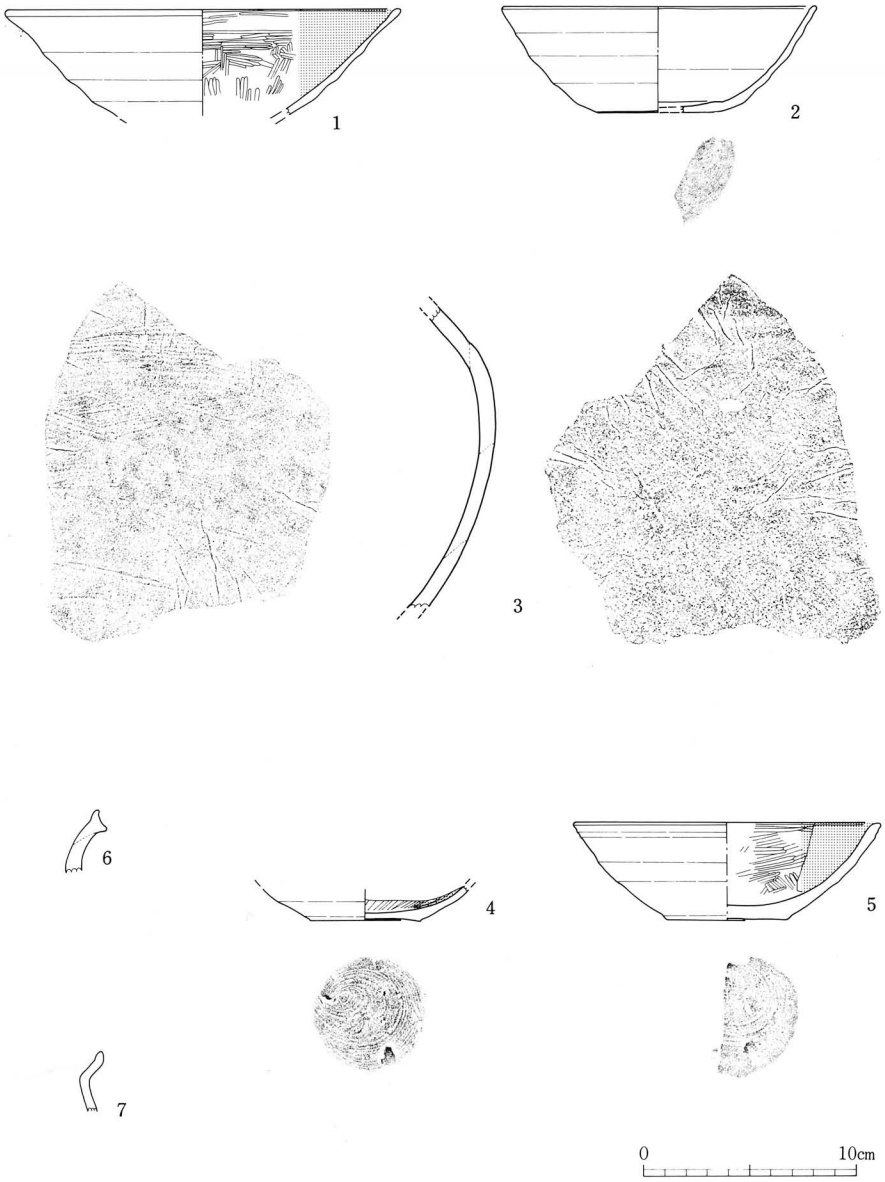
大別	土色	土性	備考
1 層	暗褐色(10YR3/3)	シルト	炭化物少量含む。
2 層	暗褐色(10YR3/4)	シルト	炭化物少量含む。
3 層	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	周溝
4 層	にぶい黄褐色(10YR4/3.5)	粘土質シルト	



第2次床面　土器出土状況

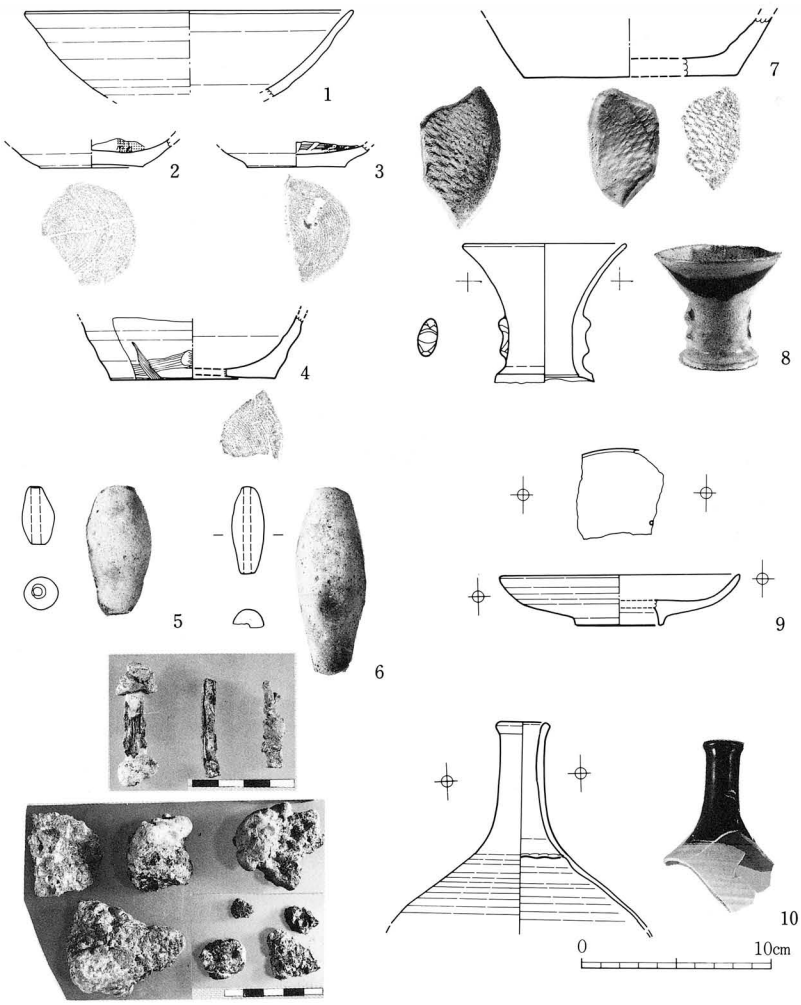
第1次床面

第6図　Ⅲb層上面の遺構（1号住居跡など）



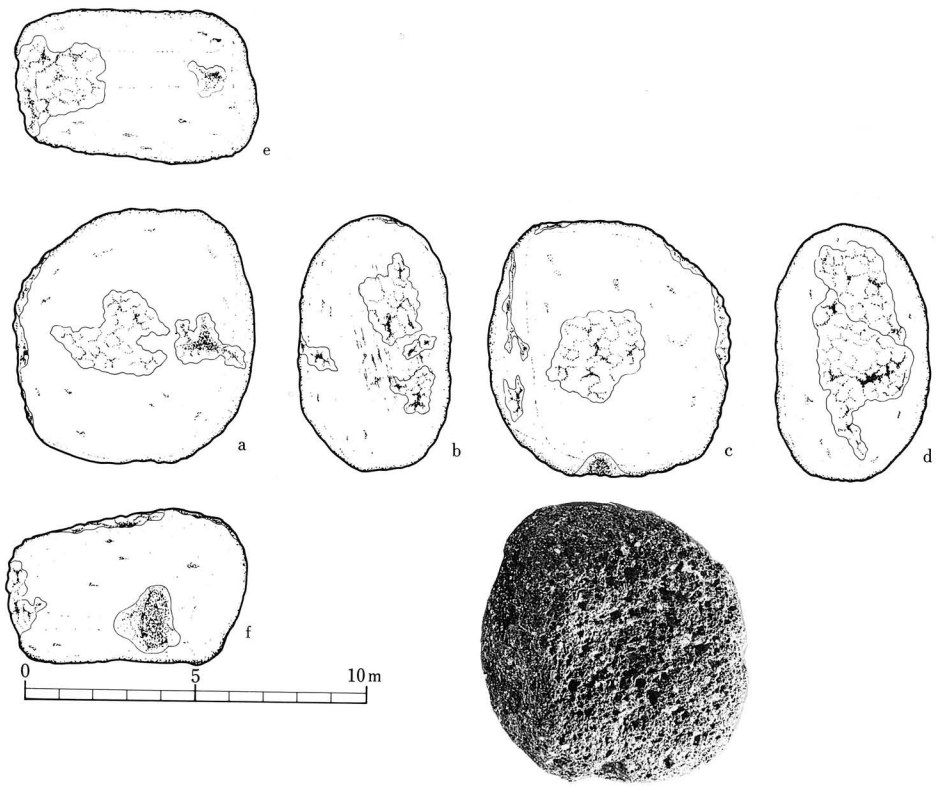
No.	種　類	器　形	出土状況	遺　存	口　径	底　径	器　高	色　調	ロクロからの切り離し	外面調整	内面調整	備　考
1	土師器	坏	1号住居跡堆積土4層	口縁～体部	18.7cm	—	(5.0)cm	10YR7/6明褐色	—	ロクロナデ	ヘラミガキ	内面黒色処理。横位ヘラミガキ後、縦方向ヘラミガキ。
2	赤焼土器	坏	1号住居跡3層第1土壙	口縁～底部	14.8cm	5.6cm	5.0 cm	10YR8/1灰白色	回転糸切り	ロクロナデ	ロクロナデ	
3	須恵器	壺	1号住居跡P0.3床直	体部	—	—	—	5Y 5/1灰色	—	ロクロナデ ケズリ	ロクロナデ 粗いナデ	
4	須恵器	甕か壺	1号住居跡土壙	口縁	—	—	—	2.5Y 5/2暗灰黄色	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
5	土師器	坏	1号住居跡堆積土2層	底部	—	5.2cm	(1.5)cm	2.5Y 8/3淡黄色	回転糸切り	ロクロナデ	ヘラミガキ	内面黒色処理で放射状ヘラミガキ。
6	土師器	坏	1号住居跡堆積土	口縁～底部1/6	14.4cm	5.6cm	4.6 cm	10YR5/2灰黄褐色	回転糸切り	ロクロナデ	ヘラミガキ	内面黒色処理。
7	土師器	甕	1号住居跡堆積土	口縁	—	—	—	10YR5/3にぶい黄褐色	—	ロクロナデ	ロクロナデ	

第7図　1号住居跡の遺物

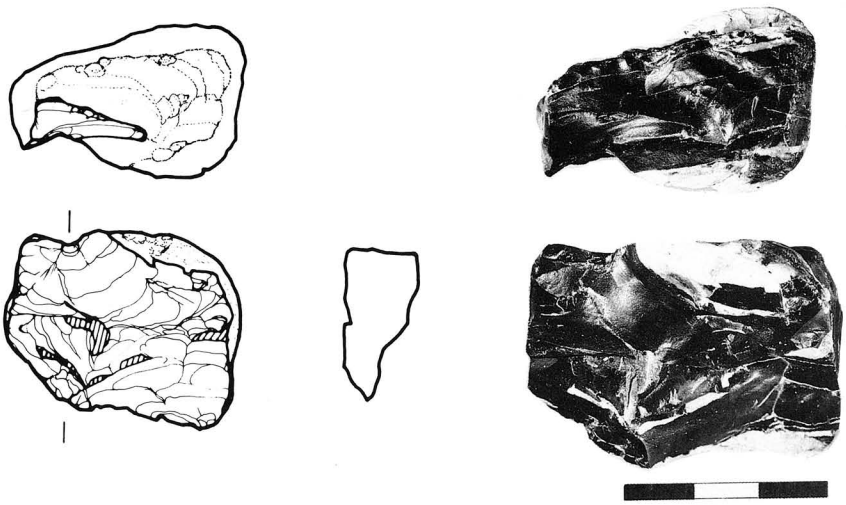


No.	種　類	器　形	出土状況	遺　存	口　径	底　径	器　高	色　調	ロクロからの切り離し	外面調整	内面調整	備　考
1	赤焼土器	坏	Ⅲb層上面	口縁～体部	17.4cm	—	(4.6)cm	10YR⅘ 浅黄橙色	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
2	土師器	坏	Ⅲb層上面	底部	—	5.4cm	(1.5)cm	2.5Y⅘ 淡黄色	回転糸切り	ロクロナデ	ヘラミガキ	内面黒色処理。
3	土師器	坏	Ⅲb層上面	底部	—	5.2cm	(1.5)cm	2.5Y⅘ 淡黄色	回転糸切り	ロクロナデ	ヘラミガキ	内面黒色処理。横位ヘラミガキ後。放射状ヘラミガキ。
4	土師器	甕か壺	Ⅲb層上面	底部	—	8.7cm	(3.3)cm	7.5YR⅞ 鈍い橙色	回転糸切り	ロクロナデ 粗いナデ	ロクロナデ	
5	土　錘	壺	Ⅲb層上面	—	—	—	—	2.5Y⅘ 淡黄色	—	—	—	長さ3.05cm。最大径約1.7cm。
6	土　錘	—	1号溝底面	—	—	—	—	10YR⅘ 淡黄橙色	—	—	—	長さ4.6cm。最大径(約1.65)cm。
7	土師器	甕か壺	Ⅲa層上面 ピット2	底部	—	11.2cm	(3.1)cm	7.5YR⅔ 鈍い橙色	席状圧痕	粗いナデ？	粗いナデ？	輪積み。内外面摩滅している。
8	陶　器	壺	3号溝：Ⅲa層上面	口縁	8.7cm	—	(7.4)cm		—			
9	陶　器	皿	3号溝堆積土2層	口縁～底部	12.7cm	4.7cm	2.65cm		—			相馬焼。
10	陶　器	徳　利	3号溝堆積土1.2層	口縁～体部	2.9cm	—	(10.6)cm		—			相馬焼。

第8図　Ⅲb層上面、1号溝、3号溝、ピット2の遺物



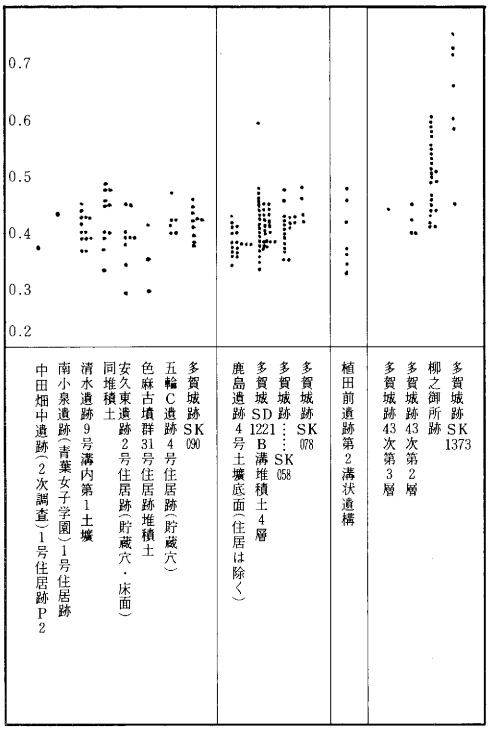
出土位置	種類	長さ(cm)	厚さ(cm)	石材	使用痕	表面	裏面	上端	下端	右側面	左側面
3号溝		7.4	4.1		磨面	—	—	—	—	○擦痕(長軸方向)黒褐色10YR3/1に変色	—
堆積土1層	凹石	幅(cm)	重さ(g)	溶岩	敲打痕(平)	—	—	—	—		—
		7.1	235.0		敲打痕(凹)	○(皿状)	○(皿状)				○
					凹み				○		



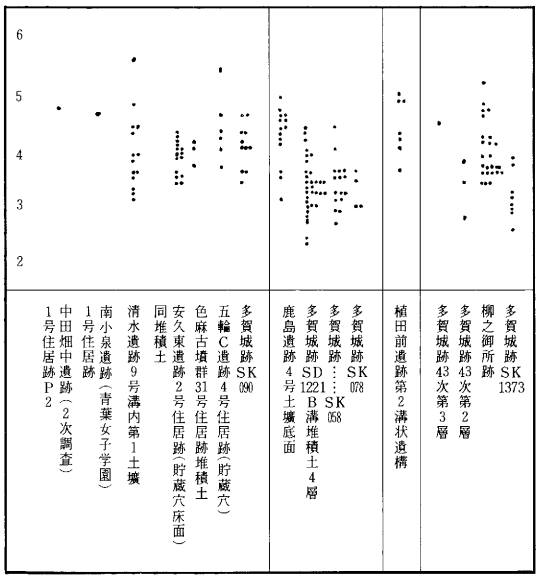
層位	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
Ⅲb層上面	石核	4.8	4.0	1.5	42.5	チャート	両極剥離？

第9図　石　　器

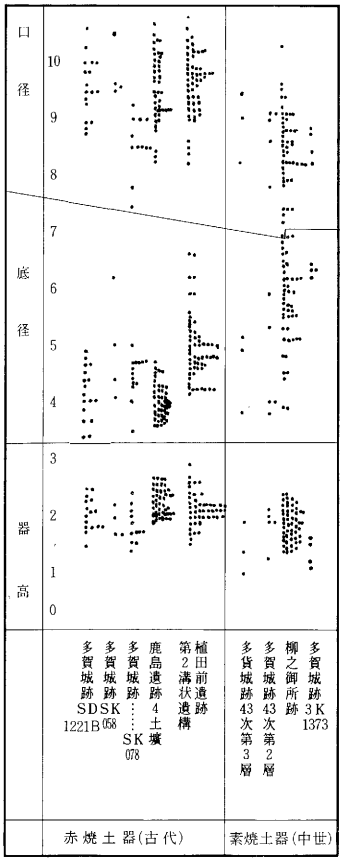
赤焼土器坏口径底径比法量表



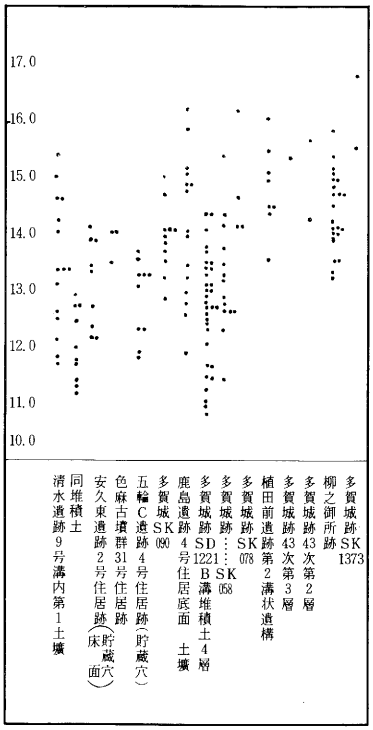
赤焼土器坏器高表



赤焼土器小皿法量表



赤焼土器坏口径表



赤焼土器小皿口径底径比表

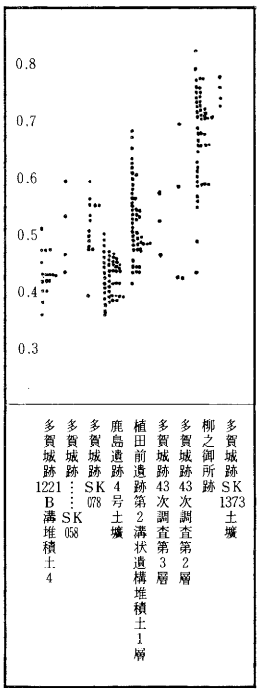


表2　赤焼土器等法量比

Ⅰ号住居跡・Ⅲ層上面破片集計表

種別	器形	部位	器面調整 外	器面調整 内	床面 1次	床面 2次	1号土壙	堆4	堆3	堆2	堆1	堆	Ⅲ層上面	計
土師器	坏	口	ロクロ	ミガキ(黒色)	2	2	5	3				17		
		体	ロクロ	ミガキ(黒色)				7		8		9		
		底	回転糸切(非)	ミガキ(黒色)						2		3		
		復元	ロクロ 回転糸切(非)	ミガキ(黒色) ミガキ(黒色)								① ①	①	
土師器	甕	口	ロクロ	ロクロ				1				1		
		体部	ロクロ	ロクロ	3			3		2		1		
			ロクロ	ナデ			1			1				
			ケズリ	ロクロ	3	2		3				4		
			ケズリ	ナデ	①	1				1		4	①	
			刷毛目	ナデ			1							
		底	回転糸切(非)										1	
須恵器	坏	口	ロクロ	ロクロ		1		1				2		
		体	ロクロ	ロクロ		2		1				2		
	甕	体	平行叩き	当て目						2				
			ケズリ	ナデ				1						
赤焼土器	坏	復元	ロクロ	ロクロ			②		①				①	
赤焼土器	坏	体	ロクロ	ロクロ			4			1				
鉄滓					2								5 (炉壁片1)	

○——○ は接合関係

3 号 溝

種別	生産地	器形	点数	3号溝 堆1層	堆2層	4層
陶器	相馬	碗	1	1		
		仏花瓶	1			1
		徳利	1	①——①		
		不明	1	1		
	堤	ほうろく	1	1		
	不明	ぐいのみ	1	1		
		鉢	1	1		
		不明	1	1		
磁器	肥前	碗	1	1		
	不明	瓶	2	1		1
計			11	9		2

第3表 破片集計表

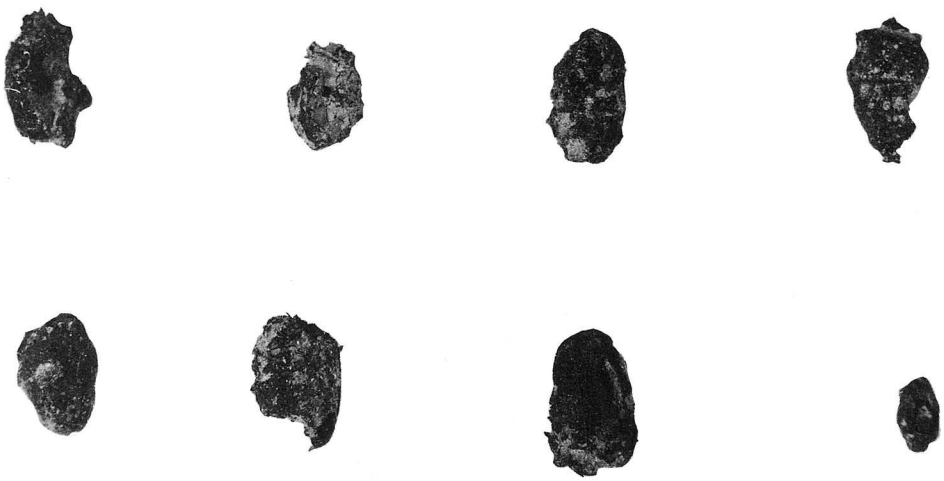
中田畑中遺跡（３次）１号住居跡ピット２堆積土サンプル調査結果

東北大学農学部　星　川　清　親

1985年２月16日に受領したビニール袋入り約１kgの土の中から、約300g のサンプルを無作為にとり出し、これを水中に溶解しながら、混入している植物遺体を調べた。

１．その結果８粒の玄米炭化物が見出された。いずれも表部の損傷がいちじるしく（写真）、焼けた様子がうかがわれた。なお、８粒中の１粒（写真下段最右）は玄米ではない可能性が強く、また他の食用穀物とも認められない。雑草種子であるかもしれない。

２．これら玄米は無秩序に混入しており、住居の床面に落ちた食糧とした米が、床の上や穴にゴミとしてたまったものであると思われる。焼けている理由は、焼米として食用にしたものか、住居の火災により焼けたものかは判別できない。



川添東遺跡

調査要項

仙台市登録番号C―121

期　日　試掘調査　昭和59年8月21日～27日

本調査　昭和59年10月5～6日

所在地　仙台市茂庭川添東10－1

対象面積　240㎡

調査面積　59㎡

調査主体　仙台市教育委員会

調査担当　社会教育課文化財調査係　田中則和、渡辺誠、及川格

調査参加　斎藤信次、阿部祐二、庄子信広

調査協力　西本景淳、赤石砕石株式会社、東京タツノ株式会社

1．遺跡の立地と歴史的環境（第1図）

川添東遺跡は茂庭の市街地から国道286号線西約500mに位置している。地形的には名取川北岸にあり、名取川低位段丘の上段、仙台市科学館発行の地形区分図による仙台上町段丘（標高77m前後）上に立地している。遺跡の範囲は、微地形の観察から、南側は名取川急崖に面し、西を小沢谷、東を亀ケ森を中心とする丘陵麓に画された、東西約200m、南北約100mの広がりの中に包蔵されている。

遺跡を中心とする周辺の歴史的環境は、名取川南岸の河岸段丘には砂田遺跡（縄文早期）、内城Ⅰ・Ⅱ（縄文）、舟窪遺跡（縄文）、大苗遺跡（縄文・弥生）、相ノ原遺跡（縄文後期）、青木沢A・B遺跡（縄文）そして大貝中・下遺跡（縄文中・晩）や塩ノ瀬遺跡（縄文）、また、北岸には中谷地南、舟木南、小塚西の各遺跡（縄文）や茂庭の河谷盆地縁辺にも、新組遺跡、門野山囲（縄文後・晩・弥生）、峯岸遺跡（縄文後期）など多くの遺跡が分布していて、ここ名取川の中流に展開する河岸段丘には縄文時代各期（早・前・中・後・晩）の遺跡群が営まれた、市内でも稀有の縄文遺跡散布地帯となっている。当川添東遺跡もこの遺跡群の中にあって、縄文早・前・中・後・晩の各期が複合する遺跡として古くから知られていたところである。

2．発掘調査の成果

この調査は緊急調査であったため、Ⅰ～Ⅵ層上面までは平面的な調査を実施したが、Ⅶ層以下Ⅺ層までは断面観察に留めざるを得なかったことを付記しておく。

遺跡の基本層位

Ⅰ層からⅢa層は、近年の重機械による、西方向からの再堆積層から成っていて、この層の中には縄文時代早・前・後・晩の各期の遺物が含まれていた。Ⅲa層は暗褐色のシルト質で、摩滅しながらも加工痕が観察できる礫石器らしいもの1点が出土している。Ⅳ層は黄褐色の砂質シルトである。これより以下は、砂礫、砂質シルト、シルト質砂層となっていて、Ⅵ～Ⅸ層はとくに水の作用による堆積層ではないかと考えられる。

遺構と遺物

遺構としては、明確にはⅢb層上面で検出された溝跡1条だけである。この溝跡はN—88°—Wでほゞ磁北に直交する方向で確認されている。溝跡の形状は、上端の幅が最大値で約110㎝下端幅平均で約25㎝、深さ約50㎝で、その断面形状は明瞭な逆台形を呈している。溝跡の堆積土の中から、縄文時代早期末葉の土器片1点と前期以降の土器片1点が出土した。溝跡の年代については不明である。この他、Ⅳ層上面で凹状の落ち込みを確認したが（これを黄褐色の砂から成るレンズ状の堆積層＝Ⅳb層）この面に接するⅣa層とⅣc層は砂質層から成っていることから、激しい水の流れによってできた、自然の溝状の凹みであろうと考えられるものである。

出土遺物としては、縄文土器の破片10数点と石器7点である。縄文土器はすべて破片であり、その器形や形状については不明のものばかりである。しかし、その施文の特徴から、①内外面ともに条痕が施されているもの、②羽状縄文の施文があるもの、③磨消縄文が施されているもの、④横位ＬＲ縄文＋綾絡文のもの等に大別はできる。以下、出土遺物にいて若干の記述を加えておく。

①は内外面に条痕のあるもの。これは、いわゆる「条痕文土器」と呼称される縄文早期末葉土器で、総数11片が出土している。すべて細片であるが、胎土にはすべて繊維を含んでいて、繊維土器といわれるもので、一般的には素山2式[(1)]といわれる特徴をもつものである。

②は、摩耗した小破片で結束状況は若干不明ではあるが、胎土に繊維を含む羽状縄文が施文されているものである。こうした土器形式は、縄文早期でも最も末葉に当るか、もしくは前期前半に位置づけられているが、内面に「磨き」が施される特徴をもつことから、諸説はあるが、前期前半に位置づけられている上川名Ⅱ式[(2)]、大木Ⅰ～Ⅱ式[(3)]のいずれかに属すると考えられるものである。

③は、磨消技法が完全ではない特徴をもつもので、縄文後期前半に属するものである。

④は、小破片で詳細については不明な点は多いが、綾絡文が横位から斜位の施文と考えられるもので、しかも薄手の繊維を含まない胎土である特徴をもつ。したがって、晩期もしくは大木7a式期の可能性をもつものと考えられる。

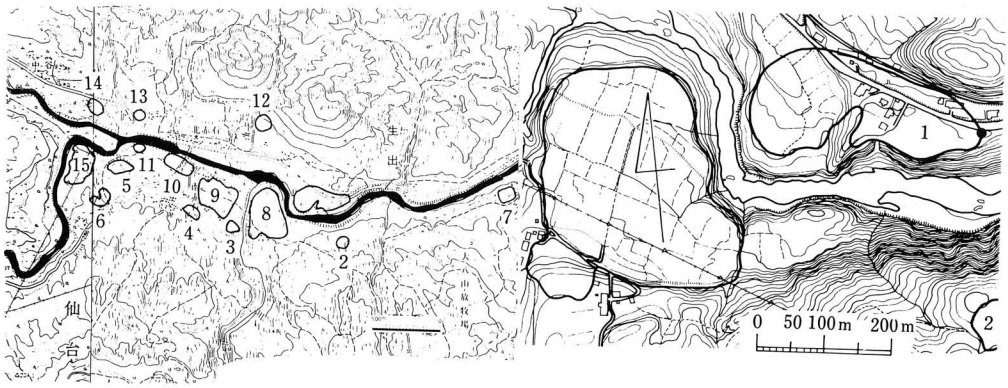
石器に剝片及び剝片を素材とする石器であるスクレイパー、二次加工ある剝片がある。礫を

素材とする石器（第13図13）は新しい破損面をもち、最も広い平坦面に敲打痕？による皿状凹みの集合により凹部が形成される、いわゆる凹石である。

この他図示しなかったⅢｂ層出土の礫を素材とする石器は剝離面が５面観察されるが、全体的に磨滅が認められる。

以上が調査の概要である。これらの緊急調査から、この川添東遺跡は、縄文時代の全期にわたって営まれた、縄文時代の複合遺跡であることが確認された。

（田中則和・早坂春一）



No.	遺跡名	段丘名	年代
1	川添東	上町＋中町	縄文(早・前・中・後・晩期)
2	大貝下	台の原	縄文（中期）
3	青木沢	上町	縄文
4	青木沢B	（低位段丘下段）	縄文（晩期）
5	舟窪	〃	縄文
6	内城Ⅰ	〃	縄文・平安
7	塩ノ瀬	中町	縄文・古墳・平安

● 年代は仙台市文化財分布図（1983）、
地形区分は地形分類図（仙台市科学館1985年刊行予定）による。

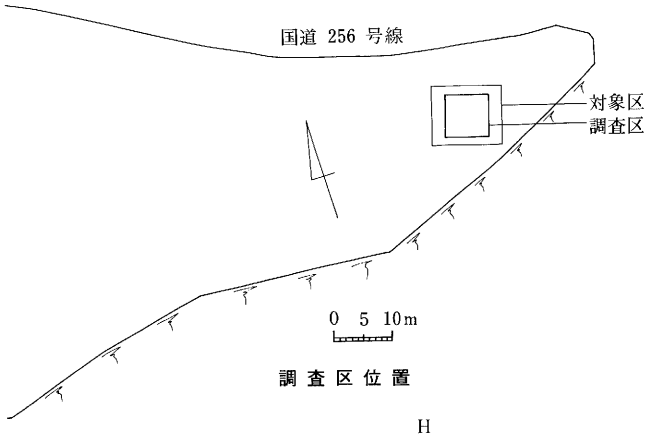
No.	遺跡名	段丘名	年代
8	大貝中	中町	縄文(晩期)・古墳・平安
9	相ノ原	(低位段丘下段)	縄文（後期）
10	大苗	〃	縄文・弥生
11	内城Ⅱ	〃	縄文・奈良・平安
12	小塚西	〃	縄文（中期）
13	舟木南	〃	縄文
14	中谷地南	〃	縄文・古墳・平安
15	砂田		縄文(早)・奈良・平安

第１図　周辺の遺跡

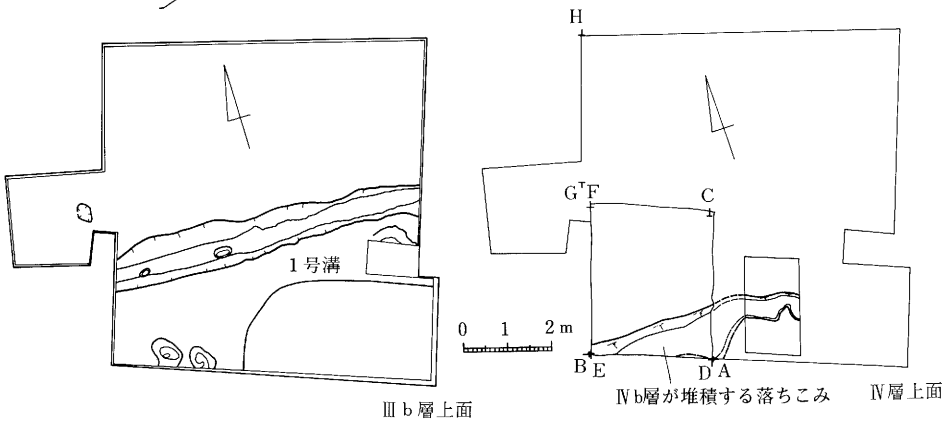
註(1)伊東信雄『宮城県遠田郡不動堂村素山貝塚調査報告』1940

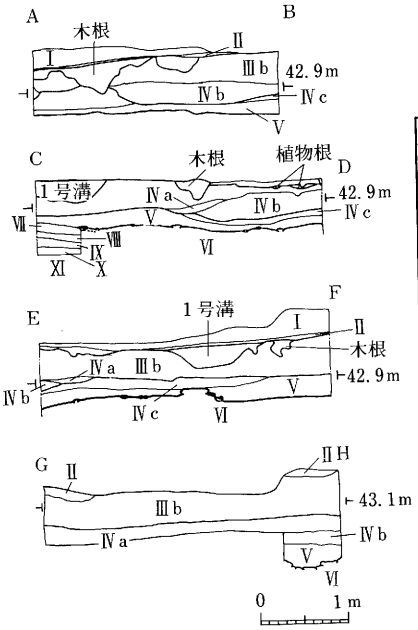
(2)加藤　孝「宮城県上川名貝塚の研究—東北地方縄文式文化の編年学的研究(1)」
『宮城学院女子大学研究論集Ⅰ』1951

(3)興野義一「大木式土器理解のために(1)」『考古学ジャーナルNo.13』1968
「大木式土器理解のために(2)」『考古学ジャーナルNo.16』1968



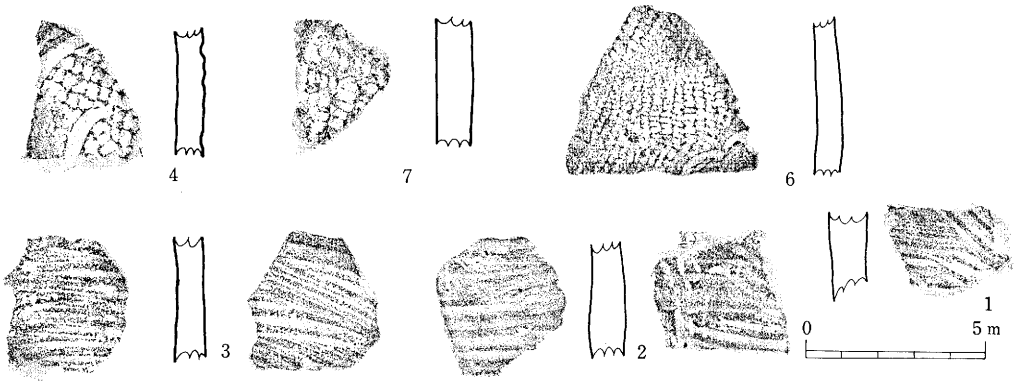
調 査 区 位 置



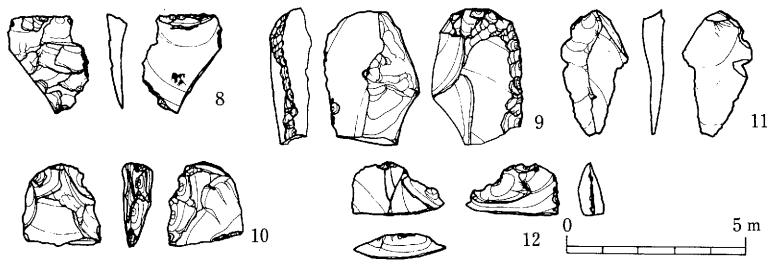


層位	土色		土性	備考
Ⅰ	黒色	10YR 3/1	シルト	近年の再堆積層
Ⅱ	にぶい黄褐色	10YR 3/3	シルト	近年の再堆積層
Ⅲa	明黄褐色	10YR 5/6	シルト	Ⅲb層の再堆積層か
Ⅲb	暗褐色	10YR 3 5/3 5	シルト	
Ⅳa	黄褐色	10YR 5/6	シルト	
Ⅳb	黄褐色	2.5Y 5/3	砂	幅1mm前後黒色シルト質のラミナ数条
Ⅳc	黄褐色	10YR 5/6	シルト	
Ⅴ	明黄褐色	10YR 5/6	粘土質シルト	
Ⅵ	砂礫層：にぶい黄褐色10YR 5/6粘土質シルトに長さ2～5cm（まれに20cm）の円礫を多量に含む。浅黄色2.5Y 7/4粘土ブロックをまばらに含む。			
Ⅶ	灰褐色	2.5Y 5/2	砂	
Ⅷ	明黄褐色	10YR 5 5/6	シルト砂質	
Ⅸ	明黄褐色	10YR 5 5/6	シルト質砂	
Ⅹ	にぶい黄褐色	10YR 5/3	砂	
Ⅺ	にぶい黄褐色	10YR 5/6	砂	
1号溝	暗褐色	10YR 3·5/3.5	シルト	

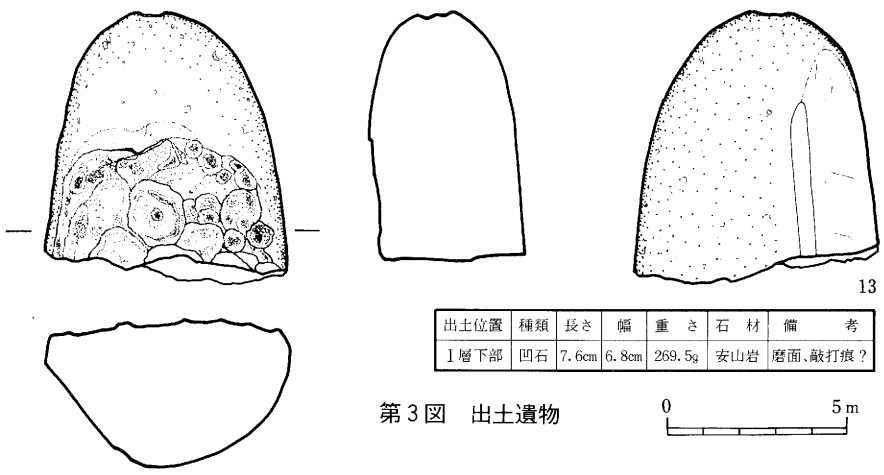
第2図　遺　　構



No.	層位	部位	外面施文・調整	外面施文・調整	胎土	備考
1	1号溝堆Ⅰ層	体部	条痕	条痕	繊維を含む。石英粒（1㎜前後）	断面黒褐色10YR3/1
2	Ⅱ層上面	体部	条痕	条痕	繊維を含む。石英粒（1～3㎜）	〃
3	Ⅱ層	体部	条痕	条痕	繊維を含む。石英粒（1㎜前後）	一部、〃
4	撹土	体部	LR縄文→弧状沈線	――	砂粒(赤褐色2.5YR4/6 1㎜前後含)多	
5	撹土	体部	条痕（横位）	条痕(横位・斜位)	繊維を含む。白色粒（1㎜前後）若干	断面、黒褐色10YR 3/1
6	撹土	体部	LR縄文＋綾絡文(横位)	――	砂粒を多く含む	
7	撹土	体部	羽状縄文（LR＋RL）	――	繊維を含む。石英粒（0.5㎜前後）	断面、黒褐色2.5Y3/1



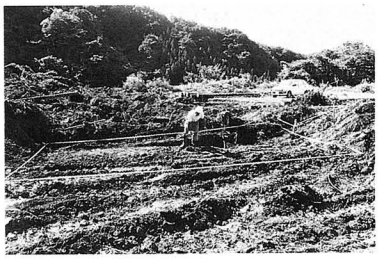
No.	種類	出土位置	石材	重量	最大長	最大幅	厚さ	折面	備考
8	二次加工ある剥片	Ⅰ層下部	珪質頁岩	2.0g	27㎜	22㎜	5㎜	○	腹面に光沢ある黒色の付着物
9	スクレイパー	Ⅰ層下部	珪質頁岩	8.0	37	25	12	○	
10	二次加工ある剥片	Ⅰ層下部	珪質頁岩	3.5	23	21	9	○	折面に二次加工している。
11	剥片	Ⅰ層下部	珪質頁岩	2.0	35	19		×	微細剥離あり。
12	二次加工ある剥片	Ⅰ層下部	珪質頁岩	2.0	26	14		○	



出土位置	種類	長さ	幅	重さ	石材	備考
Ⅰ層下部	凹石	7.6cm	6.8cm	269.5g	安山岩	磨面、敲打痕？

第3図　出土遺物

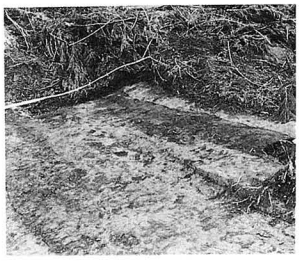
0　5 m



発掘調査トレンチ（北から）

発掘調査トレンチ（西から）

断面（西から）

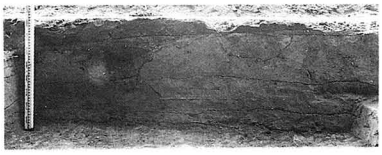


1号溝確認状況

1号溝掘上状況

西側断面（東から）

東側断面（西から）



南側断面（北から）

礫層上面（西から）

4

7

6

3

2

8

9

11

10

12

写　　真

若林城跡

所在地　仙台市古城二丁目３の１　宮城刑務所内

期　日　試掘調査　昭和59年７月26・27日

　　本調査　　昭和59年11月16・17日

面　積　本調査　　43㎡　　試掘調査353㎡（次年度本調査区を除く）

調査員　藤沼邦彦、今野隆（以上県教育委員会　試掘調査のみ）

　　田中則和（仙台市教育委員会）

協　力　宮城刑務所　安住芳朗

１．調査に至る経過

若林城跡として知られる宮城刑務所敷地内において講堂建設が企画され昭和59年10月22日付で発掘届が提出された。県教育委員会、宮城刑務所三者協議の結果、同年７月26・27日県教育委員会と合同で試掘調査を実施した。その結果、大部分刑務所に関連する旧建物基礎、配管等による攪乱であったが一部に柱穴群等を確認したので11月16・17日講堂建設予定地にかかる柱穴群の調査を実施した。なおこれとは別に工場建設が企画されたため（昭和60年４月16日付発掘届）同年５月８日試掘調査（県市合同）が実施されており平安時代？の竪穴住居跡と思われる黒褐色土のりんかくを２軒分確認している。これに伴う本調査は昭和60年度実施の予定。

２．基本層位

Ⅰ層は刑務所旧建物基礎による攪乱で基礎掘り方の可能性がある。Ⅱ層は横方向のラミナにより構成されており時代不明であるが整地層の可能性もある。Ⅲ層は柱穴群の検出面である。しかし後述するように柱穴の浅さから柱穴の掘りこみ面はⅢ層上面に上る可能性がある。なおる。なおⅠ層の攪乱層は調査区の大部分でⅢ層中にまで及んでおり、遺構の検出はⅢ層中である。

３．遺構と遺物

Ⅲ層中で掘立柱建設跡の可能性あるもの１棟、掘立柱建物跡を構成している可能性がある掘り方と柱穴痕の区別されるピットがＰ5、Ｐ6及び小ピットであるＰ7～９等がある。

１号掘立柱建物跡[(1)]は調査区内で完結していない。検出されたのは建物の西南部とも思われるが総柱の建物跡かどうかは不明である。南辺柱列の方向はＮ―104°―Ｅである。柱穴はＰ1～Ｐ4であるがＰ1は前述のように36.8㎝と深いが柱穴痕が検出されていない。又Ｐ4は攪乱のため残存部分がわずかであり柱穴は確認されていない。規模は１間以上×２間以上である。西辺の柱間距離は1.65ｍ、南辺は東から1.95ｍ、1.65ｍである。Ｐ1の埋め土？、Ｐ2～4の掘り方埋め土はにぶい黄橙10ＹＲ6/4粘土質シルトである。遺物はピットＮo5の掘り方より棒状鉄製品が１

点出土しているのみである。長さ3.8cm。断面は4.5×2mmの長方形を呈している。釘の可能性があるが錆が2～3mmの厚さでとりまいているため十分な観察ができない。

(1) 西辺と南辺のもつ角度が96°と広く、P1の柱穴が確認されない点疑問が残るが一応建物跡とした。

4．考　　察

1号掘立柱建物跡及び柱穴掘り方と柱痕跡の区別のつくピット群の年代を考えるために宮城県内における古代（平安時代に限定）、中世、近世の掘立柱建物跡を概観する。

〈平安時代〉

年代のほぼ確実な11棟を対象とした(1)～(6)。(1)柱穴掘り方の平面形には(A)方形を基調とするもの：11例(1)～(6)と(B)不整円形のもの：1例であり(A)が圧倒的に多い。(2)柱穴掘り方の規模は一辺の長さが45～50cmを境に二つに分けられる。(A)50～130cmのもの：9例(1ac)(2a)(3)(4)(5)と(B)30～45cmのもの：2例(1b)(2b)がある。(3)柱痕跡の平面形については11例全てが円形であった。(4)柱間寸法については、各寸法の詳細が公表されず平均値で示されているものが相当数あるため、建物単位ごとに概数で分類せざるをえない。桁行が判明するもの(A)170～200cm：2例(1bc)、(B)190～210cm：1例(2b)(4)、(C)190～230cm：1例(4)、(D)200～210cm：1例(1a)、(E)225cm等間：1例(6)、(F)230～250cm：1例(5)、(G)250～270cm：1例(3b)、(H)250～300cm：1例(3a)、(I)290cm等間：1例(2a)と多様であるが〈中世〉に比し200cm以上の組合せが多い。

〈中　　世〉

年代のほぼ確実な16棟(7)(8)(11)を対象とした。(1)柱穴掘り方の平面形には(A)方形と円形を基調とするも：6例(7)、(B)楕円形を基調とするもの：5例(11b·h)、(C)円形を基調とするもの：1例(11a～b·h)(8)がある。但し(C)の例は報文に「柱痕跡を意識していない調査」とあり比較の対象としては二次的な資料である。なおこの中で時代が特定できる範囲はAが13～16世紀、Bは15～16世紀であり山城である。(2)柱穴掘り方の規模は一辺又は径が45～50cmを境に二つに分けられる。(A)20～45cm：0例(7)(8)(11c)、(B)50～80cm：4例(11ade)であり(A)例は13～15世紀、(B)例は15～16世紀の年代幅が考えられる。(3)柱痕跡の平面形は(A)円形：7例(1)(2)(11a～e)、(B)円形と方形：2例(11b)で(B)例に与えられた年代幅は13～15世紀である。(C)柱間寸法については(A)120～150cm：2例(7dg)、(B)140～170cm：2例(7eb)、(C)180～220cm：6例(7bce)(11ad)、(D)190～260cm：1例(7a)、(E)280～290cm：1例(8)と(C)の180～220cmが多い。

〈近　　世〉（安土桃山時代―16世紀後葉を含む）

ほぼ年代の確実な7棟(9)(10)(13)を対象とした。(1)柱穴掘り方は(A)長楕円形（桁方向に沿う）のもの：4例(6)、(B)不整楕円形が多く長楕円形のもの（桁方向に沿うわけではない）：3例(10b)(9)である。A例は江戸時代で(B)例には16世紀末から17世紀初期のものを含む(13)。(2)柱穴掘り方の規模は(A)径30～60cm―3例(10a)(13)、(B)70×130cm：1例(9a)、(C)100×150cm：1例(9b)であり(A)には16世紀末から17世紀初期のものが含まれ(13)(B)(C)は江戸時代のものである。(3)柱痕跡は全て円形である。(4)柱間寸法は(A)180～190cm―2例(13)、(B)190～200cm：1例(9c)、(C)200～215cm：1例(10a)、(D)180～240cm：1例(9a)、(E)220～240cm(9b)

：1例であり多様である。この内(A)例は16世紀末～17世紀初期、(B)(D)(E)は江戸時代後期の年代が与えられている。

さて今回調査した1号掘立柱建物跡について(1)柱穴掘り方は(A)の方形と円形を基調とするものに相当する。(2)の柱穴掘り方の規模は一辺24～37cm、もしくは径30cmであり、規模の点だけでは方形を基調とする平安時代にないわけではないが掘り方に方形と円形があるという点で検出個数の少なさという限界は否めないものの中世において多数をしめる掘り方規模である(A)一辺又は径が20～45cmのグループに相当する。(3)の円柱痕そのものは特に年代を限定する要素ではない。(4)の柱間寸法については1.95＋1.75cm及び1.65cmという値は平安時代、中世、及び近世にも近いデータがある。あえて言えば180～220cm間の多用という事がいえるのかも知れない。又16世紀末から17世紀初期と年代が限定される南小泉遺跡例[13]でも180～190cmという寸法値であることは注意すべきである。以上年代決定要素としては(1)の柱穴掘り方の形態がかなり有効であり、これを中世から近世初期とすれば(2)、(3)、(4)の項目については矛盾がない。

次ぎに柱穴掘り方と柱穴痕が区別されるピット群の中でピット5は、明瞭な角柱痕をもっている。残存状況が良く柱の角がほぼ直角に近かったと推定される。ピット5掘り方埋め土からは棒状鉄製品が出土しているが現段階では年代決定資料とはなりえない。角柱痕は、前述の整理からすれば13～16世紀である。又、掘立掘建物跡が存在するのは、東北地方では新庄藩の文化二年（1763）年の百姓家作令で18世紀中葉に礎石立への転換期が知られ[14]、名主クラスでは江刺市向山旧後藤家調査例では角柱を用い、出土笹塔婆から元禄八（1695）年前後に転換期が認められる[15]。未だ調査例は少ないが江戸時代を通じて年代的、階層の上層から下層へと掘立から礎石立へと転換していったと思われる。角柱の例は引用した14～16世紀とされる御所館跡（山城）の5－4号棟及び、年代決定遺物に乏しく分析対象としなかったが今泉城跡[12]堀跡との中軸線並行関係から16～17世紀初期と推定される18号建物跡に多用されている。又同じく堀との並行関係から13～15世紀と推定される17号建物跡も柱穴形状から角柱が使われていた可能性がある。次ぎに柱痕形態のみならず建物跡を考える場合にその住人の階層を考えることは重要な課題の一つである。現在確認される角柱痕例は、山城である御所館跡と平城である今泉城跡である。これらは引用した各遺跡例と間に、規模等において明瞭な差を見い出し難いものであり今後の検討課題である。なお御所館跡例においては、立地が館の平場の谷をはさんだ南端に位置し、掲載されているのは検出された36棟の内1棟の一部ということでその性格については疑問な点が多い。以上、角柱をもつ建物は、14～17世紀を中心とする年代が考えられる。したがって1号建物跡とピット5は、大きくは同じ年代幅にはいってくるわけであるがこのことは1号建物跡とピット5の掘り方埋め土が共通して、にぶい黄橙10YR6/4粘土質シルトであることと矛盾しない。

若林城等との関連

さて、宮城刑務所敷地は若林城跡として知られている。若林城は、伊達政宗晩年の居城である。1627（寛永四）年、「屋敷構え」の許可を幕府から得て、翌年には完成している。1636（寛永十三）年、政宗が没し構築物を残し、城及び城下に形成された町屋敷は廃止された。「屋形」は1636年、建設中の仙台城二の丸に移された。また、若林城築城以前、当地はすでに「古城」と呼ばれていた。『仙台古城書上』にみえる「小泉邑」の二つの古城（いずれも国分氏居城か）のうちどちらかの可能性がある。うち一つは天文年中（1532～1555年）以降の居城で末孫は国分能登守盛氏居城と記してある。これらの文献[16]からすれば、政宗築城以前にこの地に城郭があったと仮定して、文献からは、中世及び近世初期（17世紀前半）の年代が考えられる。

ま と め

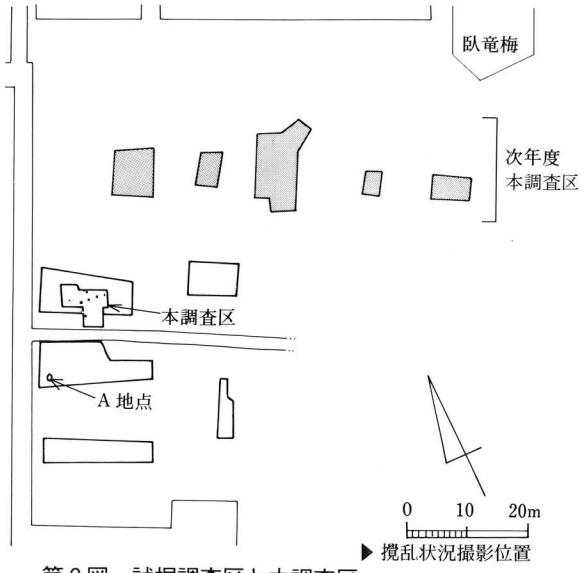
1号掘立柱建物跡及び掘立柱建物跡を構成する可能性のある柱穴掘り方と柱痕跡の区別のあるピット群は以上の考察から中世から近世初期の幅におさまる可能性が強い。このことは文献上の若林城（1627～1636）及び国分氏の居城が同地に存在した場合の年代である中世から近世初期の年代幅と重なる。したがって今後、これらに相当する可能性を含めて検証していく必要がある[17]。

（田中則和）

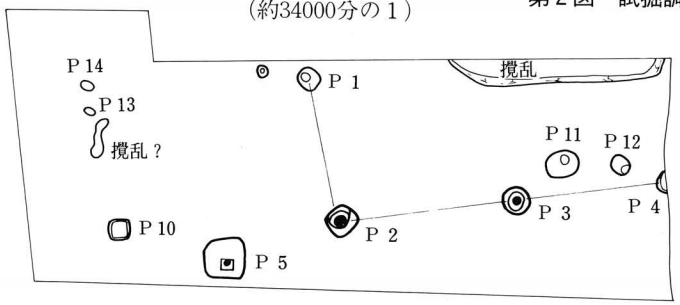
註

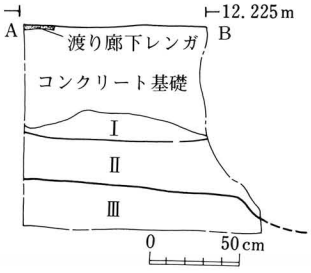
(1) 阿部博志・千葉宗久「台ノ山遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅱ』1980　宮城県教育委員会—第1[a]・2[b]・3[c]号掘立柱建物跡
(2) 加藤道雄・佐藤好一「藤屋敷遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅱ』1980　宮城県教育委員会—第1[a]・2号[b]掘立柱建物跡
(3) 青沼一民・長島栄一「中田畑中遺跡」1983　仙台市教育委員会—SB1[a]・2[b]・3[c]掘建柱建物跡
(4) 渡部弘美『南小泉遺跡』1983　仙台市教育委員会—2号掘立柱建物跡
(5) 渡部弘美『燕沢遺跡』　1984　仙台市教育委員会—1号掘立柱建物跡
(6) 佐々木和博『鹿島遺跡・竹之内遺跡』1985　宮城県教育委員会—掘立柱建物跡1棟
(7) 加藤道雄・阿部博志「観音沢遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅳ』1980　宮城県教育委員会—第1[a]・2[b]・3[c]・4[d]・5[e]・6[f]・7[g]号建物跡
(8) 黒川利司「持長寺遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ』1980　宮城県教育委員会—4号建物跡
(9) 小井川和夫「八沢要害遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅳ』1980　宮城県教育委員会—B—2[a]・4[b]・5[c]号棟
(10) 手塚　均「鶴ノ丸遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅴ』1981　宮城県教育委員会—1・3号掘立柱建物跡
(11) 斉藤吉弘「八谷館」—B1[a]・5[b]・6[c]・7[d]・12[e]号棟、「駒場小屋館」—5[f]・6号[g]棟「御所館」[h]—9—4号棟『東北自動車道遺跡調査報告書』1983　宮城県教育委員会
(12) 佐藤洋他『今泉城跡』1983　仙台市教育委員会—17・18号建物跡
(13) 菊地逸夫『南小泉遺跡』1983　宮城県教育委員会—第1・2号建物跡—16世紀末～17世紀初期
(14) 小倉強『東北の古民家』1955　相模書房
太田博太郎「近世の農家」『日本住宅史の研究（日本建築史論集Ⅱ）1984　岩波書店
(15) 宮沢智士「近世民家の地域的特色」『講座・日本技術の社会史』1983　日本評論社
(16) 小林清治「第二章　城下の拡張と二ノ丸の構築」『仙台市史1』1954　仙台市役所
(17) 三原良吉『宮城刑務所と若林城』1978（再）宮城刑務所

第１図　大正14年(1925)発行「仙台近郊図」
(約34000分の１)



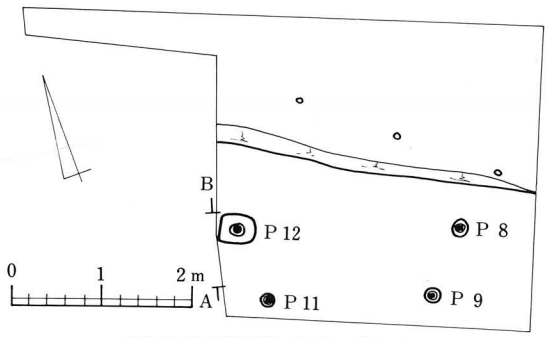
第２図　試掘調査区と本調査区





Ⅰ層	黄褐色10ＹＲ5/6シルト 明黄褐色10ＹＲ6/6シルトのラシをはさむ
Ⅱ層	褐色10ＹＲ4/4シルトと黄褐色 10ＹＲ5/6シルトの互層的な混合
Ⅲ層	黄褐色10ＹＲ5/6シルト

第３図　基本層位



Ⅲ層中検出柱穴群（黒丸は柱穴痕下端）

Ⅰ号建物跡

番号 / 平面形	1　隅丸方形	2　隅丸方形	3　円　形	4　円　形？
深さ	36.8　長軸25　短軸23	24.1 － 辺32	13.0　径30	―――
掘方	にぶい黄橙10ＹＲ5/4粘土質シルト	にぶい黄橙10ＹＲ5/4粘土質シルト	にぶい黄橙10ＹＲ5/4粘土質シルト	にぶい黄橙10ＹＲ5/4粘土質シルト
柱穴	―――	にぶい黄橙10ＹＲ5/6シルト質粘土	にぶい黄褐色10ＹＲ5/4シルト質粘土	―――
備考		柱穴堆積土は掘り方のそれより赤味		３分の２は攪乱され柱穴不明

柱痕跡と掘り方の区別のつくもの

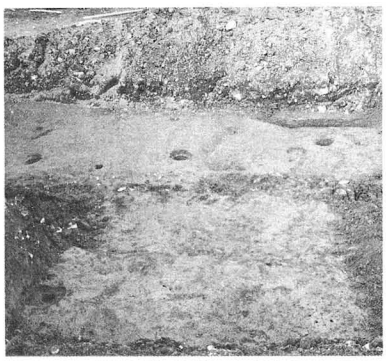
番　号	5	隅丸方形	6	隅丸方形	7	円　形	8	円　形	9	円　形
深　さ	55.7	辺46	18.8	長軸40　短軸34	10.5	径14	4.5	径17	3.9	径17
掘り方	にぶい黄橙10YR⅝粘土質シルト		褐色10YR⅝粘土質シルト		暗褐色7.5YR⅜粘土質シルト		にぶい黄橙10YR⅝粘土質シルト		にぶい黄橙10YR⅝粘土質シルト	
柱　穴	黄褐色10YR⅝シルト質粘土（密度弱）		褐色10YR⅝粘土質シルト		にぶい黄褐色10YR⅝シルト		褐色10YR⅝シルト質粘土		にぶい黄褐色10YR⅝粘土質シルト	
備　考	柱穴は方形16×16cm下端は円形径10cm 掘り方より棒状鉄製品1点				掘り方堆積土の壁は酸化し埋め土は強くグライ化している。					

ピ　ッ　ト

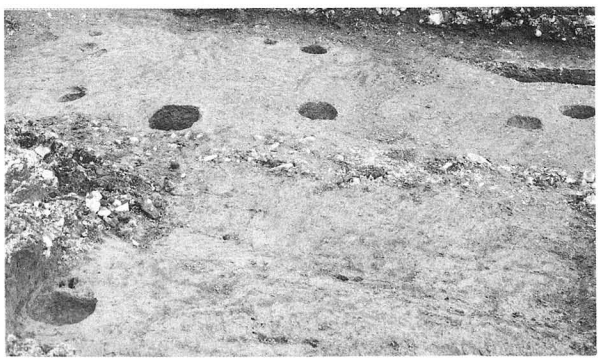
番号 平面形	10	隅丸方形	11	不整楕円形	12	不整円形	13	不整円形	14	楕円形
法　量	深さ19.1　辺24		深さ59.5　長軸38　短軸30		深さ30.0　径22		深さ6.0　径10		深さ36.4	
堆積土	にぶい黄橙10YR⅝ 粘土質シルト		褐色10YR⅝粘土質シルト		褐色10YR⅝ 粘土質シルト		にぶい黄橙10YR⅝粘土質シルト			

単位：cm

第4図　Ⅲ層中検出柱穴群他

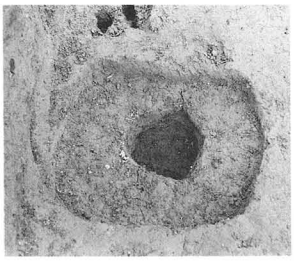


柱穴群全景（南から）



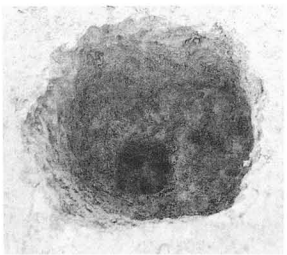
柱穴群（南から）

南端試掘トレンチ状況（第2図）

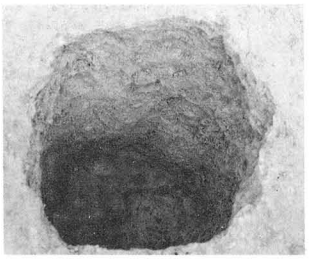


P12

P9



P5



P5掘り上げ状況

P5掘り方出土鉄製品

写真1　Ⅲ層中検出柱穴群他

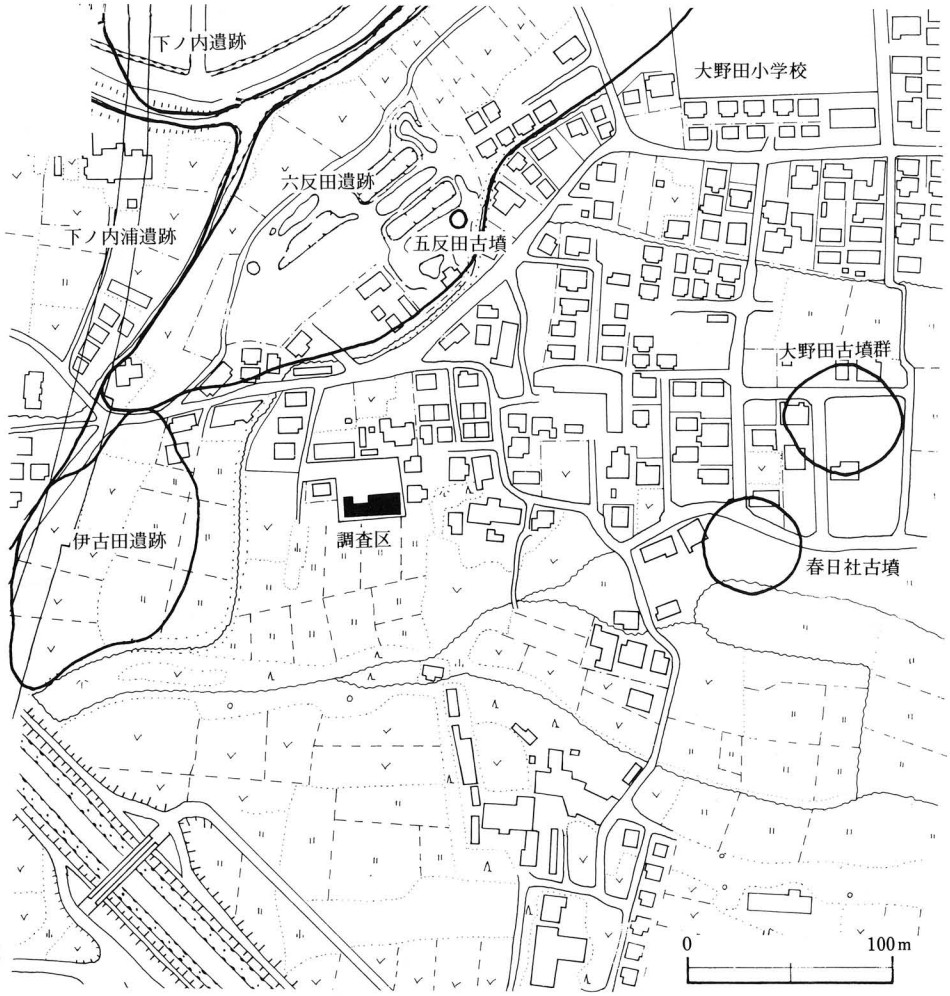
第　2　図

伊 古 田 遺 跡

1、遺跡の位置と環境

伊古田遺跡は仙台市の南部、仙台市大野田字千苅田７－１にある（第１図)。この位置は国鉄長町駅の南西約２㎞である。本遺跡は沖積平野である「宮城野海岸平野」の中で、「郡山低地」に含まれる。「郡山低地」の地形を見ると、西半部の後背湿地、東部及び南部の自然堤防に大別される。この地形は、本遺跡の南約800m を東流する名取川と支流の広瀬川、笊川等が形成したものと考えられている。本遺跡は自然堤防上に立地し、標高は13.0m 前後である。

本遺跡の周辺には、縄文時代早期から中世にかけての遺跡が数多く分布している。主な遺跡としては、本遺跡の西側に下ノ内遺跡（縄文・古墳・奈良)、富沢館跡（中世)、北側に六反田遺



第１図　調査区位置図

跡（縄文・古墳・奈良）、富沢水田遺跡（弥生・平安・中世）、下ノ内浦遺跡（縄文・弥生・古墳・平安）、山口遺跡（縄文・奈良・平安）などがある。また、五反田古墳・大野田古墳群・春日社古墳・王の壇古墳・鳥居塚古墳などの古墳が集中して分布している。今年度の調査では、縄文時代早期の押型文土器（下ノ内浦遺跡）、縄文時時代後期の配石墓（下ノ内浦遺跡）、配石遺構（六反田遺跡）の他、同時期の大型土偶（伊古田遺跡）等が発見されている。

2、調査に至る経過

伊古田遺跡の位置する大野田地区は、最近になって高速鉄道建設工事に伴い周辺の開発が増加し、田畑は減少の一途をたどっている地域である。将来、高速鉄道の開業やこれに伴う交通網の整備等により、さらに宅地化等が促進されると思われる。

昭和59年９月20日、仙台市大野田字元袋19、板橋與一郎氏より伊古田遺跡の発掘届が仙台市教育委員会に提出された。その内容は、仙台市大野田字千苅田７－１に共同住宅を建設するというものであった。工事がパイル工法を伴い地下遺構が損なわれる恐れがあったため、同年10月11日から４日間試掘調査を実施した。その結果、旧耕作土（畑）直下で円形周溝１基、小溝状遺構・ピットを多数検出した。これに基づき、当教育委員会は申請者に対し設計変更を要請し、埋蔵文化財の保護に努めたが、建物の構造上全面的な設計変更は不可能ということであった。

以上の経緯から、仙台市教育委員会は建物部分によって破壊される個所について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで申請者の承諾を得、昭和59年10月25日から本調査を実施した。

3、基本層位

旧耕作土を含め８層確認された。第１・２層は旧耕作土（畑）である。第３層は暗灰黄色のシルト層で調査区東側を中心に耕作による削平が認められる。第４層は褐色のシルト層、第５層は３層に細分されるにぶい黄褐色のシルト質粘土層、第６層は暗褐色の砂質シルト層、第７層はにぶい黄褐色の砂層、第８層は砂礫層である。

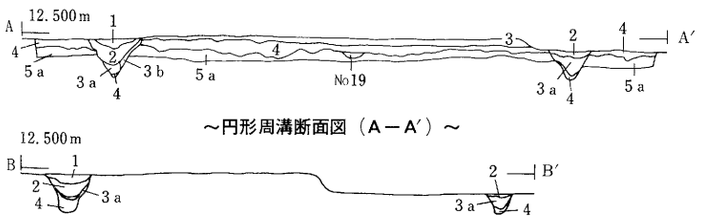
今回の調査で遺構確認面となったのは、第３層及び第４層、第５層の上面である。本遺跡内及び北側に隣接する六反田遺跡で確認されている縄文時代の遺物包含層は検出されなかった。

4、発見遺構と出土遺物

今回の調査で発見された遺構は、円形周溝１基、小溝状遺構19状、ピット138個である（第３図）。

円形周溝　調査区東側第３層上面で検出した。南半部は耕作による削平を受けているため第４層上面で検出した。

〔平面形・規模〕長径8.0m×短径6.9mの不整円形に溝が途切れなくめぐるものである。



第２図　遺構配置図

周 溝 堆 積 土

層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR 3/3暗褐色	シ ル ト	にぶい黄褐色シルトを斑状に、マンガン粒を少量含む
2	10YR 3/4暗黄褐色	粘土質シルト	灰白色シルトを斑状に少量含む
3a	10YR 4/3にぶい黄褐色	シ ル ト	
3b	7.5YR 4/2灰褐色	粘土質シルト	
4	10YR 5/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘 性 あ り

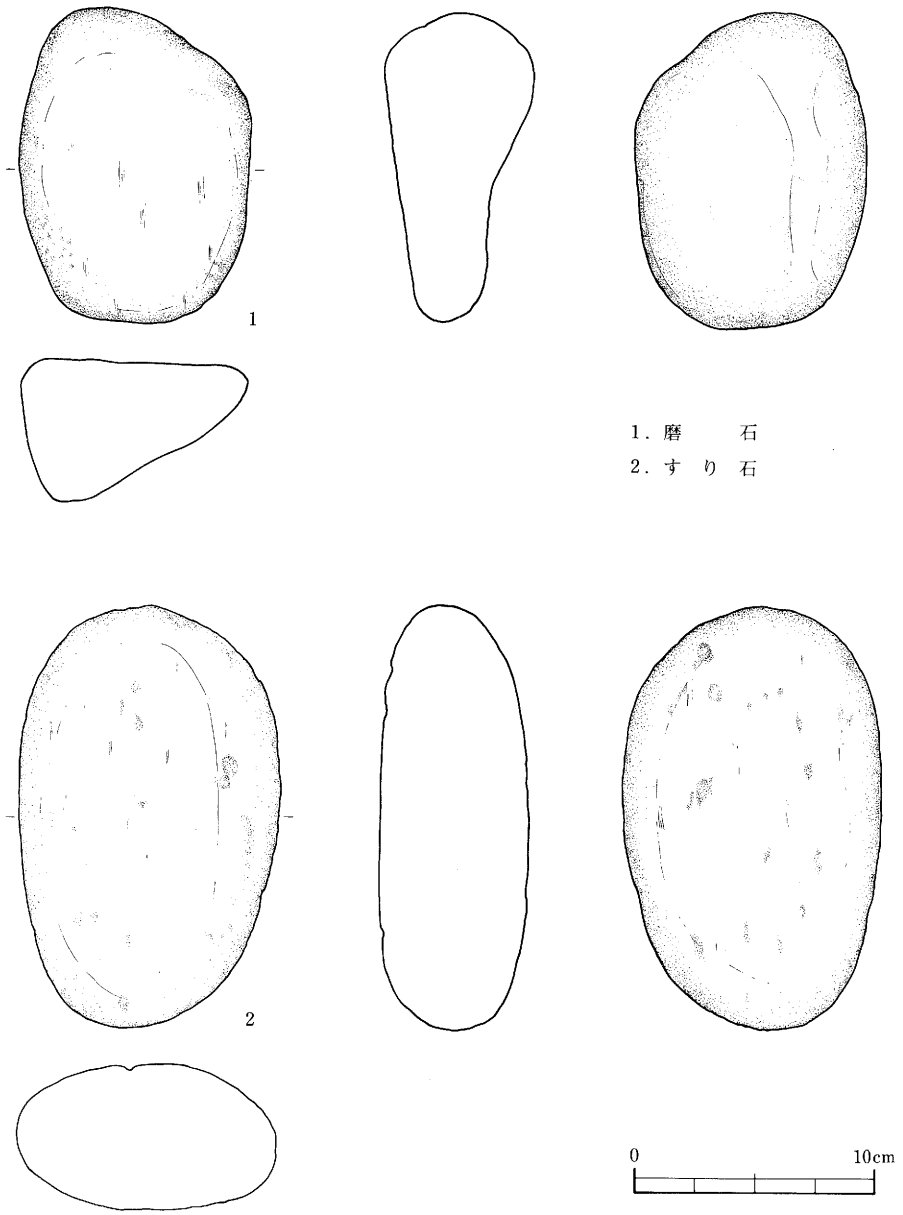
層位	土　色	土　性	備　考
1a	10YR 4/4褐色	シ ル ト	} 旧耕作土（畑）
1b	2.5Y 4/4オリーブ褐色	シ ル ト	
1c	2.5Y 4/4オリーブ褐色	シ ル ト	
2a	10R 4/4褐灰色	シ ル ト	
2b	10YR 5/3にぶい黄褐色	シ ル ト	
3	2.5Y 5/3暗灰黄色	シ ル ト	マンガン粒を斑状に含む
4	7.5YR 4/4褐色	シ ル ト	灰黄褐色粘土質シルトを斑状に含む
5a	10YR 5/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰黄褐色粘土質シルトを斑状に含む
5b	10YR 5/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	砂を少量含む
5c	10YR 5/3にぶい黄褐色	シルト質粘土	砂を多量に含む
6	10YR 5/3暗褐色	砂質シルト	砂及び径5㎜の礫を多量に含む
7	10YR 5/3にぶい黄褐色	砂	
8	10YR 5/3灰黄褐色	砂	径8～30cmの礫を多量に含む

小 溝 状 遺 構 観 察 表

規模 No.	上端幅 (cm)	全　長 (m)( )内は検出は長さ	方　向	深　さ (cm)	断面形	堆積土 土色	堆積土 土性	堆積土 粘性	堆積土 しまり	堆積土 備考	遺物	その他
1	25～35	(4)	N－13°－E	7～15		10YR 3/3暗褐色	粘土質シルト	あ り	ややあり	10YR 4/4褐色シルトを下層に含む		9号を切る
2	20～95	(6)	N－63°－E	5～30	浅い舟底形	1 10YR 3/3暗褐色	シルト質粘土	ややあり	あ り	10YR 4/3灰黄褐色シルトを斑状に炭化物・焼土を含む	弥生土器（甕）	4・5・6・7・8・9号に切られる
						2 10YR 3/3暗褐色	シルト質粘土	あ り	あ り	10YR 4/3灰黄褐色シルトを斑状に含む		
						3 10YR 3/3暗褐色	シルト質粘土	あ り	あ り	10Y 3/3黒褐色シルトをブロック状に炭化物・焼土を含む		
3	50～60	(2)	N－48°－W	2～5		10YR 3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	あ り	あ り	10YR 3/3暗褐色シルトをブロック状に含む		11号か？
4	10～30	2.1	N－9°－E	2～4		10YR 3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	あ り	あ り	10YR 3/3暗褐色シルトをブロック状に含む		2・9号を切る
5	25～55	(10.5)	N－26°－W	5～35	V字形	10YR 3/3暗褐色	粘　土	あ り	あ り	10YR 4/4褐色シルトをブロック状に含む	礫石器	2・6・8・9号を切る
6	30～50	(10.0)	N－50°－W	5～20	U字形	1 10YR 3/3暗褐色	シ ル ト	ややあり	な し	10YR 4/4褐色シルトを下面に少量含む		2号を切り、5号に切られる
						2 10YR 3/4褐色	粘　土	あ り	あ り	10YR 3/3にぶい黄褐色シルト、炭化物を含む		
7	15～25	(3.1)	N－52°－W	3～7		10YR 3/3暗褐色	シ ル ト	な し	あ り	10YR 3/3黄褐色シルトを斑状に炭化粒、焼土粒を少量含む		2号を切る
8	15～25	(6.1)	N－46°－W	5～25		10YR 3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	あ り	あ り	10YR 4/4褐色シルトを斑状に含む		5号に切られ、2号を切る
9	20～30	(12.7)	N－50°－W	2～22		10YR 3/3黒褐色	シ ル ト	な し	あ り	10Y 3/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に、炭化粒を少量含む		1・4・5・10号に切られ、2号を切る
10	25～40	(5.8)	N－12°－W	6～25	逆台形	10YR 3/3暗褐色	シ ル ト	あ り	あ り	炭化粒を少量含む		9・11号を切る
11	30～40	(4.6)	N－47°－W	5～15		10YR 3/3にぶい黄褐色	シ ル ト	ややあり	あ り	10YR 3/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む	弥生土器（甕）	10号に切られる
12	25～50	(7.5)	N－30°－W	5～16		10YR 3/3暗褐色	粘土質シルト	あ り	あ り	焼土粒、炭化粒を少量含む		
13	30～40	(5.6)	N－14°－W	6～26		10YR 3/3暗褐色	粘土質シルト	あ り	あ り	10YR 3/3にぶい黄褐色シルトを斑状に含む		
14	20～40	(1.2)	N－5°－W	5～20	U字形	10YR 3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	あ り	あ り	2.5Y 3/3黄灰色シルトを斑状に含む		3層上面からの掘り込み
15	10～25	(2.7)	N－55°－W	2～11		10YR 3/3暗褐色	シ ル ト	ややあり	あ り	10YR 3/3にぶい黄褐色シルトを斑状に含む	土師器	
16	15～35	(3.2)	N－14°－W	3～25	U字形	10YR 3/3にぶい黄褐色	シ ル ト	あ り	あ り	底面に径2～5㎜の礫を含む		3層上面からの掘り込み
17	20～45	(0.9)	N－63°－E	2～5		10YR 3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	あ り	あ り	10YR 3/3暗褐色シルト、炭化粒、焼土粒を斑状に含む		2層か？
18	20～25	(1.2)	N－41°－W	10～15		10YR 3/3暗褐色	シ ル ト	ややあり	あ り	10YR 3/3にぶい黄褐色シルトを斑状に含む		
19	15～30	(1.8)	N－30°－W	10	舟底形	10YR 3/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あ り	10YR 3/3にぶい黄褐色シルトを斑状に含む		5a層上面からの掘り込み

〔溝〕上端幅40～88cm、下端幅６～28cm、深さ50～67cmを計る。南半部は削平により、上端幅20～47cm、下端幅８～27cm、深さ20～49cmを計る。底面にはわずかに凹凸があり、北側及び東側の一部が深い。断面形は「V」字形または「U」字形を呈する。

〔溝内堆積土〕４層に大別される。第１層は暗褐色シルト層、第２層は灰黄褐色粘土質シルト層、第３層はにぶい黄褐色シルト層及び褐灰色粘土質シルト層、第４層はにぶい黄褐色粘土質



第３図　小溝状遺構出土礫石器実測図

シルト層である。各層位は自然堆積の様相を呈している。

〔台状部〕長径6.9m ×短径5.9m の不整円形を呈する。南半部は削平されている。封土等は認められず、残存部は平坦な面となっている。上面でピットを検出したが、堆積土が自然堆積を示すことから、台状部に関係する遺構とは考えにくい。

〔出土遺物〕堆積土１層中及び２層中より土師器片が各々３点、31層中より土師器片１点の計７点が出土している。底面からの出土遺物はない。いずれも細片で磨滅が著しく、図化したものは１点もない。

小溝状遺構　調査区西側で18条、円形周溝の下面で１条の計19条検出した。検出面は第３層上面と第４層上面、第５層上面である。第４層上面検出のものは、重複関係から２段階に分けることができる。

〔第３層上面〕第３層上面検出の小溝状遺構は、１・４・５・10・12・13・14・16号の８条である。これらはその中軸線方向がＮ－９°－ＥからＮ－30°－Ｗの間に収まり、遺構の間隔は約1.5～４m程である。出土遺物には、５号出土の磨面及び敲打痕のある礫石器２点（第３図）がある。

〔第４層上面〕第４層上面検出の小溝状遺構は、その中軸線方向と重複関係からＡ・Ｂの２群に分けることができる。

Ａ群はその方向がＮ－41°－ＷからＮ－52°－Ｗの間に収まるもので、３・６・７・８・９・11・15・18号の８条である。それらの間隔は15号を除けば、ほぼ0.7～1.3m と一定で平行関係を成している。重複関係はＢ群を切る。出土遺物には11号からまとまって出土した弥生土器の甕がある。破片数は９点で、全て体部のものである。外面は横位ＲＬ縄文の地文のみで、内面にはミガキが施されている。また、15号からは土師器甕の破片１点が出土している。

Ｂ群は２・17号で、これらは一部途切れるが同一の遺構と考えられる。２号からは弥生土器の破片を６点出土しており、Ａ群11号出土の甕と接合可能な同一個体の破片である。

〔第５ａ層上面〕円形周溝の下層、第５ａ層上面で19号を１条検出した。方向はＮ－30°－Ｗで、出土遺物はない。

ピット　調査区西側を中心に第３層及び第４層上面で検出した。総数は 138 個である。平面形、深さ等に一定の規則性は認められない。出土遺物もなく、性格は不明である。

４、ま　と　め

(1) 円形周溝　本調査区で検出した円形周溝の県内における類例には、名取市西野田遺跡(註１)、栗原郡志波姫町の鶴ノ丸遺跡（註２）のものがある。西野田遺跡では２基検出され、いずれも幅0.4～１m の溝が直径10m を越し、円形にめぐるものである。鶴ノ丸遺跡では５基検出され、幅0.4～2.2m の溝が直径６～12m の範囲で円形、あるいは楕円形にめぐるものである。報告書

では2遺跡とも、「墳墓とする積極的な根拠はないが、型態的類似性をもとに周溝墓の可能性を否定するものではない。」としている。

本調査区の場合も、就述のように時期及び性格を決定づける遺物の出土等がないことから、現段階では円形周溝と考えざるを得ない。しかし、本遺跡周辺の大野田地区には、埴輪を出土した大野田古墳群（註3）の他に、五反田古墳（註4）、鳥居塚古墳・春日社古墳（註5）、王ノ壇古墳などが集中して分布していることから、周溝墓あるいは円墳の可能性も残されていると考えられよう。

(2) 小溝状遺構 小溝状遺構は4群に分けられる。中でも第3層・第4層上面検出のものは、各々平行して走り、その方向・形状等から何らかのまとまりをもった遺構群と考えられる(註6)。しかし、その性格については不明である。小溝状遺構の時期は、堆積土からの出土遺物に弥生時代後期の天王山式期と考えられる弥生土器、礫石器の他、土師器片があり、また第4層上面からは土師器坏（非ロクロ）の小破片2点が出土していること等から、古墳時代と考えられる。

(3) ピット 性格は不明であるが、小溝状遺構を切っており、時期は小溝状遺構より新しいと考えられる

以上が調査の概略であるが、円形周溝については、今後とも隣接した地区で同様の遺構、あるいは埋没古墳等が発見される可能性は残されており、資料の蓄積を待って検討を加える必要があろう。小溝状遺構も周辺の地区での発見例があり、科学的な分析の積極的導入も含め、性格の究明が急がれるべきである。また、弥生土器の出土は、隣接した地区における弥生時代の遺構の存在を暗示するものであり、今後の調査を待って検討して行きたい。

註・参考文献

註1　宮城県教育委員会「西野田遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書(1)』宮城県文化財調査報告書第35集　1974、3

註2　宮城県教育委員会「鶴ノ丸遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅴ』宮城県文化財調査報告書第81集　1981、6

註3　仙台市教育委員会「大野田古墳群」『年報3』仙台市文化財調査報告書第41集　1982、3

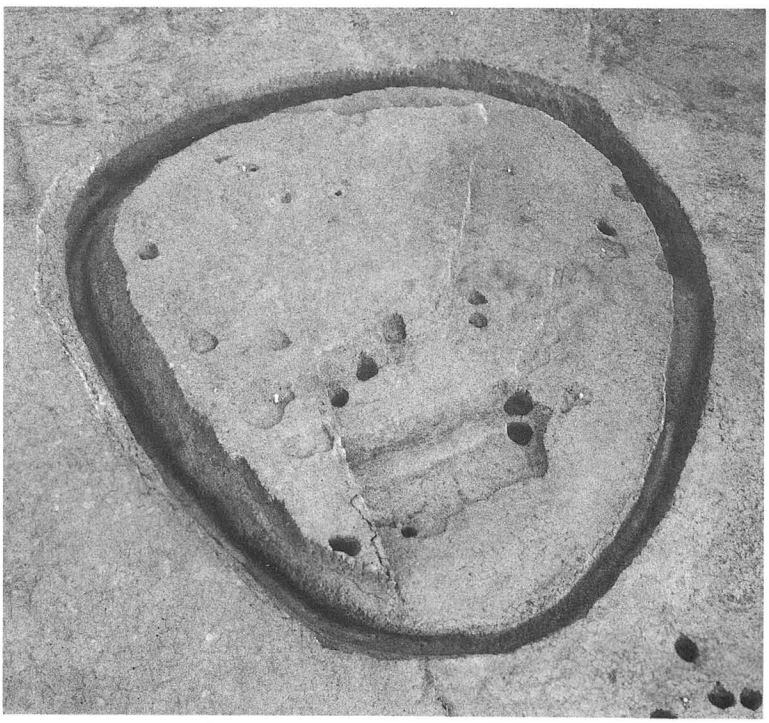
註4　仙台市教育委員会『六反田遺跡』仙台市文化財調査報告書第34集　1981、12

註5　仙台市教育委員会『鳥居塚・春日社古墳』発掘調査現地説明会資料　1978、1

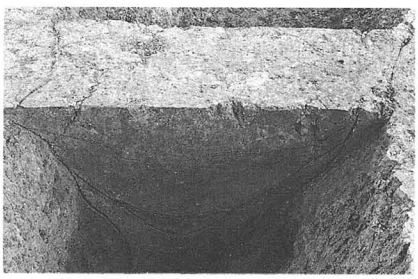
註6　このような小溝状遺構の類例としては、本遺跡の近隣では、六反田遺跡（註4に同じ）、山口遺跡（『山口遺跡Ⅱ』・仙台市文化財調査報告書第61集・1984・2）の他、下ノ内遺跡(『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ～Ⅲ』・仙台市文化財調査報告書第40・56・69集)、下ノ内浦遺跡(『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ』・仙台市文化財調査報告書第56集）などでの検出例がある。現段階では、畑跡とする理解もあるが、この考えを裏付ける遺物等報告は行われていない。

（金森安孝・渡辺　誠）

図版1
調査区全景
（西より）

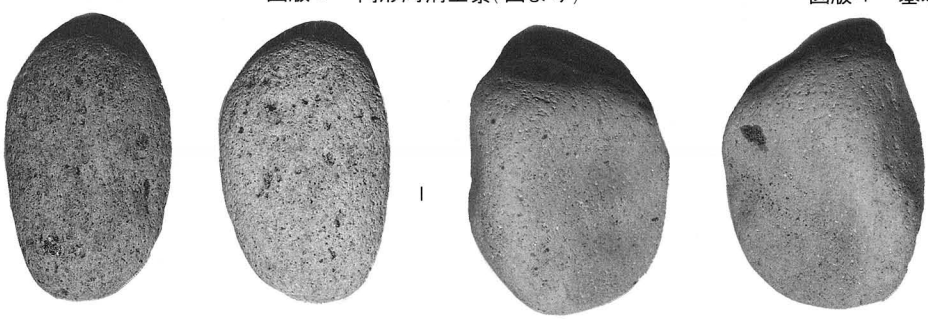


図版2　円形周溝全景（西より）



図版3　円形周溝セクション（B地点）

図版4　基本層位セクション（調査区南東角）



1　2

図版5
5号小溝状遺構
出土礫石器（1・2）

Ⅲ．そ　の　他

郡山遺跡第１次五ケ年発掘調査の概要

１．はじめに

昭和55年度から開始された郡山遺跡の発掘調査は昭和59年度で第１次５ケ年計画案に基づく発掘調査を終了し、郡山一丁目から六丁目にわたる遺跡推定範囲72万㎡の中で、第１次から第49次までの49地区についての発掘調査を実施した。５ケ年計画の調査が開始される前年度の昭和54年度に実施した宅地造成に伴う事前調査を含め、この６ケ年の調査総面積は10,058㎡に及ぶが、遺跡全域の中での調査進直率はわずか1.5%にすぎない。

当初想定された三町半ほどの官衙域は西方と北方に拡大し、方四町の占地をしていることが確認され、古くから知られていた古瓦散布地は官衙とともに造営された寺院跡であることが判明した。また、これらの方四町官衙、寺院が造営される前段階に方六町前後と推定される官衙が存在していたことも明らかになった。これまでの各年度の報告の中で、古い段階の官衙をⅠ期官衙、新しい段階の官衙をⅡ期官衙、寺院跡をⅡ期並行寺院跡としており、これに従って５ケ年の発掘調査の概要を報告したい。

２．遺構の変遷

発見された遺構群は大別すれば５段階に分けられる。次のとおりである。

〔第１段階〕　古墳時代中期の遺物が含まれる溝跡。

〔第２段階〕　竪穴住居跡によって構成され、７世紀代と考えられる、在地の土器に混じって関東系（鬼高式類似）土師器がみられる。

〔第３段階〕　掘立柱建物跡、材木列、一本柱列、竪穴住居跡によつて構成される官衙遺構群で、遺構群の範囲は五町以上に及び、７世紀後半代と考えられる。この段階の官衙をⅠ期官衙とする。

〔第４段階〕　第３段階とほぼ同様の遺構によって構成され、方四町の外郭を持っ官衙遺構群と、官衙の南側に位置する推定方二町の寺院を構成する遺構群とからなる。７世紀末葉から８世紀初頭と考えられる。この段階の官衙をⅡ期官衙、寺院をⅡ期併行寺院とする。

〔第５段階〕　井戸跡、小掘立柱建物群によって構成され、中世以降と考えられる。

これらの遺構群のうち、官衙遺構として主体をなす第３段階のⅠ期官衙と第４段階のⅡ期官衙および、Ⅱ期併行寺院についての概要をまとめてみたい。

（1）Ⅰ期官衙

東西400ｍ以上、南北600ｍ以上にわたって広がっており、造営基準方向はＮ－30°－Ｅ前後である。掘立柱建物跡、竪穴住居跡、材木列などによって構成されており、外郭、政庁とも不明であるが、建物跡が整然と並び、門を伴う材木列によって囲まれた一画二院などがある。°この官衙ブロックは東西51～54ｍ、南北60ｍ以上の南北に長いもので、建物跡や塀跡は３回程の変遷がみられる。この官衙ブロックの中では掘立柱建物と竪穴住居が並置されており、これらの竪穴住居は、官衙内での厨・竈屋等の施設と考えられる。また、この官衙ブロックとは別に直径30cm以上、70～80cmの柱材を使用した総柱建物による一群があり、これは倉庫ブロックと考えられる。さらにこの倉庫ブロックの南には桁行８間以上にもなる長大な建物跡があり、国衙政庁脇殿、郡衙政庁長屋等の建物に比定されるものである。

Ⅰ期官衙については不明な部分が多く、性格も判然としないが、官衙の存続年代は７世紀の中葉を上限とし、末葉を下限とする７世紀の後半代と考えられ、この中で少くとも３期程の変遷がみられ、次に続くⅡ期官衙との間に、現段階では断続期間を認め難く、Ⅱ期官衙の造営に伴い、意図的に取り壊された可能性が高いほのと考えられる。

（2）Ⅱ期官衙

東西428ｍ、南北422ｍのほぼ方四町を呈し、造営基準方向はＮ－0°－Ｓの真北方向である。外郭は材木列による塀とその外側の大溝から成り、材木列は直径30cm前後のクリ丸材を密接して立て並べており、修築や抜き取りが行なわれた形跡が認められないことから、官衙の廃絶段階まで機能していたものとみられる。この外郭材木列の南西隅と西辺には、材木列と一体となった櫓状建物跡があり、外郭の各コーナーおよび、各辺の要所にはこのような建物が付設されていたことが考えられるが、櫓状建物の間隔、門との配置関係、および建物の性格については不明である。

材木列外側の大溝は、材木列との心心間隔8.5～９ｍで、ほぼ30尺と規則的に造られている。大溝は上幅３～５ｍ、深さ60～80cmで、断面形は扁平Ｕ字形ないしは逆台形を呈しており、後世の二次攪乱・削平等により、幅・深さが一定でない。しかし、上幅に比して浅く、外部からの侵入を阻む防禦機能を持っていたとはみられないもので、形式的な区画の溝とみておきたい。大溝は推積度の状況や遺物出土状況などからみて、恒常的に貯水していたとは考え難く、短期間のうちに人為的に埋め戻されたことも考えられる。

官衙内部の建物は、南東コーナー付近から、３期程の重複関係をもって、掘立柱建物跡が15棟程検出されている他は、外郭南辺より北に３町の位置で、東西方向に延びる一本柱列とその北側に建物跡３棟が重複して検出されたが、建物跡、住居跡、井戸跡、小溝跡などが散在的にみられるのみで、内部の状況は始んど解明されていない。政庁もまだ明らかでないが、北側二

町と南側一町には存在し得ないことが明らかであり、南北中軸線上に位置するものであれば、南二町の範囲内に推定することができよう。

このⅡ期官衙は前述したⅠ期官衙の廃絶後、断続なく造営が開始されたものと考えられ、造営の上限は7世紀末葉、下限は外郭大溝1層出土の土器群、ならびに併設された寺院に使用された瓦の検討から陸奥国府多賀城跡の創建年代である養老から神亀年間の前後と考えられ、国府の造造と相前後して意図的に廃絶された可能性が高い。

（3）Ⅱ期官衙併設寺院

Ⅱ期官衙の南側に、一町隔て、方二町程度と推定され、Ⅱ期官衙西辺の南延長線が寺域の西限と考えられることから、官衙と同一基準地割で造営されたものとみられる。寺院中枢建物群は推定範囲の中でもその中心部の極めて限られた地区にあるものと考えられる。

推定域内中心部からは、東西32m以上、南北12m以上の範囲で基壇の版築を検出し、これを講堂跡と推定しており、この周辺からは多量の瓦類が出土している。軒瓦は八葉単弁蓮華文とロクロ挽き重弧文によるセットで、一様式のみである。また、通常の瓦類にまじって、無文の鴟尾片が多数出土している。さらに寺院域で検出した井戸跡より、「学生」「寺」銘や写経用定木（裏面に経文を習書）などの木簡が出土しており、寺院の存在を裏づけている。

造営年代はⅡ期官衙と同様、Ⅰ期官衙の終末と考えられる7世紀末葉を上限とし、軒瓦のセット関係が多賀城創建期の瓦より一段古い様相を示していると考えられることから、8世紀初頭を下限としておきたい。

昭和54年に実施された事前調査を含めて、この6ケ年の発掘調査で、遺跡全面積の約1,5％しか調査が終了しておらず、検討すべき課題は山積している。昭和60年度からの第2次5ケ年調査の中で、細部にわたる年代検討とあわせ、官衙の性格を究明する必要があろう。

官衙・寺院の年代観については先に述べた通りであるが、7世紀後半から8世紀初頭の時代は645年の大化改新から、藤原宮の造営を経て、710年の平城遷都まで、日本の古代社会の激動の時期である。次々と急激な変革が断行され、律令体制が整備されるという社会状勢の中で、この官衙・寺院の性格を究明することは、これまで辺境視されていた陸奥国に中央の支配力がどのような形で及んできたのかを解明する重要な問題を含んでいる。さらに陸奥国古代史の中での郡山遺跡の位置づけについても考古学・古代史両面からの検討を加えていく必要があろう。

尚、詳細については、仙台市文化財調査報告書（以下、仙文調）第23集「年報1」（昭和55年3月）、仙文調第29集「郡山遺跡Ⅰ」（昭和56年3月）、仙文調第38集「郡山遺跡Ⅱ」（昭和57年3月）、仙文調42集「郡山遺跡」（昭和57年3月）、仙文調第46集「郡山遺跡Ⅲ」（昭和58年3月）、仙文調64集「郡山遺跡Ⅳ」（昭和59年3月）、仙文調第74集「郡山遺跡Ⅴ」（昭和60年3月）の中で、各年度の概要を参照されたい。

（木村浩二）

「東北古代稲作に関するシンポジウム」　参加報告

1．はじめに

今回のシンポジウムは、青森県南津軽郡田舎館村垂柳遺遺跡において東北地方で最初に検出された弥生時代中期の水田跡を中心として、仙台市富沢水田遺跡を含め、全国的な視野に立ち、東北地方の古代の稲作の内容を把握しようと企画されたものである。参加者はパネラー・司会者の他合わせて50余名を数え、特に田舎館村の関係者の参加が目を引いた。仙台市からは、斎野裕彦・工藤哲司が参加し、工藤がパネラーを務めた。

2．開催要項

日時　　昭和59年11月24日（土）から25日（日）

場所　　厚生年金会館青森おのえ荘　（青森県南津軽郡尾上町猿賀）

主催　　東北稲作史研究会

世話人　東北大学名誉教授　伊東　信雄

　　東北大学名誉教授　藤原　彰夫

後援　　青森県教育委員会　田舎館村教育委員会

3．第1日目―問題提出　（11月24日　9時30分から17時）

伊藤信雄東北大学名誉教授の挨拶の後、問題提出として考古学側から7名自然科学側から5名の発表があった。考古学側の発表では、遠藤（青森県埋蔵文化財センター）・児玉（秋田県埋蔵文化財センター）両氏と工藤から弥生時代の稲作が東北地方で行なわれていたことの空間的な広がりが示され、小林（八戸市博物館）・鈴木（青森県立郷土館）両氏は、東北地方の稲作の開始期がさらに古くなる可能性を示すデータを提出した。また須藤氏（東北大学助教授）は稲作文化に伴なう石包丁の分類とその石材の産地について述べ、工楽氏（奈良国立文化財研究所）は西日本の水田跡を紹介し、全国的な見地から垂柳遺跡の水田跡を位置づけた。自然科学側では、垂柳遺跡の土壌分析を松井氏（地域開発コンサルタント）が、プラント・オパール分析を藤原氏（宮崎大学助教授）が発表し、松井氏からは、水田跡を覆う5層が火山灰ではないことが示された。また小野氏（青森県農業試験場）は垂柳遺跡を含む弘前周辺は自然災害が青森県の他の地域と較べ少ないこと、気候的に安定していることを述べ、星川氏（東北大学教授）は中国から取り寄せた極早生種の栽培実験結果から、垂柳遺跡にもたらされた稲は、極早生種である可能性が強いと自説を開陳した。最後の中村氏（高知大学名誉教授）は、垂柳遺跡と青森県月見野の分析結果からB．P．3000年以降、B．P．1000年頃までの気候変化を示した。

以上の発表は各氏持ち時間20分ではあったが、大半の方が時間をオーバーし、質問もなされ、第2日の意見交換の準備が整った。

4．第２日―意見交換　（11月25日　９時30分から12時）

朝方の降雪のため、窓の外は一面の銀世界となっていたが、会場は参加者の熱気に包まれ、３時間がまたたく間にすぎた。

意見交換は、垂柳遺跡の水田跡を中心として、

1，稲作が可能となった条件
2，稲作技術の高さ
3，稲作の開始された実年代
4，その後の稲作
5，北海道での稲作の可能性。
6，今後の研究

という順に進められた。

１については、第１日の小野氏の発表に加え、島田氏（コープケミカルK,K,）より日本海側には山背の影響の少ない盆地が多く、気候的に安定しているという意見が出され、星川氏が、そこに入ってきた極早生種が感温性種であった可能性を述べた。

２では、庄子氏（東北大学教授）が弥生時代の水田が湿田から始まったことを、用水確保、潜在地力、立地の面を根拠として述べ、藤原（彰）氏（東北大学名誉教授）がスマトラの水田の移り変わりから、そのどの時期のものが日本へ入ってきたかが問題とされる旨の発言があった。また工楽氏は、弥生時代の水田が湿田ある程度完成された姿で日本へ入ってきているが、畿内と九州における農具の差や、岡山県津島遺跡では前期に乾田経営が行なわれていることを述べ、土壌については今後の課題とするとした。

３については、^{14}C 年代測定値による討論となったが、およそ紀元０年をややさかのぼるところに落ち着いた。

４では、垂柳遺跡で弥生時代以降久しく水田が営なまれなかったのは、土壌的な要因はあるが、星川氏により栽培されたのが極早生種であったことによるとする意見が出された。

５については、函館市立博物館の千代氏が、道南の遺物には弥生的なものと非弥生的なものがあり、水田跡の検出される可能性はあるとする発言を行なった。

６，村越氏より、今回のシンポジウムを今後に生かしていただきたいとの挨拶で意見交換を終った。

午後は田舎館村の資料を見てシンポジウムは幕を閉じた。

5．おわりに

２日間にわたったシンポジウムは、垂柳遺跡を中心として行なわれたが、それは昭和35年に伊東氏が東北北半でも弥生時代に稲作が行なわれていたことを「東北北部の弥生式土器」と題して発表したことが実証されたわけであり、伊東氏を中心として長い間研究を続けてきた東北各地の研究者の努力が実ったことを示すものであった。

（斎野裕彦）

山口遺跡土壌のプラントオパール分析

大分短期大学　講師　佐々木　章

1．はじめに

仙台市富沢水田遺跡は、我国の北方に位置する広範囲な水田跡として注目されている。このたび富沢1丁目10番8号の発掘が行なわれ、遺跡土壌のプラントオパール分析の機会を得たので結果を報告する。（調査成果は市文化財報告書第75集『仙台平野の遺跡群Ⅳ』所収）

2．プラントオパール分析法

分析に用いた機動細胞プラントオパールは、イネをはじめ、ススキ・ヨシ・タケなどイネ科植物の葉身中に存在する珪化機動細胞に由来する土粒子である。従って埋没水田土層中には、そこで生産されたイネに由来するイネ機動細胞プラントオパールが多数含まれている。

土壌中の機動細胞プラントオパール密度と植物体中の珪化機動細胞量から、過去の植生やイネの生産量を推定する方法をプラントオパール定量分析法と呼んでいる。分析の手順を図1に示す。

あらかじめ一定量のガラスビーズを土壌試料に混入してから、粘土除去などの調整を行ない、プレパラートを作成する。次に顕微鏡下で、ガラスビーズに対する目的のプラントオパールの割合を求めて、土壌中のプラントオパール密度を計算する。さらに植物体中の珪化機動細胞量（表1）を用いて、植物体重に換算することができる。

3．結果・考察

遺跡土壌中の機動細胞プラントオパール密度を図2に示す。イネについては植物体重ともみ重に換算して図3に示す。穂刈が行なわれており、土壌の移動が無かったとすれば、珪化機動細胞の全量が土壌中に残されていることになるので、分析結果は生産されたイネ地上部乾重と、もみ重に相当する。分析結果は面積10ａ、厚さ1㎝の土層中に含まれるイネ機動細胞に相当するイネ量で示してあり、年間収量では無いので注意されたい。

イネ機動細胞プラントオパールは1層から4層にかけて多量に検出される。5層以下、8層上部に至るまで、少量ながら検出される。

4層と7層に小さなピークが認められるが4層中の全イネ機動細胞プラントオパール量を生産されたもみ量に換算すると11.3t/10aに相当する。7・8層中の全量は、もみ量に換算して1.1t/10aに相当する。

穂刈でなく、株刈であったとすると、葉身も圃場外に持ち出してしまうため実際の生産量は、圃場内に残された葉身に由来する値から求めた量の20倍も多い。4層で230t/10a、7・8層で22t/10aのもみが生産されたことになる。

この地点の全層に含まれるイネ機動細胞プラントオパール量は、128t/10aのもみ量に相当

株刈で、イナワラが圃場にもどされていなけれ2560t/10aのもみに相当する。

年間収量は不明だが、今、仮に平安時代から1000年間水田が営まれ、平均収量が、もみにして200kg/10a・年とすると 200t/10aのもみが生産されたことになる。これは穂刈として計算した値の2.5倍、株刈として計算した値の1/3にあたる。比較的におそくまで穂刈に近い状態であったのかも知れない。

ヨシ属機動細胞プラントオパールは、8層を中心に7層から9層にかけて多く検出された。8層は、おそらく湿地で、水田が営まれるようになってから乾田化したものであろう。

キビ族は5層より上部と、8・9層で多く検出される。キビ族機動細胞の細分は、つまびらかになっていないので、同定はできないが、キビやアワ、ヒエなどの雑穀類が含まれる。湿地にヒエ田が営まれた可能性についても考慮する必要があろう。

4．結　　論

1．4層までは水田の可能性が高い。5層以下、8層までイネ機動細胞プラントオパールが検出される。

2．4層と7層に小ピークが認められるが、穂刈とすると4層で11.3t/10a、7・8層で1.1t/10aに相当する。株刈とすれば230t/10a，22t/10aに相当する。

3．この地点では今までに、穂刈のもみ128t/10aに相当するイネ機動細胞プラントオパールが含まれている。株刈では2560t/10aに相当する。

4．平安時代から今まで平均200kg/10a年のもみ収量があったとすると、200t/10aのもみが生産されたことになる。これは穂刈として計算した値と、株刈として計算した値の中間にあたるが穂刈として計算した値により近い。

5．ヨシ属機動細胞プラントオパールの推移から、8層は湿地で、6層以後乾田化したものであろう。

6．キビ族機動細胞プラントオパールの詳細は明らかでないが、8・9層の湿地でヒエ田が営まれた可能性を考慮する必要がある。

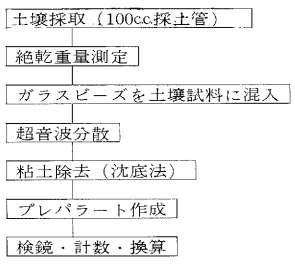


図1　プラントオパール定量分析手順

表1　植物体中の珪化機動細胞

		×10⁴個/g
イネ	Oryza sativa	3.43
ヨシ	Phragmites Communis	1.44
ヒエ	Echinochloa Utilis	0.23
ゴキタケ	Bambusaceae	20.83
ススキ	Miscanthus sinensis	2.79

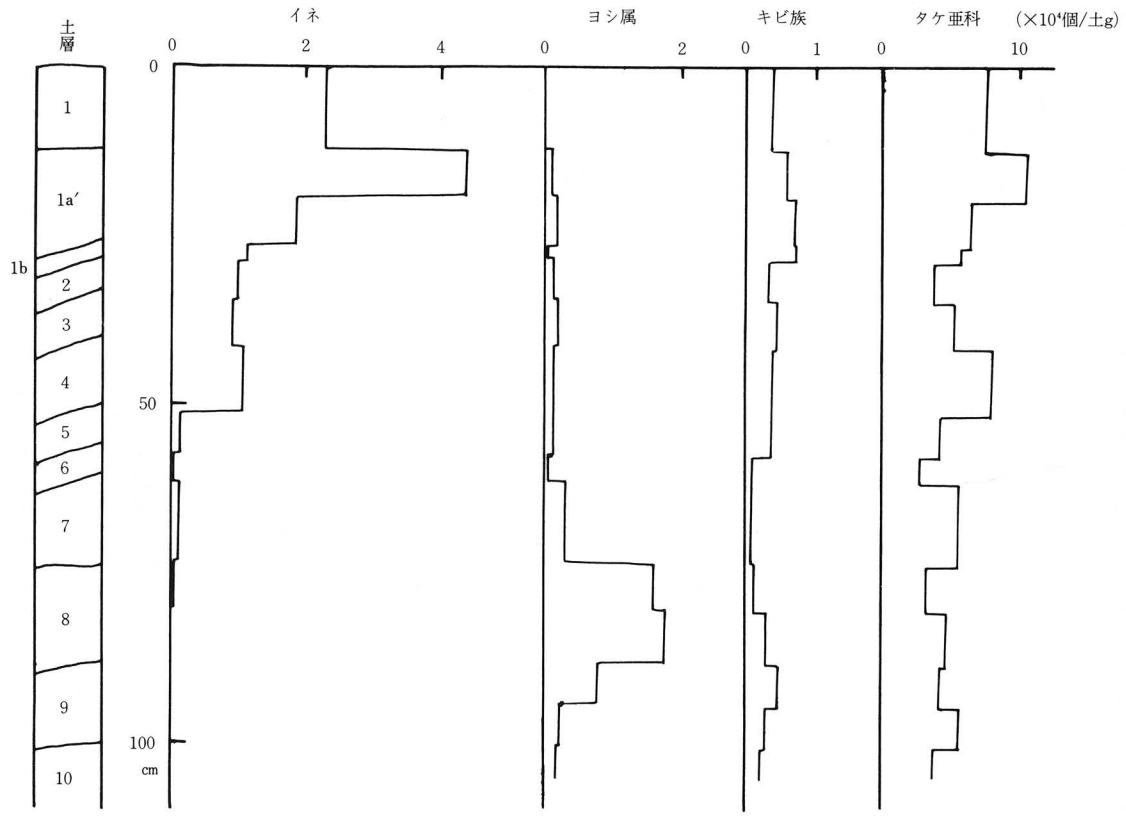


図2　土壌中のプラントオパール密度

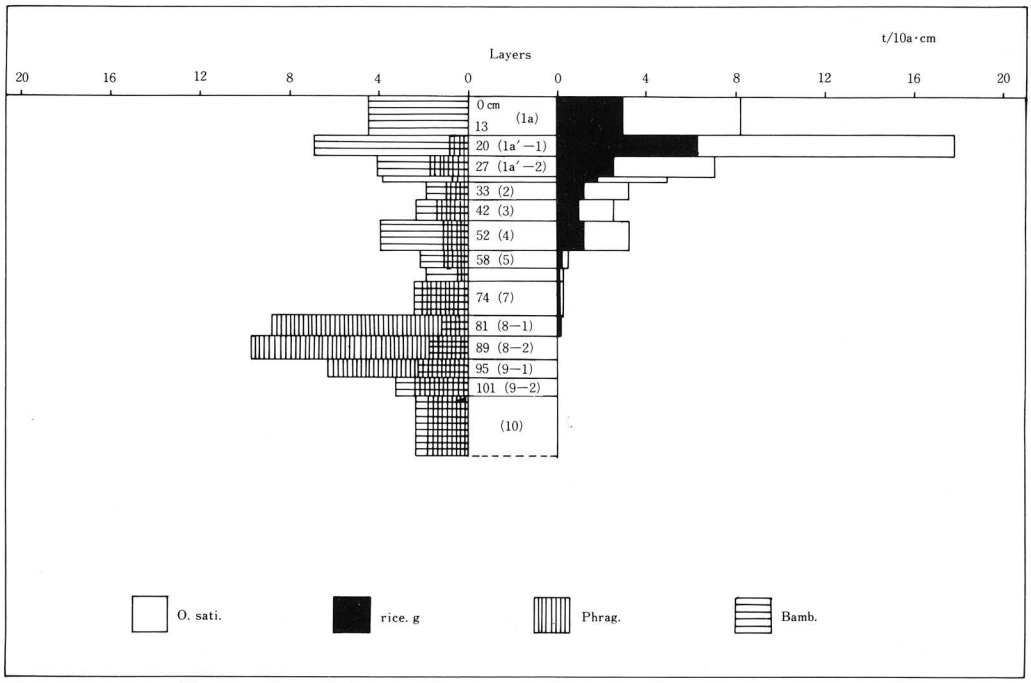


図3　土壌中のプラントオパール密度から推定したイネ科植物生産量

職　員　録

社会教育課

課　長	阿部　達
主　幹	早坂春一

文化財管理係

係　長	佐藤政美
主　事	岩沢克輔
〃	山口　宏

文化財調査係

係　長	佐藤　隆
主　事	田中　則和
〃	結城　慎一
教　諭	管原　和夫
主　事	木村　浩二
〃	篠原　信彦
教　諭	小野寺和幸
〃	佐藤美智雄
主　事	佐藤　洋
〃	金森　安孝
〃	佐藤　甲二
主　事	吉岡恭平
〃	工藤哲司
〃	渡部弘美
教　諭	渡辺　誠
主　事	主浜光朗
〃	斎野裕彦
〃	長島栄一
〃	及川　格
教　諭	千葉　仁
〃	松本清一
派遣職員	高橋勝也

仙台市文化財調査報告書刊行目録

第１集　天然記念物霊屋下セコイヤ化石林調査報告書（昭和39年４月）
第２集　仙台城（昭和42年３月）
第３集　仙台市燕沢善応寺横穴古墳群調査報告書（昭和43年３月）
第４集　史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年３月）
第５集　仙台市南小泉法領塚古墳調査報告書（昭和47年８月）
第６集　仙台市荒巻五本松窯跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
第７集　仙台市富沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年３月）
第８集　仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年５月）
第９集　仙台市根岸町宗禅寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年３月）
第10集　仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年３月）
第11集　史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年３月）
第12集　史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年３月）
第13集　南小泉遺跡―範囲確認調査報告書―（昭和53年３月）
第14集　粟遺跡発掘調査報告書（昭和54年３月）
第15集　史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年３月）
策16集　六反田遺跡発掘調査（第２・３次）のあらまし
第17集　北屋敷遺跡（昭和54年３月）
第18集　枡江遺跡発掘調査報告書（昭和55年３月）
第19集　仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年３月）
第20集　史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年３月）
第21集　仙台市開発関係遺跡調査報告１（昭和55年３月）
第22集　経ヶ峯（昭和55年３月）
第23集　年報１（昭和55年３月）
第24集　今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年８月）
第25集　三神峯遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）
第26集　史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年３月）
第27集　史跡陸奥国分寺跡昭和55年度発掘調査概報（昭和56年３月）

第28集　年報２（昭和56年３月）
第29集　郡山遺跡Ⅰ－昭和55年度発掘調査概報－（昭和56年３月）
第30集　山田上ノ台遺跡発掘調査概報（昭和56年３月）
第31集　仙台市開発関係遺跡調査報告Ⅱ（昭和56年３月）
第32集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第33集　山口遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第34集　六反田遺跡発掘調査報告書（昭和56年12月）
第35集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第１次調査報告（昭和57年３月）
第36集　北前遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第37集　仙台平野の遺跡群Ⅰ－昭和56年度発掘調査報告書－（昭和57年３月）
第38集　郡山遺跡Ⅱ－昭和56年度発掘調査概報－（昭和57年３月）
第39集　燕沢遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第40集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ（昭和57年３月）
第41集　年報３（昭和57年３月）
第42集　郡山遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査－（昭和57年３月）
第43集　栗遺跡（昭和57年８月）
第44集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和57年12月）
第45集　茂庭－茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第46集　郡山遺跡Ⅲ－昭和57年度発掘調査概報－（昭和58年３月）
第47集　仙台平野の遺跡群Ⅱ－昭和57年度発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第48集　史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報（昭和58年３月）
第49集　仙台市文化財分布調査報告Ⅰ（昭和58年３月）
第50集　岩切畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第51集　仙台市文化財分布地図（昭和58年３月）
第52集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第２次調査報告（昭和58年３月）
第53集　中田畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第54集　神明社窯跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第55集　南小泉遺跡－青葉女子学園移転新営工事地内調査報告（昭和58年３月）
第56集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ（昭和58年３月）
第57集　年報４（昭和58年３月）
第58集　今泉城跡（昭和58年３月）
第59集　下ノ内浦遺跡（昭和58年３月）
第60集　南小泉遺跡－倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第61集　山口遺跡Ⅱ－仙台市体育館建設予定地－（昭和59年２月）
第62集　燕沢遺跡（昭和59年３月）
第63集　史跡陸奥国分寺跡昭和58年度発掘調査概報（昭和59年３月）
第64集　郡山遺跡Ⅳ－昭和58年度発掘調査概報－（昭和59年３月）
第65集　仙台平野の遺跡群Ⅲ－昭和58年度発掘調査報告書－（昭和59年３月）
第66集　年報５（昭和59年３月）
第67集　富沢水田遺跡－第１冊－泉崎前地区（昭和59年３月）
第68集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第３次調査報告（昭和59年３月）
第69集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ（昭和59年３月）
第70集　戸ノ内遺跡発掘調査報告書（昭和59年３月）
第71集　後河原遺跡（昭和59年３月）
第72集　六反田遺跡Ⅱ（昭和59年３月）
第73集　仙台市文化財分布調査報告書Ⅱ（昭和59年３月）
第74集　郡山遺跡Ⅴ－昭和59年度発掘調査概報－（昭和60年３月）
第75集　仙台平野の遺跡群Ⅵ（昭和60年３月）
第76集　仙台城三ノ丸跡発掘調査報告書（昭和60年３月）
第77集　山田上ノ台遺跡－昭和59年度発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第78集　中田畑中遺跡－第２次発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第79集　欠ノ上Ⅰ遺跡発掘調査報告書（昭和60年３月）
第80集　南小泉遺跡－第12次発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第81集　南小泉遺跡－第13次発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第82集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅵ（昭和60年３月）
第83集　年報６（昭和60年３月）
第84集　仙台市文化財分布調査報告書Ⅲ（昭和60年３月）

仙台市文化財調査報告書第83集

昭和59年度

年　　報　　6

昭和60年３月

発行　仙台市教育委員会

仙台市国分町３－７－１

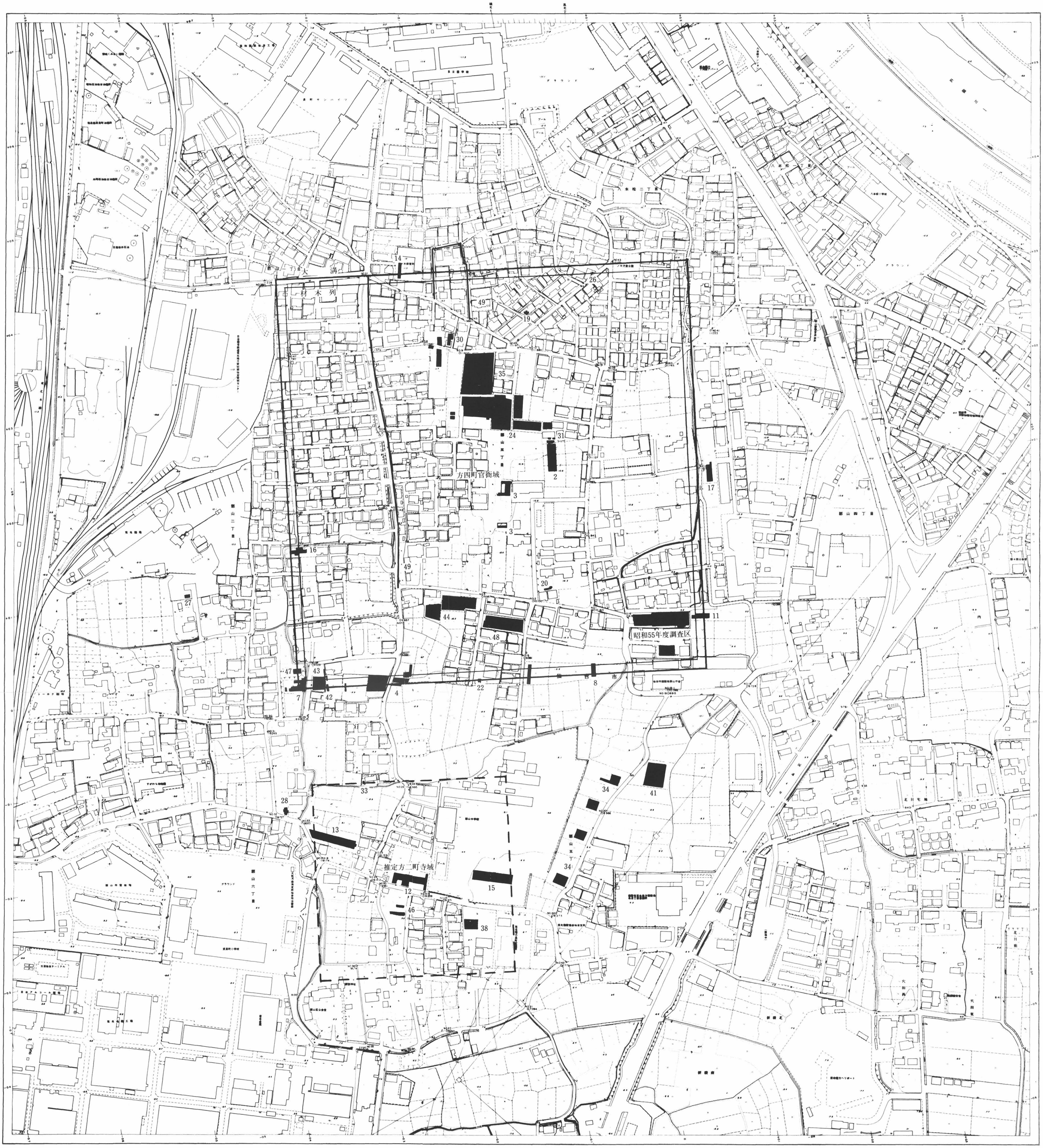
仙台市教育委員会社会教育課

印刷　針生印刷株式会社

仙台市六丁の目西町１－３８

ＴＥＬ２８８－５０１１

郡山遺跡現況平面図



国際航業株式会社調製

測　図　昭和56年8月　プラニマートD2、ステレオプロッターA8
調　査　昭和56年8月

座　標　系　No.1(X=0, Y=0)を通る磁北線を基準としてある。
等高線間隔　1m

1:2,000

0　100　200　300　400 m